

官報

號外

大正十五年三月二十四日 水曜日

內閣印刷局

○第五十一回 衆議院議事速記録第二十五號

大正十五年三月二十三日(火曜日)午後一時二十八分開議

議事日程 第三十四號

大正十五年三月二十三日

午後一時開議

- 第一 (第一號) 大正十五年度歲入歲出總豫算追加案
- 第二 (第二號) 大正十五年度歲入歲出總豫算追加案
- 第三 (特第一號) 大正十五年度各特別會計歲入歲出豫算追加案
- 第四 (第三號) 大正十五年度歲入歲出總豫算追加案
- 第五 (特第二號) 大正十五年度各特別會計歲入歲出豫算追加案
- 第六 獸醫師法案 (政府提出、貴族院送付)
- 第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第八 民事訴訟費用法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)
- 第九 民事訴訟用印紙法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)
- 第十 商事非訟事件印紙法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)
- 第十一 非訟事件手續法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)
- 第十二 人事訴訟手續法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)
- 第十三 競賣法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)
- 第十四 民法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)
- 第十五 破產法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)

- 第十六 明治三十二年法律第五十號中改正法律案 (外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル件) (政府提出、貴族院送付)
- 第十七 刑事訴訟法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)
- 第十八 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十九 產業組合法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)
- 第二十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第二十一 民事訴訟法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)
- 第二十二 民事訴訟法中改正法律施行法案 (政府提出、貴族院送付)
- 第二十三 暴力行為等處罰ニ關スル法律案 (政府提出)
- 第二十四 王公族ノ權義ニ關スル法律案 (政府提出、貴族院送付)
- 第二十五 土地貸賃價格調查法案 (政府提出)
- 第二十六 移住組合法案 (樋口秀雄君外七名提出)
- 第二十七 漁業法中改正法律案 (谷原公君外二名提出)
- 第二十八 漁業財團抵當法中改正法律案 (中村嘉壽君提出)
- 第二十九 民事訴訟法中改正法律案 (谷原公君外一名提出)
- 第三十 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案 (望月圭介君外二十二名提出)

- 第三十一 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案 (林田龜太郎君外一名提出)
- 第三十二 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案 (東武君外二名提出)
- 第三十三 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案 (廣瀬德藏君外二名提出)
- 第三十四 治安警察法中改正法律案 (清瀨一郎君外一名提出)
- 第三十五 治安警察法中改正法律案 (安藤正純君外三名提出)
- 第三十六 治安警察法中改正法律案 (田中善立君外二名提出)
- 第三十七 大阪市ニ關スル法律案 (廣瀬德藏君外一名提出)
- 第三十八 神戸市ニ關スル法律案 (砂田重政君外三名提出)
- 第三十九 名古屋市ニ關スル法律案 (田中善立君外一名提出)
- 第四十 京都市ニ關スル法律案 (森田茂君外六名提出)
- 第四十一 橫濱市ニ關スル法律案 (平沼亮三君外二名提出)
- 第四十二 寺院境內內地無償下戻ニ關スル法律案 (安藤正純君外四名提出)
- 第四十三 寺院境內內地無償下戻ニ關スル法律案 (福井甚三君外四名提出)
- 第四十四 古社寺保存法中改正法律案 (田中芳逸君外四名提出)
- 第四十五 會計検査院法中改正法律案 (武藤山治君外一名提出)
- 第四十六 牧野法案 (八田宗吉君提出)
- 第四十七 造林助成法案 (東武君外十名提出)

- 第四十八 違警罪即決例中改正法律案 (橫山勝太郎君提出)
- 第四十九 違警罪即決例廢止法律案 (原夫次郎君外三名提出)
- 第五十 家祿引直處分法案 (隅田豐吉君外五名提出)
- 第五十一 家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案 (福田五郎君外七名提出)
- 第五十二 北海道拓殖銀行法中改正法律案 (小池仁郎君外四名提出)
- 第五十三 日本勸業銀行法中改正法律案 (小池仁郎君外四名提出)
- 第五十四 農工銀行法中改正法律案 (小池仁郎君外四名提出)
- 第五十五 煙草專賣法中改正法律案 (森格君外九名提出)
- 第五十六 著作權法中改正法律案 (內々崎作三郎君外三名提出)
- 第五十七 特別都市計畫法中改正法律案 (關直彦君外八名提出)
- 第五十八 借家法中改正法律案 (橫山勝太郎君外一名提出)
- 第五十九 北海道農地特別處理法案 (丸山浪彌君外六名提出)
- 第六十 產業組合中央金庫法中改正法律案 (由谷義治君外五名提出)
- 第六十一 果物罐詰原料砂糖戻稅法案 (中村嘉壽君外一名提出)
- 第六十二 大正十二年法律第三十三號中改正法律案 (工場法中改正ノ件) (清瀨一郎君提出)
- 第六十三 刑事訴訟法中改正法律案 (原夫次郎君外二名提出)
- 第六十四 未成年者飲酒禁止法中改正法律案 (山口政二君外十二名提出)

- 第六十五 恩給法中改正法律案(丸山浪彌君外二名提出) 第一讀會
- 第六十六 恩給法中改正法律案(松實喜代太君外三名提出) 第一讀會
- 第六十七 恩給法中改正法律案(山口政二君外三名提出) 第一讀會
- 第六十八 大正十三年法律第二十四號中改正法律案(替澤品等ノ輸入税ニ關スル件)(高橋熊次郎君外二名提出) 第一讀會
- 第六十九 北海道御料拂下地ノ地租免除ニ關スル法律案(一柳仲次郎君外九名提出) 第一讀會
- 第七十 土地收用法中改正法律案(廣瀬德藏君外三名提出) 第一讀會
- 第七十一 金鷄勳章年金ニ關スル法律案(佐藤實君外二名提出) 第一讀會
- 第七十二 金鷄勳章年金ニ關スル法律案(古川清君外二名提出) 第一讀會
- 第七十三 蠶絲業法案(二木洵君提出) 第一讀會
- 第七十四 社交舞踏取締法案(柏田忠一君外一名提出) 第一讀會
- 第七十五 輸出羽二重精練業法中改正法律案(森田金藏君提出) 第一讀會
- 第七十六 議院法中改正法律案(中林友信君外三名提出) 第一讀會
- 第七十七 北海道御料拂下地免租年期ニ關スル法律案(東武君外二名提出) 第一讀會
- 第七十八 帝國在郷軍人會國庫補助ニ關スル建議案(佐々木春作君外四名提出) 第一讀會
- 第七十九 蠶絲局設置ニ關スル建議案(武藤金吉君外四名提出) 第一讀會
- 第八十 高等師範學校設置ニ關スル建議案(佐々木春作君外五名提出) 第一讀會
- 第八十一 臼井島栖間鐵道敷設ニ關スル建議案(赤間嘉之吉君外二名提出) 第一讀會
- 第八十二 肥前山口諫早間鐵道速成ニ關スル建議案(則元由庸君外六名提出) 第一讀會
- 第八十三 八戸久慈間鐵道速成ニ關スル建議案(柏田忠一君提出) 第一讀會
- 第八十四 警察官ノ待遇改善ニ關スル建議案(本田義成君提出) 第一讀會
- 第八十五 左澤荒砥間鐵道速成ニ關スル建議案(西方利馬君外五名提出) 第一讀會
- 第八十六 國有林野所在府縣市中町村ニ對シ交付金下付ニ關スル建議案(八田宗吉君外一名提出) 第一讀會
- 第八十七 馬政振作ニ關スル建議案(八田宗吉君提出) 第一讀會
- 第八十八 京都市ニ國立音樂學校設置ニ關スル建議案(森田茂君提出) 第一讀會
- 第八十九 越美線速成ニ關スル建議案(猪野毛利榮君外一名提出) 第一讀會
- 第九十 帝國在郷軍人會國庫補助ニ關スル建議案(蟻川五郎君外二名提出) 第一讀會
- 第九十一 二見港三田間鐵道敷設ニ關スル建議案(多木久米次郎君提出) 第一讀會
- 第九十二 帝國軍人後援會國庫補助ニ關スル建議案(加藤政之助君外三名提出) 第一讀會
- 第九十三 帝國在郷軍人會國庫補助ニ關スル建議案(中林友信君外五名提出) 第一讀會
- 第九十四 金鷄勳章並旭日章年金改正即行ニ關スル建議案(中林友信君外九名提出) 第一讀會
- 第九十五 養蠶組合法制定ニ關スル建議案(山田道兄君提出) 第一讀會
- 第九十六 養蠶組社昇格ニ關スル建議案(岡本實太郎君提出) 第一讀會
- 第九十七 高等蠶絲學校建設ニ關スル建議案(岡本實太郎君外一名提出) 第一讀會
- 第九十八 若松市ニ高等師範學校設置ニ關スル建議案(町野武馬君外一名提出) 第一讀會
- 第九十九 自營林業獎勵ニ關スル建議案(村山喜一郎君提出) 第一讀會
- 第一百 廣濱鐵道速成ニ關スル建議案(河野曉君外二名提出) 第一讀會
- 第一百一 澁川長野原間鐵道速成ニ關スル建議案(木村三郎君提出) 第一讀會
- 第一百二 帝國在郷軍人會國庫補助ニ關スル建議案(長田桃藏君外四名提出) 第一讀會
- 第一百三 福井縣三國港築港並竹田川改修ニ關スル建議案(熊谷五右衛門君提出) 第一讀會
- 第一百四 養蠶組合法制定ニ關スル建議案(加藤知正君外三名提出) 第一讀會
- 第一百五 興部濱頓別間鐵道速成ニ關スル建議案(淺川浩君外六名提出) 第一讀會
- 第一百六 北海道ニ高等學校設置ニ關スル建議案(柳仲次郎君外六名提出) 第一讀會
- 第一百七 留萌羽幌間鐵道速成ニ關スル建議案(淺川浩君外六名提出) 第一讀會
- 第一百八 高等工業學校設置ニ關スル建議案(柳仲次郎君外六名提出) 第一讀會
- 第一百九 小頓別枝幸港間鐵道速成ニ關スル建議案(淺川浩君外六名提出) 第一讀會
- 第一百十 宗谷線恩根内咲來間ニ停車場設置ニ關スル建議案(淺川浩君外六名提出) 第一讀會
- 第一百十一 根北鐵道速成ニ關スル建議案(小池仁郎君外六名提出) 第一讀會
- 第一百十二 北海道甜菜糖業補助法制定ニ關スル建議案(小池仁郎君外七名提出) 第一讀會
- 第一百十三 有珠岳洞爺湖及登別溫泉ヲ中心トスル國立公園設定ニ關スル建議案(手代木隆吉君外六名提出) 第一讀會
- 第一百十四 余市漁港修築ニ關スル建議案(澤田利吉君外六名提出) 第一讀會
- 第一百十五 鷺泊港修築ニ關スル建議案(淺川浩君外六名提出) 第一讀會
- 第一百十六 廣尾港修築速成ニ關スル建議案(小池仁郎君外六名提出) 第一讀會
- 第一百十七 釧路港海陸連絡ニ關スル建議案(小池仁郎君外六名提出) 第一讀會
- 第一百十八 室蘭港海陸連絡施設速成ニ關スル建議案(手代木隆吉君外六名提出) 第一讀會
- 第一百十九 根室港修築工事ニ關スル建議案(小池仁郎君外六名提出) 第一讀會
- 第一百二十 鐵道敷設法中改正ニ關スル建議案(小池仁郎君外六名提出) 第一讀會
- 第一百二十一 苫小牧廣尾間鐵道速成ニ關スル建議案(手代木隆吉君外六名提出) 第一讀會
- 第一百二十二 釧路網走間鐵道速成ニ關スル建議案(小池仁郎君外六名提出) 第一讀會
- 第一百二十三 京極紋監間及京極壯賢間鐵道速成ニ關スル建議案(手代木隆吉君外六名提出) 第一讀會
- 第一百二十四 高等師範學校設置ニ關スル建議案(一柳仲次郎君外六名提出) 第一讀會
- 第一百二十五 小樽港及函館港ニ港務部設置ニ關スル建議案(山本厚三君外六名提出) 第一讀會
- 第一百二十六 野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外二名提出) 第一讀會
- 第一百二十七 柳津小出間及只見町間鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君提出) 第一讀會
- 第一百二十八 湖南鐵道建設ニ關スル建議案(八田宗吉君提出) 第一讀會
- 第一百二十九 林業金融ニ關スル建議案(東武君外十名提出) 第一讀會
- 第一百三十 國立公園調查機關設置ニ關スル建議案(東武君外十名提出) 第一讀會
- 第一百三十一 立木ニ關スル法律改正ニ關スル建議案(東武君外十名提出) 第一讀會
- 第一百三十二 金鷄勳章旭日章年金改正ニ關スル建議案(古川清君外二名提出) 第一讀會
- 第一百三十三 高田市ニ高等農林學校設置ニ關スル建議案(富永孝太郎君外三名提出) 第一讀會
- 第一百三十四 磐梯山猪苗代湖ヲ中心トスル國立公園設定ニ關スル建議案(八田宗吉君外一名提出) 第一讀會
- 第一百三十五 國有林野法中改正ニ關スル建議案(八田宗吉君提出) 第一讀會
- 第一百三十六 川俣浪江間鐵道建設速成ニ關スル建議案(大島要三君外六名提出) 第一讀會

第三百三十七 國有林野不要存置林處分ニ關スル建議案(大島要三君外六名提出)
第三百三十八 福島市ニ國立倉庫設立ニ關スル建議案(大島要三君外六名提出)
第三百三十九 泉崎岩沼間改良工事速成並宇都宮福島間複線工事速成ニ關スル建議案(大島要三君外六名提出)
第四百 福相鐵道速成ニ關スル建議案(大島要三君外六名提出)
第四百一 婦人參政ニ關スル建議案(坂東幸太郎君外三名提出)
第四百二 鳥栖日井間鐵道敷設ニ關スル建議案(大里廣次郎君外一名提出)
第四百三 東京帝國大學農學部附屬農業教員養成所獨立ニ關スル建議案(山本慎平君外一名提出)
第四百四 北海道河川治水工事速進ニ關スル建議案(神部爲藏君外六名提出)
第四百五 岩内築港速成ニ關スル建議案(澤田利吉君外六名提出)
第四百六 無線電信ノ裝置ニ關スル建議案(小池仁郎君外六名提出)
第四百七 京濱運河速成ニ關スル建議案(湯淺凡平君提出)
第四百八 實業補習教育振興ニ關スル建議案(高橋能次郎君外四名提出)
第四百九 越美線速成ニ關スル建議案(谷口宇右衛門君外一名提出)
第五百 受験資格撤廢ニ關スル建議案(山下谷次君提出)
第五百一 瀬戸内海ヲ中心トスル國立公園設定ニ關スル建議案(山下谷次君外一名提出)
第五百二 野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案(高橋元四郎君外一名提出)
第五百三 日足鐵道速成ニ關スル建議案(高橋元四郎君外一名提出)
第五百四 日光國立公園設定ニ關スル建議案(高橋元四郎君外一名提出)

第五百五 沖繩縣救濟ニ關スル建議案(宮保成晴君外十一名提出)
第五百六 模似漁港修築ニ關スル建議案(手代木隆吉君外六名提出)
第五百七 羽幌下沙流別間鐵道敷設速成ニ關スル建議案(淺川浩君外六名提出)
第五百八 壽都漁港修築速成ニ關スル建議案(澤田利吉君外六名提出)
第五百九 船舶村ニ避難港築設ニ關スル建議案(淺川浩君外六名提出)
第六十 名寄羽幌間鐵道敷設速成ニ關スル建議案(淺川浩君外六名提出)
第六十一 京濱運河速成ニ關スル建議案(戶井嘉作君外一名提出)
第六十二 鐵絲局設置ニ關スル建議案(種口秀雄君外十六名提出)
第六十三 京濱運河速成ニ關スル建議案(若尾幾太郎君外一名提出)
第六十四 新町小海間鐵道建設ニ關スル建議案(井本常作君外四名提出)
第六十五 下仁田三反田間鐵道建設ニ關スル建議案(井本常作君外四名提出)
第六十六 金澤市ニ鐵道局設置ニ關スル建議案(佐藤實君外四名提出)
第六十七 出雲大社古道湖及中海ヲ中心トスル國立公園設定ニ關スル建議案(原夫次郎君外一名提出)
第六十八 福島縣松川浦ニ避難港兼漁港築設ニ關スル建議案(佐藤富十郎君外三名提出)
第六十九 金澤市ニ高等師範學校設置ニ關スル建議案(佐藤實君提出)
第七十 遠信鐵道速成ニ關スル建議案(山本勝次君外一名提出)
第七十一 越中島線敷設速成ニ關スル建議案(太田信治郎君外一名提出)
第七十二 拓殖省設置ニ關スル建議案(清水留三郎君外一名提出)
第七十三 民間航空事業促進ノ爲政府ノ施設ニ關スル建議案(安藤正純君提出)

第七十四 溫泉法規制定ニ關スル建議案(平川松太郎君外三名提出)
第七十五 帝國在郷軍人會國庫補助ニ關スル建議案(作間耕逸君外二名提出)
第七十六 鶴岡、羽前高松間鐵道敷設ニ關スル建議案(石川長右衛門君外七名提出)
第七十七 酒田真室川間鐵道敷設ニ關スル建議案(齋藤金吾君外一名提出)
第七十八 鶴岡市ニ高等師範學校新設ニ關スル建議案(齋藤金吾君外一名提出)
第七十九 荒砥左澤間鐵道速成ニ關スル建議案(石川長右衛門君外八名提出)
第八十 庄原區裁判所管轄區域變更ニ關スル建議案(渡邊伍君外二名提出)
第八十一 貴生川加茂間鐵道速成ニ關スル建議案(高井商二君外三名提出)
第八十二 淡水魚族増殖施設ニ關スル建議案(藤澤萬九郎君提出)
第八十三 關ヶ原木ノ本間鐵道速成ニ關スル建議案(藤澤萬九郎君外二名提出)
第八十四 北海道治水ニ關スル建議案(岡田伊太郎君外三名提出)
第八十五 東京都制急施ニ關スル建議案(作間耕逸君外二名提出)
第八十六 北海道甜菜糖業補助ニ關スル建議案(松實喜代太君外三名提出)
第八十七 帝國在郷軍人會國庫補助ニ關スル建議案(松岡俊三君提出)
第八十八 帝國在郷軍人會國庫補助ニ關スル建議案(池田泰親君提出)
第八十九 衛生組合法制定ニ關スル建議案(大里廣次郎君外三名提出)
第九十 京都高等蠶業學校ニ製絲科

設置ニ關スル建議案(川崎安之助君外一名提出)
第九十一 拓殖省設置ニ關スル建議案(牧山耕藏君外八名提出)
○議長(粕谷義三君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス
〔書記官朗讀〕
一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
政治運動ノ爲金品供與ノ制限ニ關スル法律案
提出者 尾崎 行雄君 關 直彦君
林田龜太郎君 湯淺 凡平君
清瀨 一郎君 增田 義一君
永田新之允君 佐々木平次郎君
畔田 明君 山口 政二君
政治結社加入勸誘方法ノ制限ニ關スル法律案
提出者 關 直彦君 尾崎 行雄君
林田龜太郎君 湯淺 凡平君
清瀨 一郎君 增田 義一君
永田新之允君 佐々木平次郎君
畔田 明君 山口 政二君
議員ノ職務ニ關スル法律案
提出者 增田 義一君 尾崎 行雄君
關 直彦君 林田龜太郎君
湯淺 凡平君 清瀨 一郎君
永田新之允君 佐々木平次郎君
畔田 明君 山口 政二君
大正十五年度歳入歳出總豫算追加案ニ對スル修正案
提出者 磯部 尙君 秦 豐助君
森 恪君 鈴木 隆君
加藤 知正君 牧野 良三君
岡田伊太郎君 東 武君
小川 平吉君 若宮 貞夫君
黒住 成章君 木暮武太夫君
板野 友造君 土井 權大君
植原悦二郎君 西方 利馬君

杉 宜陳君 山下 谷次君

山崎達之輔君 青柳郁次郎君

倉元 要一君 井上 孝哉君

嶋居 折君

羽大塚、宮原、竹田間鐵道敷設ニ關スル

建議案

提出者

有馬 賴寧君 山崎達之輔君

坂梨 哲君 山内 範造君

中村 清造君

細民秀才子弟高等專門教育國費補助ニ關

スル建議案

提出者

佐藤 實君

富山市ニ高等師範學校設置ニ關スル建議

案

提出者

寺島 權藏君 高見 之通君

石坂 豐一君

黒部峡谷ニ國立公園設置ニ關スル建議案

提出者

寺島 權藏君

魚津漁港兼避難港修築ニ關スル建議案

提出者

寺島 權藏君

漆樹栽培獎勵ニ關スル建議案

提出者

佐藤 實君 寺島 權藏君

町野 武馬君

國有雜種財產處分ニ關スル建議案

提出者

大島 要三君 紺野九右衛門君

比佐 昌平君 菅村 太事君

金澤安之助君 中野 寅吉君

佐藤富十郎君

福島猪苗代間鐵道建設ニ關スル建議案

提出者

大島 要三君 紺野九右衛門君

比佐 昌平君 金澤安之助君

中野 寅吉君 佐藤富十郎君

菅村 太事君

稅務官ノ待遇改善ニ關スル建議案

提出者

大島 要三君 紺野九右衛門君

比佐 昌平君 金澤安之助君

菅村 太事君 中野 寅吉君

警察官ノ待遇改善ニ關スル建議案

提出者

大島 要三君 紺野九右衛門君

比佐 昌平君 菅村 太事君

金澤安之助君 中野 寅吉君

佐藤富十郎君

陸軍軍樂隊派遣所設置ニ關スル建議案

提出者

紺野九右衛門君 比佐 昌平君

菅村 太事君 中野 寅吉君

金澤安之助君 佐藤富十郎君

大島 要三君 田中 万逸君

樺太地方制度ノ設定並衆議院議員選舉法

施行ニ關スル建議案

提出者

小池 仁郎君 澤田 利吉君

速記士法制定ニ關スル建議案

提出者

黒住 成章君 齋藤 隆夫君

牧山 耕藏君

薩哈連州撤兵ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救

濟ニ關スル建議案

提出者

山本 厚三君 一柳仲次郎君

藤井 敬信君 池田 泰親君

中村 嘉壽君 佐々木平次郎君

砂田 重政君 寺島 權藏君

五ヶ瀬川及大瀬川治水ニ關スル建議案

提出者

佐藤 重遠君 長峰 與一君

陣 軍吉君 吉松 忠敬君

永井 作次君

生命保險制度改正ニ關スル建議案

提出者

岡田 溫君 荒川 五郎君

有馬 賴寧君

福井縣大野郡富田村ニ焚煙草假收納所設

置ニ關スル建議案

提出者

猪野毛利榮君

尼港漁業者ノ損害救済ニ關スル建議案

提出者

佐々木平次郎君

(以上三月二十三日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

下關漁港連成ニ關スル質問主意書

提出者 秋田寅之介君

(以上三月二十三日提出)

一政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ

衆議院議員佐藤富十郎君提出蠶絲業ニ關

スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員藤澤萬九郎君外一名提出滋賀

縣會ニ於ケル原案執行ニ關スル再質問ニ

對スル答辯書

衆議院議員作間耕逸君外二名提出正米市

場法制定ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員土井權大君提出農村振興ニ關

スル再質問ニ對スル答辯書

(以上三月二十三日受領)

蠶絲業ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十五年三月十三日

提出者 佐藤富十郎

蠶絲業ニ關スル質問主意書

吾ク國ノ蠶絲業ハ財政上經濟上重大ナル

問題ナルカ學者政治家實業家所有論客ノ

論旨ヲ閱スルニ大同小異ニシテ吾等ノ期待

ニ反スルモノアルハ甚タ遺憾トスル所ナ

リ吾等日本帝國ノ國際的經濟ヲ如何ニ處

理スヘキヤハ大問題ナリト思フ現内閣諸

公ハ此ノ點ニ力ヲ致サルコトハ感

謝スル所ナルカ本員ノ見ル所ハ貿易ノ逆

調即チ入超ハ之ヲ如何トモスルコト能ハ

ス政府ハ此ノ點ニ大ナル犧牲ヲ拂ヒ輸出

品獎勵ヲ爲スコト急ナルカ如キモ未タ其

ノ目的ヲ達スルニ至ラス甚タ國家ノ爲遺

憾トスル所ナリ思フニ輸出品數種アリト

雖其ノ原料ハ輸入ニ依ル結果差引計算ニ

於テハ幾何ノ利スル所ナク輸入超過ノ抑

テハ幾何ノ利スル所ナク輸入超過ノ抑

テハ幾何ノ利スル所ナク輸入超過ノ抑

テハ幾何ノ利スル所ナク輸入超過ノ抑

テハ幾何ノ利スル所ナク輸入超過ノ抑

テハ幾何ノ利スル所ナク輸入超過ノ抑

テハ幾何ノ利スル所ナク輸入超過ノ抑

テハ幾何ノ利スル所ナク輸入超過ノ抑

テハ幾何ノ利スル所ナク輸入超過ノ抑

テハ幾何ノ利スル所ナク輸入超過ノ抑

テハ幾何ノ利スル所ナク輸入超過ノ抑

防止ノ實現ヲ見ルコトアリトシテモ其ハ

甚タ僅少ニシテ到底目的ヲ達スル能ハス

ト信ス故ニ吾等國ハ蠶絲業トシテ他外國

ノ追従ヲ許サル帝國ノ特產品ニシテ現

ニ九億圓以上ノ輸出アリ其レカ他ノ輸出

品ト異リ而モ一會社一事業者ノ手ニ成ル

モノニ非ス國民全體トモ謂フヘキ全ク獨

立獨歩ノ生産品ニシテ尙且廣地ハ勿論山

間僻地ニ至ル迄全國のニ適シ而モ春夏秋

共年中三度蠶絲セラルルヲ以テ現ニ大正

五年頃ヨリ今日ニ至ル約倍額ノ輸出ヲ見

ルニ至レルヲ以テ見テモ實ニ吾等國トシ

テハ輸出品中ノ殆ト其ノ半ヲ占メ尙且賣

レ行キノ益圓滑ニ行ハル狀態ハ國家ノ

爲喜フヘキ次第ナリ亦近年人造絹絲ノ製

造盛ナル此ノ時ニ於テ些ノ障害ナク賣レ

行キ盛ナルヲ見ハ人造絹絲ト蠶絲ノ關係

ハ恰モ紡績絲ノ其ノモノト同様電モ變

ル所ナク益隆盛ナラントス然ルニ歷代ノ

内閣ハ此ノ蠶絲ノ爲ニ國家ノ財政ヲ繁

ト稱シ乍ラ蠶絲業ニ對シ蠶絲家ニ對シ如

何ナル補助及獎勵ヲ爲シツアルカヲ研

究スルニ遺憾ナラ何等ノ見ルヘキ保護獎

勵ヲ見ス唯徒ニ農業組合ヲ組織セシメ蠶

絲業組合ヲ組織セシメ今亦蠶絲検査法

ヲ制定シ一人ノ農民ニ對シ五箇ノ組合ヲ

組織シ其ノ費用ヲ蠶絲家ニ支出セシメタ

ルノミニシテ何等保護獎勵ノ見ルヘキモ

ノナク却テ農民ヲ苦シムルモノノ如クハ

國家ノ爲甚タ遺憾ノ次第ナリ願レハ農產

物ニハ米穀法アリ開墾助成法アリ漁業ニ

ハ補助法アリ漁具及漁場抵當貸付法アリ

其ノ他種種ナル助成法ヲ爲シツアルモ

蠶絲業製絲家ニ向テハ前陳ノ如ク何等見

ルヘキ保護助成法ナキ甚タ遺憾トスル

所ナリ依テ本員ハ左ノ方法ニ依リ蠶絲業

及製絲家ニ資金ノ融通ヲ爲シ大ニ蠶絲ヲ

獎勵シ現下ノ生絲貿易ノ上ニ顯ハルル九

億圓ノ倍額十八億ニモ達セムトスル目的

ヲ以テ政府ハ大ナル努力ヲ吝マズ此ノ點

ニ於テハ止ムナクムハ公債ヲ發行シ大ニ

ニ於テハ止ムナクムハ公債ヲ發行シ大ニ

ニ於テハ止ムナクムハ公債ヲ發行シ大ニ

ニ於テハ止ムナクムハ公債ヲ發行シ大ニ

ニ於テハ止ムナクムハ公債ヲ發行シ大ニ

資金ノ融通ヲ爲スヘキモノト信スルカ政府ハ如何ナル方針ナリヤ御答辯アラムコトヲ乞フ

一 養蠶家ニ對シテハ町村長ノ證明ニ據リ養蠶組合ニ對シテ年三分以内ノ利子ヲ以テ成蘭ノ賣拂期迄之ヲ貸付ケルコト其ノ金高ハ二億圓即チ養蠶家一戸當リ百圓ノ見込ナルカ政府ノ所見如何

二 製絲家ニ對シテハ銀行ヲ介在シ成蘭買入高ノ三割ニ相當スル金額ヲ利子五分以内ニテ政府ハ之ヲ貸付ケルコト此ノ金高約二億圓ノ見込ナルカ政府ノ所見如何

大正十五年三月二十三日

内閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 若谷義三

衆議院議員 佐藤富十郎君提出蠶絲業ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員 佐藤富十郎君提出蠶絲業ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 養蠶業者ニ對スル金融ニ付テハ質問者ノ意見ノ如キ方法ハ實行シ難シト認ム本問題ハ他ノ一般農村金融ト關聯シテ同時ニ之ヲ考慮スルヲ適當トシ現在ニ於テハ産業組合ノ組織、日本勸業銀行、農工銀行、産業組合中央金庫等ノ機關ヲ利用シ其ノ便宜ヲ圖リツツアル次第ナルモ今後之等機關ノ機能及利用方法等ニ付テハ一層研究ヲ進メ金融ノ改善ト關聯トヲ圖ラムトス

二 製絲業者ニ對スル金融ニ付テハ政府ハ其ノ改善ヲ圖ル要アルモ質問者ノ意見ノ如キ方法ハ實行シ難シト認ム現在製絲金融ノ圓滑ヲ阻害セラルハ主トシテ一般ニ製絲業ハ投機的ニシテ危險多キ事業ト認メラルコト、事業經營ノ規模小ニシテ經營者ノ資力薄弱ナルモノ多ク從テ金融業者ニ對スル信用ヲ高ムルニ遺憾アルコト、短期間ニ多額ノ資

金ノ融通ヲ必要トスルコト、無擔保ノ貸付ヲ受クル場合多キコト等ニ職由スルモノト認メラルルヲ以テ斯業ニ對スル金融ノ圓滑ヲ期スル爲ニハ之等諸點ノ改善ヲ必要トスヘシ政府ハ茲ニ鑑ミル所アリ共同貯蓄庫及共同乾蘭裝置ノ助成、生絲検査所附屬生絲絹物倉庫ノ建設等ニ依リ蠶及生絲ヲ擔保トスル金融ノ便ヲ圖ラムトシツツアル次第ニシテ將來ニ於テモ更ニ適當ナル方法ヲ考究シ金融ノ改善ニ努メムトス

三 尙政府ハ從來桑園ノ改良、蘭質ノ改良、蠶病ノ豫防取締、共同貯蓄庫及共同乾蘭裝置ノ助成等ノ爲相當ノ獎勵、補助又ハ助成ノ經費ヲ支出シツツアリテ蠶絲業ノ助長發達ヲ圖リツツアリ將來ニ於テモ一層斯業ノ獎勵ニ努メムトス右及答辯候也

大正十五年三月二十三日
大藏大臣 濱口雄幸
農林大臣 早速整衛
滋賀縣會ニ於ケル原案執行ニ關スル再質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十五年三月十五日
提出者 藤澤萬九郎
外一名
滋賀縣會ニ於ケル原案執行ニ關スル再質問主意書

本年二月十六日附ヲ以テ提出シタル滋賀縣會ニ於ケル原案執行ニ關スル質問ニ對シ三月一日附內務省開地第四號ヲ以テセル內務大臣ヨリノ答辯書ニ據レハ唯單ニ「目下調査中」ノ一言ニシテ盡ク然ルニ內務省行政課長ノ滋賀縣會議員ニ語ル所ニ依レハ既ニ調査終了ノ上上司ノ決裁ヲ求ムヘク其ノ一件書類ヲ回移セラレ又新聞紙ノ報スル所ニ依レハ既程度迄稟伺ノ手續進行セルヤニ傳フ殊ニ滋賀縣知事ハ既ニ其ノ筋ノ内諾ヲ得タリト稱シ且許可指令ノ到ルハ近キニ在リト聲明シ頻ニ新候補地ノ實地踏査ニ着手シツツアリ以上ヲ綜合スレハ未タ大臣ノ決裁ヲ經

ルニ至ラサルモノナリト雖既ニ或種ノ諒解ヲ與ヘラレタルモノト推斷セラル得ス然ルニ單ニ「目下調査中ナリ」ト辯スルハ甚タ誠意ナキモノト認ム因テ政府ハ宜シク幾ニ質問シタル點ニ對シ其ノ調査セル程度ニ於テ右ニ關スル所見ノ説明ヲ爲スヘキ要アリト信ス

大正十五年三月二十三日
大正十五年三月二十三日
内閣總理大臣 若槻禮次郎
衆議院議長 若谷義三
衆議院議員 藤澤萬九郎君外一名提出滋賀縣會ニ於ケル原案執行ニ關スル再質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕
內務省開地第一二號
衆議院議員 藤澤萬九郎君外一名提出滋賀縣會ニ於ケル原案執行ニ關スル再質問ニ對スル答辯書

滋賀縣會ニ於ケル原案執行ノ件ハ稟ニ答辯シタル通目下調査中ニ在リ右及答辯候也
大正十五年三月二十三日
內務大臣 若槻禮次郎
正米市場法制定ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十五年三月十六日
提出者 作間 耕逸
外二名

正米市場法制定ニ關スル質問主意書
一 正米市場ハ主要食糧品タル米穀ノ集散ノ圓滑ニシ米價ノ波瀾ヲ防止シ國民生活ノ安定ヲ期スル必須ノ設備ニシテ精算取引所トハ自ラ特異ノ機能ヲ有スル獨立ノ機關ナリト信ス政府ノ正米市場ニ對スル所見如何

二 正米市場ノ賣買方法ハ現物取引ノ二種ニシテ共ニ賣物ノ受渡ヲ目的トシ清算市場ノ差金ヲ目的トスル賣買トハ其ノ趣ヲ異ニシ正米ヲ生産者ヨリ需用者ニ導ク唯一ノ方法ナリト思惟ス政府ノ所見如何

三 正米市場ハ古キ緒由ト長キ沿革トヲ有シ多年正米ノ配給價格ノ調節ニ貢獻スルコト渺カラス又大正十二年大震災災ニ際シ正米市場ノ如キハ直ニ其ノ米庫ヲ開キ罹災民ノ救助ニ著手シ一面食糧局ト協力シテ米穀ノ配給分配ニ當リ完全ニ其ノ職責ヲ盡シタリ政府ハ其ノ功績ヲ認ムルヤ

四 政府ハ正米市場法案ヲ提出セムトシ當業者ハ熱心ニ之ヲ歡迎シ輿論モ亦之ニ共鳴シツツアルニ拘ラス米穀取引所ハ自己營業上ノ立場ヨリ其ノ提案ニ難色アリ爲ニ政府ハ其ノ提案ヲ躊躇シツツアルヤニ仄聞ス苟モ政府多年ノ政策遂行ニ當リテハ米穀取引所ノ意圖ヲ顧慮スル所ナク此ノ際速ニ同法案ヲ提出シ其ノ制定ヲ速進スル意思ナキヤ

五 正米市場法ノ制定ハ生産者ニ對シテハ主要農產物タル米穀ヲ安全有利ニ販賣スルノ途ヲ開キ延テハ農村振興トナリ需要者ハ配給ノ圓滑購入ノ利便ナルニ依リ國民生活ノ安定ヲ得セシムルモノト思惟ス政府ノ所見如何

六 政府ハ此ノ際米穀取引所カ正米市場ト協調シタル場合ハ省令ニ依リ之ヲ許可セムトスルヤニ聞ク斯テハ多年國民ノ要望タル正米市場法ノ制定ニ關シ支障ヲ來スコトナキヤ政府ノ所見如何

大正十五年三月二十三日
大正十五年三月二十三日
內閣總理大臣 若槻禮次郎
衆議院議長 若谷義三
衆議院議員 作間耕逸君外二名提出正米市場法制定ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕
衆議院議員 作間耕逸君外二名提出正米市場法制定ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 政府ハ正米ノ賣買取引ヲ爲ス施設ヲ整備スルノ必要アルヲ認ム
二 政府ハ賣物取引清算取引共ニ米穀ノ

需給ニ必需ナル取引方法ナリト認ム
三 政府ノ認可ヲ受ケタル正米市場ハ米
穀ノ需給ニ關シ相當寄與セルノ事實ハ
之ヲ認ム
四 政府ハ米穀ノ賣買取引ヲ爲ス施設ヲ
整備スルノ必要アリト認メ目下調査中
ニ屬ス
五 正米市場法ノ制定ニ付テモ目下調
査中ニ屬ス
六 質問書記載ノ如キ趣旨ノ省令ニ付テ
ハ未タ何等決定シタルコト無シ
右及答辯候也
大正十五年三月二十三日
商工大臣 片岡直溫

農村振興ニ關スル再質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十五年三月十六日
提出者 土井 權大

農村振興ニ關スル再質問主意書
中々我カ國ノ農村ニ於テハ各種ノ社會問
題頻出シツツ有リ即チ小作爭議ノ如キ或
ハ中地主ノ滅亡ノ如キ或ハ自作農ノ減退
ノ如キ或ハ不在地主ノ増加ノ如キ或ハ舊
年ノ離村ノ如キ或ハ農業労働ヲ嫌忌スル
思想彌漫ノ如キ或ハ農民思想ノ惡化ノ如
キ其ノ顯著ナルモノモトモシテ是等ノ因
テ起ル所以ノモノハ農民生活ノ不安ト農
村經濟ノ不確立ニ歸セサルヘカラス故ニ
農村振興ノ根本義ハ農民生活ノ安定向上
ヲ計リ更ニ農村經濟ノ確立ヲ企ツルノ外
ニ途ナシ要ハ經濟問題ノ解決ヲ以テ先決
トシ然ル後ニ精神ノ作興民風ノ刷新ヲ行
ヒ堅實ニシテ展開セル農村ヲ形造ラサル
ヘカラス

數年以來農村問題ハ政治上重要ナル問題
トナリ今や朝野共ニ深甚ナル注意ト熱誠
ナル研究トヲ怠ラサルニ至リシハ慶賀ノ
至リニ堪ヘスト雖其ノ所說又ハ其ノ政策
ハ概ネ消極的ニシテ未タ積極政策ノ域ニ
達セサルノ恨ナシトセス例ヘハ昨年ノ議
會ニ於テ決定セラレタル米穀法ノ改正ノ
如キ農村振興基金二百五十萬圓設置ノ如
キ更ニ本年ノ議會ニ於テ論議セラレタル

小麥及鳥卵ノ關稅引上ニ依ル農產物保護
政策ノ如キ地租免稅點設置ノ如キ義務教
育費國庫負擔三千萬圓増加ノ如キ自作農
維持創設ニ關スル利子補助ノ如キ其ノ他
胡麻鹽式各種ノ補助獎勵費ノ計上ノ如キ
ハ是レ悉ク農家負擔ノ輕減若ハ姑息ナル
金融ノ提供若ハ姑息ナル補助獎勵ノ方策
乃至農產物ノ價格維持策ニシテ所謂對症
療法ニ類スル消極政策ナリト謂ハサルヘ
カラス即チ農民ノ活動又ハ農民團體ノ活
動又ハ國家ノ活動ニ依リ進取ノ積極的
ニ生産増加ヲ計ルノ政策ニ非スシテ袖手
退嬰シテ單ニ法制ノ保護ニ依リテ農民ノ
懷合ヲ溫メムトスル溫憲法ニ依ル對症療
法ヲ施シツツ有ルモノト謂ハサルヘカ
ラス

若夫レ農村經濟ヲ不確立ニ陥ラシメタル
原因ヲ探求セムカ蓋經濟組織ノ變遷ニ歸
セサルヘカラス即チ十八世紀後半ニ英國
ニ端緒ヲ發シ爾來文化世界ニ普及シタル
所謂産業ノ革命ハ學術ノ應用ニ依リテ生
產技術ノ進歩トナリ交通ノ發達ニ依リテ
市場ノ擴大トナリ其ノ結果農民ノ單獨の
經濟組織ハ打破セラレタルモノトス我カ
國ニ於テモ日清日露戰爭後等農民ノ家
内の仕事ハ資本家乃至大仕掛ノ機械ニ奪
取セラレ彼等ノ仕事ハ單ニ田畑ヲ耕スカ
又ハ養蠶其ノ他ノ副業ニ漸クニシテ有リ
ツキ孜孜營營トシテ生活費ヲ稼キ出スニ
止マルノミ即チ明治維新前後ノ如ク自ラ
織リテ衣服ヲ造ル能ハス自ラ釀シタル濁
酒ヲ飲ム能ハス煙草ヲ自作シテ之ヲ嗜ム
ヲ禁セラレ悉ク日用品ハ自己ノ收穫シタ
ル米麥養蠶其ノ他副業品ヲ賣却シテ之ヲ
買ハサルヘカラス往々ニシテ收穫物ヨリ
得タル收入少クシテ買入ル日用品ノ價
格高キコトノ不幸ヲ見ルノ場合多シ加フ
ルニ公課ニ攻メラレ社交費ニ攻メラレ醫藥
ノ料ニ攻メラレ子弟ノ教育費ニ攻メラレ
其ノ他冠婚葬祭ノ費用ニ攻メラレ今や遂
ニ農民トハ血ト油トヲ産業革命ノ爲ニ絞リ取
ラルルノ動物ナリトノ觀ヲ呈スルニ至リ
シモノトス然ルニ今尙我カ國ノ農民ハ此

ノ如キノ經濟組織ノ變遷ヲ自覺セス其經
濟思想ハ依然トシテ單獨經濟主義ナリ孤
立經濟主義ナリ團體經濟主義ヲ排シテ晏
如トシテ個人主義ヲ信奉シ加フルニ封建
時代ヨリスル傳統的他力本願主義ナリ要
スルニ現在ハ資本文明機械文明團體經濟
組織ノ時代ナルヲ自覺セス徒ラニ舊式經
濟組織ノ下ニ於テ其ノ生活ノ安定ト向上
トヲ貪ラムトシツツ有ルモノトス然ルニ
尙且從來ノ農村政策モ亦敍上ノ如ク概ネ
其ノ多クハ此經濟組織ノ變遷ニ順應セス
只一時逃レノ姑息ナル消極政策ヲ施シタ
ルニ過キサルノ觀アリ故ニ農民ノ生活ハ
日ニ不安ニ赴キ農村ノ經濟ハ月ニ困憊ニ
赴キ遂ニ今日ノ行詰ヲ招來シタルモノト
斷セサルヘカラス

故ニ此時ニ當リ官民共ニ永キ痛限ヨリ覺
醒シ此ノ經濟組織ノ變遷ニ着眼シ積極的
農村政策ヲ樹立セムハアルヘカラス然
ラサレバ我カ國ノ農村ハ遂ニ滅亡スルニ
至ルヤモ圖リ難シ然ラハ其積極政策果シ
テ如何カト謂ヘハ即チ經濟組織ノ變遷
ニ鑑ミ左ノ梗概ヲ骨子トシ政策ノ樹立ヲ
企テサルヘカラス
第一 單獨經濟ヨリシテ團體經濟組織ニ
改ムルコト特ニ農產物共同加工其ノ他
副業及農村工業ヲ獎勵シ其ノ原料ハ之
ヲ共同ニ購入シ生産品ノ生産制限檢査
ノ勵行價格協定販路ノ分野協定等ヲ團
體組織ノ下ニ強制シ之ヲ斷行シ專ラ
團體ノ利益増進ヲ計リ之ヲ分配シテハ
各自組合員ノ收益増進ニ資スルコト即
チ現行ノ法制上ヨリ謂ヘハ購買販賣利
用組合ト重要物產同業組合トヲ合併シ
タル新組織ニ改正シ此團體組織ニ依リ
テ同種ノ營業者打テ一丸ト爲シ獨逸ニ
流行スル「カルテル」ヲ實行シ生産販
賣トノ調節ヲ計リ生産費以上ニ生産品
ヲ賣却スルコト
以上團體ニ對シ國家ハ適度ノ低利資金
ヲ供給スルコト此ノ如クニシテ始テ農
民ノ收益増進ノ途ヲ開拓シ得ルコト
第二 農村振興ノ爲ニ大資本ノ運用及大

機械ノ利用ヲ爲スコト即チ資本ハ官民
ノ合本ニ依ルモノ可ナリ又國家ノ資本ニ
依ルモノ可ナリ而シテ當面ノ施設トシテ
水力電氣ノ統一室素肥料ノ製造用排水
幹線ノ完成耕地整理ノ完成干拓開墾開
田等ノ促進ヲ計畫シ一ハ以テ農村生産
費輕減策トシテ安價ナル動力低廉ナル
肥料ヲ供給シ他ハ以テ輸入肥料ヲ防壓
シ其ノ他土地利用ノ完壁ヲ期シ國富ノ
増進ト農村ノ振興ヲ期スルコト
第三 科學知識ヲ徹底シ農村振興ノ爲
ニ應用スルコト即チ試驗場及調査所ノ
擴張ヲ計リ農作物增收方法ノ研究例ヘ
ハ獨逸ヨリ輸入シツツアル「チランテ
ン」劑ノ如キモノノ發明其他農家副業
及農村工業等ノ研究調査ヲ爲シ其研究
調査ヲ基礎トシ之ヲ我カ國農村ニ普及
シ農家ニ職業ヲ與ヘ恒產ヲ與ヘ農民ノ
福利増進ニ資スルコト
以上ハ産業革命ニ應スル根本概念ヨリシ
テ之レヲ我カ國農村ノ現狀ニ對照シ具體
的ニ積極的農村振興政策ノ二三ヲ例示シ
タルモノトス今や世界ハ愈產業ノ戰鬪其
ノ激甚ヲ加ヘトシツツ有ルノ折柄茲ニ此
ノ行詰レル農村經濟ノ展開ヲ圖リ他面ニ
ハ商工業特ニ輸出貿易ノ發展ヲ期スルハ
著刻下ノ急務ナリト確信スルモノナリ
右及再質問候也
追テ書面ニテ答辯アリタシ
大正十五年三月二十三日
內閣總理大臣 若槻禮次郎

衆議院議長 若槻禮次郎
衆議院議員 土井權大君提出農村振興ニ關
スル再質問ニ對シ別紙答辯書差進候
〔別紙〕
衆議院議員 土井權大君提出農村振興ニ
關スル再質問ニ對スル答辯書
農村振興ニ關スル根本政策ニ對スル政府
ノ所見ニ付テハ竊ニ答辯セル所ナルカ今
回再質問ノ事項ニ關シテモ農村事情ヲ考
究シ財政ノ許ス限リ積極消極ノ政策ヲ按
配實行シ且共同經營ノ獎勵ニ付テモ各方

面ニ於テ著々其ノ歩ヲ進メ相當ノ效果ヲ
舉ゲツツアリ又資本ノ運用及機械ノ利用
ニ付テモ我農業者ノ實情ニ順應スル適宜ノ
措置ヲ採リツツアリ而シテ科學知識ヲ徹
底的ニ農村振興ノ爲ニ應用スルコトニ付
テモ中央地方共ニ現在ノ機關ヲ活動セシ
メツツアル所ナルカ將來一層時宜ニ應ス
ル施設方法ヲ擴張運用シ各般ノ方策ヲ調
査攻堅シ事情ノ許ス限り之カ實行ヲ爲ス
ハ謂フヲ俟タサル所ナリ
右及答辯候也
大正十五年三月二十三日
農林大臣 早速 整爾

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲
茲ニ掲載ス〕
一昨二十二日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル
常任委員左ノ如シ
第二部選出懲罰委員 濱田 國松君
第八部選出懲罰委員 西方 利馬君
一昨二十二日常任委員補選結果左ノ
如シ

第一部選出 豫算委員 木暮武太夫君(松山常次郎
君補闕)
第一部選出 請願委員 土屋清三郎君(富永孝太郎
君補闕)
第二部選出 豫算委員 山田 助作君(吉原義雄君
補闕)
第八部選出 豫算委員 杉 宜陳君(小野義一君
補闕)

一昨二十二日委員長及理事互選ノ結果左ノ
如シ
出版物法案(政府提出)委員
委員長 增田 義一君
理事 工藤 鐵男君 安藤 正純君
寺田 市正君
王公族ノ權義ニ關スル法律案(政府提出、
貴族院送付)委員
委員長 松田 源治君

官報號外 大正十五年三月二十四日

理事 西 英太郎君
一昨二十二日議長ニ於テ選定シタル委員左
ノ如シ
大正十三年法律第十號中改正法律案
(高等諸學校震災復興費ニ屬スル豫算
ノ施行ニ關スル件)委員
建部 源吾君 土生 彰君
山根 儀重君 中島 守利君
飯村 五郎君 近藤 達見君
上原 好雄君 志村清右衛門君
山口 政二君

大正十三年度第一豫備金支出ノ件外七件
(承諾ヲ求ムル件)委員
阿由葉勝作君 木槍三四郎君
加藤 六藏君 山口 嘉七君
淺賀長兵衛君 紺野九右衛門君
寺島 權藏君 榊原 經武君
平山爲之助君 石坂 豐一君
安保 庸三君 吉津 度君
藤井忠兵衛君 神崎 勳君
津崎 尚武君 中村 嘉壽君
山谷徳治郎君 田崎 信藏君

一昨二十二日海軍軍備制限ニ關スル條約ノ
實施ニ伴フ損害ノ補償ニ關スル法律案委
員板野友造君、熊谷直太君辭任ニ付其ノ
補闕トシテ高井商二君、秋田寅之介君ヲ、
都市計畫法中改正法律案外一件委員土屋
清三郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ田崎信
藏君ヲ、労働爭議調停法案外一件委員森
恪君ヲ、浦野謙朗君辭任ニ付其ノ補闕トシ
テ野田俊作君、谷原公君ヲ執レモ議長ニ
於テ選定セリ

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ會議ヲ開キマ
ス、御諮リヲ致スコトガアリマス、第一部
選出懲罰委員岩崎幸治郎君、第七部選出懲
罰委員渡邊伍君、右兩君ヨリ常任委員辭任
ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議ア
リマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ
ス、許可致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補闕
選舉ヲ行ヒ届出アラシコトヲ希望致シマ
ス、本日ハ質問ノ豫定日デゴザイマスガ、

議案ノ都合ニ依リマシテ之ヲ延期致シマシ
タ、此段御了承ヲ願ヒマス——是ヨリ日程
ニ入リマス、日程第一ヨリ第五ハ豫算案デ
アリマスカラ、一括議題トナスニ御異議ア
リマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程第一、第一號大正十五年度歳
入歳出總豫算追加案、第二、第二號大正十
五年度歳入歳出總豫算追加案、第三、第三
號大正十五年度各特別會計歳入歳出總豫算
追加案、第四、第三號大正十五年度歳入歳
出總豫算追加案、第五、特第二號大正十五
年度各特別會計歳入歳出總豫算追加案、右五
案ヲ一括シテ議題ト致シマス、委員長ノ報
告ヲ求メマス——委員長藤澤幾之輔君

第一(第一號)大正十五年度歳入歳出
總豫算追加案
報告書
一(第一號)大正十五年度歳入歳出總豫算
追加案
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
大正十五年三月二十二日
豫算委員長 藤澤幾之輔
衆議院議長粕谷義三殿
附帶決議
北海道第二期拓殖計畫調查會委員ニハ民
間ノ智識經驗アル人ヲモ之ニ加ヘ公平ナ
ル調査ヲ遂ケ以テ適切ナル計劃ヲ立テラ
レムコトヲ望ム

第二(第二號)大正十五年度歳入歳出
總豫算追加案
報告書
一(第二號)大正十五年度歳入歳出總豫算
追加案
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
大正十五年三月二十二日
豫算委員長 藤澤幾之輔
衆議院議長粕谷義三殿

第三(特第一號)大正十五年度各特別
會計歳入歳出總豫算追加案
報告書
一(特第一號)大正十五年度各特別會計歳
入歳出總豫算追加案
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
大正十五年三月二十二日
豫算委員長 藤澤幾之輔
衆議院議長粕谷義三殿

報告書
一(特第一號)大正十五年度各特別會計歳
入歳出總豫算追加案
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
大正十五年三月二十二日
豫算委員長 藤澤幾之輔
衆議院議長粕谷義三殿

第四(第三號)大正十五年度歳入歳出
總豫算追加案
報告書
一(第三號)大正十五年度歳入歳出總豫算
追加案
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
大正十五年三月二十二日
豫算委員長 藤澤幾之輔
衆議院議長粕谷義三殿

第五(特第二號)大正十五年度各特別
會計歳入歳出總豫算追加案
報告書
一(特第二號)大正十五年度各特別會計歳
入歳出總豫算追加案
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
大正十五年三月二十二日
豫算委員長 藤澤幾之輔
衆議院議長粕谷義三殿

○藤澤幾之輔君 豫算委員會ノ經過並ニ結
果ヲ御報告致シマス、政府ヨリ三月十八日
ヲ以テマシテ、第一號大正十五年度歳入歳
出總豫算追加案、第二號大正十五年度歳入
歳出總豫算追加案、特第一號大正十五年度
各特別會計歳入歳出總豫算追加案、又其翌十
九日、第三號大正十五年度歳入歳出總豫算
追加案、特第二號大正十五年度各特別會計
歳入歳出總豫算追加案ヲ提出セラレマシタ、
各提出セラレマシタ翌日ヨリ審查ヲ開始
致シマシテ、昨日其審查ノ終了ヲ報告スル
デアリマス、此經過並ニ結果ヲ御報告スル
ノデアリマスガ、大體カラ申セバ此豫算案ニ

衆議院議長粕谷義三殿
〔藤澤幾之輔君登壇〕
○藤澤幾之輔君 豫算委員會ノ經過並ニ結
果ヲ御報告致シマス、政府ヨリ三月十八日
ヲ以テマシテ、第一號大正十五年度歳入歳
出總豫算追加案、第二號大正十五年度歳入
歳出總豫算追加案、特第一號大正十五年度
各特別會計歳入歳出總豫算追加案、又其翌十
九日、第三號大正十五年度歳入歳出總豫算
追加案、特第二號大正十五年度各特別會計
歳入歳出總豫算追加案ヲ提出セラレマシタ、
各提出セラレマシタ翌日ヨリ審查ヲ開始
致シマシテ、昨日其審查ノ終了ヲ報告スル
デアリマス、此經過並ニ結果ヲ御報告スル
ノデアリマスガ、大體カラ申セバ此豫算案ニ

衆議院議長粕谷義三殿
〔藤澤幾之輔君登壇〕
○藤澤幾之輔君 豫算委員會ノ經過並ニ結
果ヲ御報告致シマス、政府ヨリ三月十八日
ヲ以テマシテ、第一號大正十五年度歳入歳
出總豫算追加案、第二號大正十五年度歳入
歳出總豫算追加案、特第一號大正十五年度
各特別會計歳入歳出總豫算追加案、又其翌十
九日、第三號大正十五年度歳入歳出總豫算
追加案、特第二號大正十五年度各特別會計
歳入歳出總豫算追加案ヲ提出セラレマシタ、
各提出セラレマシタ翌日ヨリ審查ヲ開始
致シマシテ、昨日其審查ノ終了ヲ報告スル
デアリマス、此經過並ニ結果ヲ御報告スル
ノデアリマスガ、大體カラ申セバ此豫算案ニ

衆議院議長粕谷義三殿
〔藤澤幾之輔君登壇〕
○藤澤幾之輔君 豫算委員會ノ經過並ニ結
果ヲ御報告致シマス、政府ヨリ三月十八日
ヲ以テマシテ、第一號大正十五年度歳入歳
出總豫算追加案、第二號大正十五年度歳入
歳出總豫算追加案、特第一號大正十五年度
各特別會計歳入歳出總豫算追加案、又其翌十
九日、第三號大正十五年度歳入歳出總豫算
追加案、特第二號大正十五年度各特別會計
歳入歳出總豫算追加案ヲ提出セラレマシタ、
各提出セラレマシタ翌日ヨリ審查ヲ開始
致シマシテ、昨日其審查ノ終了ヲ報告スル
デアリマス、此經過並ニ結果ヲ御報告スル
ノデアリマスガ、大體カラ申セバ此豫算案ニ

計上セラレマシタル所ノ多クノ事項ハ、或ハ曩ノ本豫算ノ場合ニ於テ、若クハ稅制整理ノ各法案ノ調査若クハ計議ノ際ニ於テ、皆何レモ御承知ニナリマシタル所ノモノデアリマシテ、全ク新シイモノハ少イノデアリマス、殊ニ第三號ノ追加ノ如キハ、何レモ法律ニ伴フ所ノモノデアリマシテ、ソレト共ニ確定スベキ所ノ性質ヲ持テ居ルモノデアリマスカラ、私ハ此會期切迫ノ場合デアリマスカラ、是等ノコトハ速記録ニ依ッテ御承知下サルコト、致シマシテ、豫算案ノ計數デアルトカ、或ハ政府ノ説明デアルトカ、或ハ委員會ニ於ケル質問應答デアルトカ云フヤウナコトハ、一切省略致ス積リデアリマスカラ、左様ニ御承知ヲ戴キタイノデアリマス、討論ニ入りマシテ政友會ノ植原悅二郎君カラ、御配付致シマシタ如キ修正案ガ提出セラレマシタ、即チ第二號ノ追加豫算中ノ第二款ノ調査費デアリマシテ、第十四項ノ土地賃賃價格調査費、之ヲ削除スルト云フ修正動議デアリマシタ、此金額並ニ之ニ關係ノアル歳入若クハ總計ノ數字等ハ一切之ヲ省キマス、此案ハ御承知ノ地租委議論ニ關聯致シテ居ル所ノ事柄デアリマシテ、現ニ本日ノ日程ノ第二十五ニ掲ゲラレテアル所ノ問題ニ關聯致シテ居ル所ノデアリマス、故ニ是モ私カラハ詳細シイ御報告ハ致シマセヌ、勿論後ニ政友會ノ諸君カラ詳細ハ御報告ニナルコト、考ヘルノデアリマス、ソレカラ政友會本黨ノ丸山渡瀧君カラ北海道ノ拓殖計畫ノ調査會ニ關スル附帶決議ヲ提出セラレマシタ、ソレハ簡單デアリマスカラ此處で申上ゲマス、(附帶決議)北海道第二期拓殖計畫調査會委員ハ民間ノ智識經驗アル人ヲモ之ニ加ヘ公平ナル調査ヲ遂ケ以テ適切ナル計畫ヲ立テラレムコトヲ望ム、斯ウ云フ附帶決議ヲ提出セラレマシタ、丸山君カラ之ヲ提出致シマシタ趣旨ヲ議會デ報告シテ吳レト云フ御註文ガアツタノデアリマスガ、是ハ要スルニ一旦此附帶決議ガ延期トナツタ以上ハ、此決議ヲ政府ニ於テ尊重シテ貴ヒタイト云フ趣旨ニ止マルノデアリマス、其詳細ハ丸山君カラ御

述ニナルコト、思ヒマスカラ、是亦此程度ニ止メマス、ソレカラ新正俱樂部ノ坂東幸太郎君カラ、滿蒙ニ於ケル商租權ノ問題ノ解決ニ關スル希望ノ御意見ガアツタノデアリマス、是ハ内容ヲ申上ゲマセヌデモ、直ニ御諒解ニナルコトデアリマスカラ、是モ此程度ニ止メマス、其他憲政會ノ清水留三郎君ハ、植原君ノ修正動議ニ反對シ、又丸山君ノ附帶決議ハ、單ニ希望デアルト云フニ止マラバ、勿論之ニ賛成スルモ差支ナイケレドモ、附帶決議ト云フコトニ付テハ、之ニ賛成スルコトハ出來ナイ、斯様ナ意見ヲ述ベラレ、ソレカラ本黨ノ井坂君、並ニ新正俱樂部ノ坂東君ハ、各、其會派ヲ代表セラレマシテ、植原君ノ修正ニ反對セラレ、丸山君ノ附帶決議ニ賛成セラレマシタ、其他ハ全部原案ニ賛成セラレマシタ、結局採決ニ當リマシテ、多數ヲ以テマシテ植原君ノ修正動議ハ否決セラレマシタ、又多數ヲ以テマシテ丸山君ノ附帶決議ハ可決致サレマシタソレカラ、大多數ヲ以テマシテ、原案全部ハ之ヲ可決致シマシタ、大體斯ノ如キ次第デアリマス、之ヲ以テ御報告ト致シマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 磯部尙君外二十二名ヨリ、第二號大正十五年度歳入歳出總豫算追加案ニ對スル修正案ガ提出セラレマシタ、此際其趣旨聲明ヲ許シマス——植原悅二郎君

(第二號)大正十五年度歳入歳出總豫算追加案ニ對スル修正案

右成規ニ據リ提出候也

大正十五年三月二十二日

提出者 磯部 尙

外二十二名

(第二號)大正十五年度歳入歳出總豫算追加案中左ノ通修正ス

甲號

歳入臨時部

第九款 前年度剩餘金繰入

三、一、二、一、五、三

八、三、〇、三、四、三、一

第一項 前年度剩餘金繰入

三、一、二、一、五、三

八、三、〇、三、四、三、一

歳入臨時部

一、五、八、六、二、一、〇

大藏省所管

五、一、八、二、二、七、八

第十四項 土地賃賃價格調査費

五、一、八、二、二、七、八

大藏省所管合計

三、五、八、八、九、〇

五、四、一、一、六、八

一、〇、六、八、〇、二、三、二

一、五、八、六、二、一、〇

○植原悅二郎君登壇

スル所ノ大正十五年度豫算追加案ニ對シテ委員長ノ報告ニ對シ、吾々ノ主張スル修正案ノ提出ノ理由ヲ申上ゲタイト思ヒマス、ソレニ先ダチマシテ一言申述ベテ置ク必要ガアルト思ヒマス、此大正十五年度總豫算追加案一號、二號、三號ヲ總括ヲ致シマスレバ、約四千一百萬圓以上ノ金額ニ上ルノデアリマス、追加豫算ト致シマシテハ、極メテ巨額ノ案デアアル、而シテ御承知ノ如ク本年度ノ總豫算ハ十五億九千萬圓以上ニ上リ、約十六億ニ達スルノデアリマシテ、本豫算並ニ茲ニ提出サレテ居リマスル所ノ追加豫算ヲ合シマスレバ、十六億四千萬圓ニ達スベキ巨額ノ豫算デアリマシテ、殆ド我國ノ前代未聞ノ巨額ノ豫算デアルト申上ゲテモ異論ノ無イコトデアルト思ヒマス(拍手)是モ建設的ナ積極政策ヲ執リマシテ立テマシタル所ノ豫算デアラナラバ、時代ノ要求上已ムヲ得ナイトモ申サレマセウ、然ルニ極メテ消極的、寧ろ退嬰的ナ緊縮方針ヲ執テ居ル政府ノ聲明ニ基キマシテ、此豫算ヲ見ル時ニハ、實ニ驚ク外ハナイノデアリマス(拍手)而シテ此四千一百萬圓ニ對スル所ノ追加豫算中ニハ、其費目ノ性質上、當然本豫算ニ繰入ラレルベキモノガアルノデアリマス、政府當局モ其豫算ノ性質上、或ル項目ハ本豫算ニ繰入レベキコト

ガ當然デアアル事ヲ御認メニナツテ居リマスルガ、唯、本豫算ヲ編成スル當時ニ、是ガ間ニ合ハナカッタト云フ御辯明デアリマスルガ、私共ノ考ニ依リマスレバ、退嬰緊縮ノ主張ヲ爲シテ居ル所ノ政府ト致シマシテ、十六億以上ノ豫算ヲ本會議ニ提出スルト云フコトハ、國民ノ輿論ニ對シテ如何カト云フ懸念ノ立場カラ、當然本豫算ニ入ルベキモノヲ國民ノ幾分——瞻者ト申セバ語弊ガアルカ知レナイガ、國民ノ輿論ヲ忌避スル爲ニ、本豫算ニ於テ僅カ削リマシテ十六億以內ニ止メ、追加豫算ニ斯様ナ莫大ナ金額ヲ要求致シタト申シテモ、政府ハ之ニ對シテ辯明ノ辭ハナカラウト信ジテ居ルノデアリマス(拍手)大體斯様ナ豫算デアリマシテ、政府ノ主張スル所ノ主義カラ申シマスレバ、豫算全體誠ニ私共驚入ル項目モアルノデアリマス、而シテ此追加豫算ヲ提出致シマスルニ付テハ、殆ド提出致シタ即チカラ此審議ヲ進メマシテ、成ベク質問ノ簡單ニシヤウト云フヤウナ意味デ、十分ニ調査ガ出來ナイト申サナイケレドモ、會期切迫ノ折、十分ニ政府ト質疑應答ヲ重ヌルダケノ餘地ノナカッタト云フコトハ、此場合ニ申上ゲテ差支ナカラウト思フノデアリマス

此案ニ對シマシテ、私共ノ修正ヲ企テマシタ所ノモノハ、大正十五年度總豫算ノ追加案第二號ノ、大藏省ノ所管ニ屬スル土地賃賃價格調査ニ要スル經費五百十八萬二千二百七十八圓ヲ削除スル、隨テ歳入臨時部ニ於キマシテ、前年度繰入剩餘金ノ中カラ、此額ニ相當スル所ノ金額ヲ削除スルト云フ結論ニナルノデアリマス、屢、私共本會議ニ於キマシテモ、諸君ノ御諒解ニナルヤウニ申上ゲテ居ル通り、私共稅制ノ整理ニ致シマシテモ、中央ト地方ト稅制制度ヲ併行セシメナケレバナラヌ、而シテ之ニ對シテハ、地租ヲ地方ニ委譲スルコトガ、最モ時宜ニ適シタル所ノ措置デアルノミナラヌ、今日ノ日本ノ稅制ト致シマシテ、恐ラク地租ヨリハ不公平ナ誤稅ノ方法ヲ取ラレテ居ルモノハナイノデアリマス、御承知ノ如ク或縣ニ於キマシテハ、地租ヲ定メマスル時ニ一段

歩ノ地價ガ十四、五圓ノ所モアル、或縣ニ於キマシテハ一段歩四十圓内外ノ所モアル、ノミナラズ郡邑地ト郡村トノ間ノ實際ノ土地ノ賃賃格ニ於テハ、非常ナ差ガアルニモ拘ラズ、數十年前ニ定メラレマシタ所ノ地價ヲ標準トシテ今日課税サレテ居リマスルガ故ニ、非常ナ不公平ナモノデアアル、此負擔ノ公平ヲ圖リ、國民ノ負擔ノ公平ナラシメ、地方自治ノ發達ヲ圖リ、地方稅制ト中央ノ稅制ト均衡ヲ保テ參リマスニハ、何ト致シマシテモ地租ヲ地方ニ委譲スル策ヨリ良策ハナイト確信致シテ居ルデアリマス(拍手)私ハ此主張ニ基キマスル故ニ、此條項ヲ刪除スルト云フコトガ當然ノ結論デアアルト云フコトヲ御承知置キテ願ヒタイノデアリマス(拍手)次ニ此場合ニ申上ゲテ置カナケレバナナイコトハ、此追加豫算ノ三號ニ於テ、勞働組合法施行ニ關スル經費三萬五千五百圓ヲ計上サレテ居リマス、同ジク同號ニ於キマシテ、海軍ノ軍備制限ニ關スル補償審查會ニ要スル經費六千圓ヲ計上サレテ居リマス、諸君ノ御承知ノ如ク、是等ノ法案ハ未ダ委員會ニ於テ審議未了ニ屬スルモノデアリマス、故ニ私共ハ是ハ法律ガ定マツタ後ニ於テ、當然起ルベキ必要ナル費用デアリマスルガ故ニ、是等ノ法案ガ審議未了デアリマスル間ハ、此計上サレテ居ル費額ハ、當然留保スルコトガ至當ノコト、考ヘマシテ、之ニ對シテ私共法律案ノ結果ヲ待テ決定スベキモノトシテ、留保ト云フコトヲ申述ベテ置キタイト思ヒマス、次ニモウ一項、私共此場合ニ申上ゲテ置カナケレバナナイコトハ、追加豫算案第一號ニ於ケル外務省所管ニ關スル經費ノ中デ、伯刺西爾ノ移民ガ非常ナ早害ヲ受ケタ爲ニ、年賦支拂金ガ出來ナイカラ之ヲ補助救済スル意味ニ於テ、八十五萬圓ノ經費ガ計上サレテ居ルデアリマス、私共ハ住慣レタ故國ヲ去リ、殊ニ世界無比ナル國體ヲ有スル我國ノ如キ國ニ住ミマス所ノ國民ガ、其墳墓ノ土地ヲ捨テ、海外ニ移住スルト云フコトハ容易ナラザルコト、是モ時代

ノ必要、又國家ノ發展上大ニ獎勵スベキモノデアリマスルケレドモ、是等ノ海外ニ移住スル所ノ日本ノ人民ニ對シテハ、多大ノ同情ヲ注グ者デアリ、是等ノ事業ニ對シマシテハ、出來得ルダケ本國カラ後援シ、援助シ、總之シテ我國ノ海外發展ヲ助ケナケレバナナイト云フ確信ヲ持テ居ル者デアリマス、ソレ故ニ必要デアリマスルモノ、是ガ我國ノ海外發展ニ有益ナモノデアアルナラバ、國家トシテ出來得ルダケノ救済後援ヲ致スト云フコトニ對シテ、私共躊躇致ス者デハ斷ジテアリマセヌ(拍手)ケレドモ此八十五萬圓ノ支出ノ方法ヲ見マスレバ、斯様ナ狀態デアリマス、伯刺西爾ニ於ケル所ノ早害ハ千九百二十三年カラ始マツモノデアリマス、二十三年ノ十月——伯刺西爾ハ日本ト狀態ガ違ヒマスガ故ニ、主ナル農產物ハ十月カラ翌年ノ三四月頃ニ收穫スルト云フヤウニナツテ居ルデアリマス、而シテ千九百二十三年ニ相當ノ早害ガアツテ、我國ノ居留民モ可ナリ財政上ノ打撃ヲ受ケタノデアリマス、而シテ二十四年、更ニ激甚ナル所ノ早害ヲ受ケマシテ、在留民ノ狀態ハ非常ニ窮乏ニ陥ツタ、是ハ事實デアリマス、而シテ政府ガ八十五萬圓ヲ支出致シテ、之ヲ救済シヤウトシマスレバ、何時買入レタモノデアアルコト申シマスレバ、千九百二十三年ノ早害ノ打撃ヲ受ケ、經濟上不利ナ立場ニ居ルニモ拘ラズ、千九百二十四年ニ買入レタ土地デアリマス、千九百二十四年ニ買入レタ三箇年ノ年賦支拂ヲ致ス契約ヲ致シタモノ、勿論此土地ヲ買入レマス時ニハ、相當ノ手附金ヲ拂タニ違ヒナイ、此手附金ニ對シテハ、從來居留民ガ所有シテ居リマス所ノ所有權確實ノ土地ヲ擔保ニ入レテ、借入金ヲシテ、一部ノ支拂ヲ致シタト、斯様ニ政府ノ説明デアリマス、而シテ千九百二十四年ノ早害ハ、伯刺西爾ニ於テモ近年、稀ナル所ノ早害ト謂ハレテ居ル、而シテ未ダ手附金ノヤウナモノヲ拂ヒマシタケデ、三箇年ノ年賦ノ第一年目ノ年賦金サヘモ支拂フテ居ラナイモノデアリマス、ソレ故ニ如何ニ慘酷ナ地主デア

リマシテモ、天變地異、不可抗力ニ對シテ三箇年ノ年賦契約ヲ致シテ居ラマスモノヲ、之ヲ順次繰延ベテ支拂ヲ致スト云フコトニ、ヨモヤ異議ガアルマイト思ハレルデアリマス、又既ニ土地ヲ擔保ニ取リマシテ、貸付ケテ居リマシタモノト雖モ、年賦金ガ支拂ハレルマデニ其元金ヲ償却サセルト云フヤウナ條件ヲ貸付ヲシタモノト思ハレナイノデアアル、ソレ故ニ此天變ニ對スル不可抗力ノ早害ニ對シテハ、金ヲ貸シマシタ者ト雖モ、相當ニ猶豫スベキモノト考慮致ス者デアリマス、ソレ故ニ非常ニ窮乏ニ陥ツテ居ルコトハ事實デアリマスケレドモ、支拂ヲ漸次繰延ベタラバ、本國カラ八十五萬圓ノ支出ヲ致シテ、救済致サナクテモヤリ拔ケルコトデハナカラウカト思フノデアリマス、更ニ私共疑問ト致スノハ、海外ニ於ケル者ガ屢、斯様ナ事實ガアルノデアリマス、移民ヲ出シマスル時ニモ、勸モスルト募集致ス移民ノ頭ヲ撥ネルヤウナ場合モアルノデアリマス、此土地モ在留民ガ個々ニ所有シテ居ル土地ニ對シテ救済スルト云フナラバ、又已ムヲ得ナイモノトモ思ハレルケレドモ、萬一此土地ガ或ル事業家ガ土地ノ買占ヲシテ居テ、之ヲ個々ノ移民ニ賣渡シテ、其利益ヲ收得スル爲ニ政府カラ八十五萬圓ノ救済金ヲ得テ、自分ノ所得ダケハ確實ニスル、而シテ是ガ移民直接ニ非常ニ有利ナモノナラザルモノデアアルト云フ時ニハ、折角私共ガ海外ニ於ケル移民ヲ後援シ、其發達ヲ——發展ヲ助成シヤウトスル趣意ニ悖ルモノデアリマスルガ故ニ、斯様ナ氣遣ヲ點モアリマスルカラシテ、此八十五萬圓ノ支出ニ對シテハ、政府當局ガ十分ニ御監督ヲ爲スツテ、個々ノ移民ノ發展ヲ助成スル上ニ於テ、最大ノ效果ヲ齎ラスヤウニ、十分ノ御注意アラントヲ希望致シテ、此案ニ賛成ヲ表スル者デアリマス、私共ノ修正ニ對スル所見並ニ此後豫算案ノ大體ニ對スル所ノ意見ハ、前段申上ゲルヤウナ次第デアリマスルカラシテ、諸君ニ於ケラレテモ、十分ニ御考慮下スツテ、此問題

ヲ御審議アラントヲ希望致ス者デゴザイマス
○議長(粕谷義三君) 質疑ノ通告ガ數名アリマス、順次之ヲ許シマス——三忠忠造君(總理大臣ノ出席ヲ求メマス)ト呼マ者アリ
○議長(粕谷義三君) 總理大臣ハ今貴族院ノ豫算會ニ行ツテ居ラレマス、其内此方ニ出席ニナルト思ヒマス
〔三忠忠造君登壇〕
○三忠忠造君 陸軍ノ經費ノ使用ニ關聯致シマスル問題デアリマスルカラ、此場合ニ陸軍大臣ニ主トシテ御尋ヲ致シタイノデアリマス、陸軍大臣ノ御答辯ヲ伺ヒマシタ上デ、總理大臣ニ重ネテ御伺致サナケレバナラヌ必要ガ生ズルト思ヒマス、主トシテ目下問題トナツテ居リマスル彼ノ機密費ノ關係デアリマスルガ、先般三瓶某ノ作製致シマシタル文書、竝ニ之ニ基イテ本議場ニ於テ議員中野正剛君ノ爲サレタル御演說、之ニ依リマシテ我ガ陸軍ノ經費ノ使用ニ付キマシテ、多大ノ疑義ヲ國民ニ起サシメタノデアリマス、吾々ハ此疑義ガ延イテ國運ノ威信ニ關スルト云フハ此種重大問題デアアルト考ヘマシテ、我黨ノ秋田清君ガ先般此壇上ニ於キマシテ、陸軍大臣並ニ總理大臣ニ極メテ明確ニ質問ヲ致シ、又陸軍大臣並ニ總理大臣ヨリ的確ナル御答辯ガアツタノデアリマス、此質問應答等ニ依リマシテ、吾々ハ最初ヨリ確信ヲ致シテ居リマスル通り、我ガ帝國陸軍ニ於キマシテハ、機密費其他ノ費用ニ於テ不正ナル使用等ハアルベキモノデアハナイト云フコトヲ、明瞭ニ理解致シタ積リデアリマス、然ルニ當時陸軍大臣ノ御説明ハ詳細ヲ盡シテ居ラズ、又具體的ノ問題ニ這入ツテ居リマセナカタ爲ニ、或ル一部ノ人ハ之ヲ奇貨合ケバシト爲シテ、各種ノ流言蜚語ヲ今尙未放テ居ルノデアリマス、隨テ國民中ニ尙ホ我ガ陸軍ニ對シテ疑義ヲ懷イテ居ル人ガアルヤウニ思ハレルノデアリマス、此疑義ナルモノヲ一掃シ去ラナケレバ、洵ニ國家ノ前途ニ對シテ非常ナ重大問題デアリマスルガ故ニ、私ハ茲ニ

重ネテ問題ヲ局限シテ、且ツ具體的ニ這入リマシテ、陸軍大臣ニ明確ナル且ツ詳細ナル御説明ヲ仰ギタイト思フノデアリマス、第一ハ大正三年臨時軍事費ナルモノハ、申ス迄モナク大正十三年マデ一本ノ會計トシテ續イテ參リマシタ、即チ十一箇年間一ツノ會計ニナツテ居タルデアリマス、此間ニ於キマシテ臨時軍事費中、所謂機密費トシテ支出致シマシタモノノ二千四百萬圓ト私ハ承知致シテ居リマス此二千四百萬圓ノ中デ主トシテ多ク使ヒマシタノハ、大正七八年ノ二箇年デアリマス、即チ大正七八年ノ二箇年ニ千八百萬圓支出ヲ致シテ居ル、殘餘六百萬圓デ十箇年ヲ支ヘタルデアリマシテ大正七八年ノ千八百萬圓ト云フ巨額ノ臨時軍事費ヲ支出致シテ居ル、此事ニ對シテ幾分國民ガ了解ヲ致シテ居ラヌヤウデアリマス、私ハ當時軍事費ノ支出ニ付キマシテハ多少關係致シタ一人デアリマス、故ニ私共ハ毛頭疑フ持テ居ラヌノデアリマス、大正七八年ニ斯ノ如キ巨額ノ機密費ヲ要シタト云フコトハ、申ス迄モナク臨時軍事費ト申シマシテモ、青島ノ獨逸軍ニ對スル戰闘行爲、西伯利亞ニ於ケル出兵ト此二ツデアリマシテ、西伯利亞ニ於キマシテ大正七八年ハ即チ「チエツケ」スラヴアキア」ノ救援、並ニ西伯利亞ニ於ケル戰線ノ最モ擴大シテ居タ時デアリマス、露國ノ白軍ト策應等ノ關係モ大部分ノ機密費支出ヲ要シタコトハ固ヨリ當然デアリマス、然ルニ三瓶基並ニ議員中野正剛君ノ議論サレタ所ハ、主トシテ大正七八年ノ兩年ニ支出致シマシタル千八百萬圓ノ機密費ノ用途如何ト云フコトデアリヤウニ考ヘラレノデアリマス、吾々ハ機密費ノ支出ニ付キマシテハ、非常ナル嚴格ナル手續ヲ要スルコトヲ存ジテ居ルノデアリマス、即チ機密費ノ支出ハ三箇月毎ニ要求スルノデアリマシテ、サウ長イ間ノモノヲ一度ニ要求スルコトハ許サヌノデアリマス、毎三箇月ノ所要經費ヲ參謀本部ヲ主トシテ、其他各方面ヨリ要求シテ參リマヌモノヲ、陸軍大臣ガ總メテ其用途ヲ指摘

シテ、如何ナル用途ニ使フカト云フコトヲ具シテ閣議ニ之ヲ諮リ、閣議ノ決定ヲ待テ大藏大臣ニ要求シ、大藏大臣ヨリ上奏裁可ヲ經テ陸軍大臣ニ交付スル、陸軍大臣ハ多ク直接接ヒマセメデ、經理局ニ入リマシテ、經理局カラ參謀本部始メ其他ノ各方面ニ交付スルノデアリマス、故ニ此間ニ於テ陸軍大臣デアルトカ、或ハ陸軍次官デアルトカ云フ人ノ間ニ機密費ノ用途ヲ何ト申シマスカ、胡麻化シテ不正ノ用途ニ之ヲ使用スルト云フヤウナコトハ有リ得ベカラザルコト、私共確信致シテ居ルノデアリマス、然ルニ此間ノ手續ガ明瞭ニ國民ニ了解サレテ居リマセヌ爲ニ、動モスレバ機密費ナルモノト他ノモノトヲ混淆シテ、國民ノ疑惑ヲ煽ルト云フヤウナ傾向ガアルコトヲ私共甚ダ遺憾ニ致シテ居ル、故ニ此場合陸軍大臣ヨリ致シマシテ、臨時軍事費ニ屬スル機密費ノ用途ヲ私共ハ聽クコトハ出來マセヌガ、要求決定致シマス手續、其手續ニ付キマシテ、詳細ニ茲ニ御説明ヲ仰ギタイノデアリマス、是ガ第一デアリマス、第二ハ三瓶基及議員中野正剛君ノ言ハレル所ニ依リマス、此機密費ノ一部ヲ以テ公債ヲ購入シ、若クハ民間ノ數銀行ノ之ヲ預入シテ利殖ヲ圖ラ、此預入ノ中ニハ陸軍大臣、陸軍次官、其他ノ個人ノ人名義ニシテ預入レテ居ル、斯様ナ不正ナ事ヲシテ居ルト云フノデ、國民ガ之ヲ聞イテ非常ニ疑惑ヲ持タノデアリマス、苟モ陸軍ノ機密費ナルモノハ怪シカラヌト云フノデ、國民ノ間ニ何トナク疑惑ヲ懷キマシテ、之ニ對シテ諒解致シマセヌ爲ニ、非常ノ問題ガ起リテ居ル譯デアリマス、固ヨリ機密費ナルモノニ依リテ公債ヲ買フカ、或ハ民間ノ銀行ニ預金ヲシ、運用ヲシテ利殖ヲ圖ルト云フコトハ有リ得ベカラザルコトデアリマス、又法規典例ガ許サヌ所デアリマス、然ルニ斯様ナ事ヲシテ居ルト云フコトヲ宣傳スルコトガ、却テ非常ノ國民ノ疑惑ヲ起シタノデアリマスカラ、私ハ更メテ茲ニ陸軍ノ臨時軍事費ノ機密費ヲ以テ公債ヲ買フ、或ハ銀行ニ定

期預金ヲシテ利殖ヲ致シタト云フヤウナ事實ガアルヤ否ヤ、之ヲ第二ニ伺ヒタイノデアリマス、第三ハ陸軍省ニ於キマシテハ、普通ノ豫算ニ現レタル經費ノ以外、共濟組合ノ資金トカ或ハ招魂祭ノ基金ト云フヤウナモノヲ保管運用サレテ居ルト云フコトデアリマス、此金ハ相當巨額ニ上ルコト、考ヘマス、殊ニ共濟組合ノ金ハ、工廠ニ於ケル職工ノ掛金及國庫ノ補助金ノ兩方アルノデアリマスガ、ソレヲ合セマスルト相當多額ノ金ト考ヘマス、是等ノ資金及基金ハ固ヨリ是ハ或ハ公債ヲ買フカ、銀行ニ預金ヲスル、之ニ依リテ利殖ヲ圖ルト云フコトハ當然デアリマス、斯様ナ財源ノ資金ヲ以テ公債ヲ買ヒ、或ハ利殖ヲ圖ルテ居ル、或ハ強ヒテ機密費ト混淆致シマシテ、機密費ヲ以テ公債ヲ買ヒ、利殖ヲ圖ルテ居ルヤウナコトヲ言觸ラシテ、サウシテ我ガ帝國陸軍ニ傷ヲ付ケヤウト云フ惡イ動機ヲ以テデア、云フ宣傳ヲ致シタカト私ハ思フノデアリマス(拍手)故ニ斯様ナ金ハ勿論秘密ニスル必要ハナイト考ヘマスカラ、陸軍ノ共濟組合ノ資金並ニ招魂祭ノ基金ノ如キモノデ、陸軍省デ之ヲ保管シテ利殖シテ居リマス金ハ幾ラアツテ、如何ナル方法ニ依リテ利殖シテ居ルカ、之ニ依リテ公債ヲ買フカ、其運用方法並ニ金高ニ付キマシテ、詳細ニ此際陸軍大臣ノ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス、第四ハ御承知ノ通り、三瓶基ノ作製致シマシタ文書ニ依リマシテモ、議員中野正剛君ノ此議場ニ於ケル御演說ヲ伺ヒマシテモ、最初ハ主トシテ臨時軍事費中ノ機密費ヲ當時ノ陸軍大臣並ニ陸軍次官等ガ、不正ニ使用シ利殖ヲ圖リ私腹ヲ肥シタカノ如ク申シテ居タルデアリマス、然ルニ最近去ル十八日デアリマス、十八日ノ報知新聞ノ朝刊ニ依リマスルト云フト、此朝刊ニ三瓶基ノ談話トシテ掲載サレテ居リマスガ、其談話ヲ讀ンデ見マスルト云フト、全然變テ居ルノデアリマス、最初申シテ居タルト非常ニ變テ參リマシテ、私ハ茲ニ其話シテ居ル要旨ヲ申上ゲマスルガ、

斯ウ云フ話ヲ致シテ居ルノデアリマス、話ノ儘デアリマセヌガ、明瞭ニスル爲ニ前後致シテ書イテ見マスルト云フト「機密費ハハキリト軍事費豫算ニ組込マレテアツテ、固ク大藏省ニ保管セラレ、陸軍省ニ於テハ使用ノ度ニ引出シテ使フコトニナツテ居ル、決シテ個人ノ名義ニ移シ得ルモノデハナイ、隨テ陸軍大臣ノ官房ニ於テ公債其他ヲ買入レテ利殖ヲ圖ルナドト云フ時間ハナイ、併シ問題ハアルベカラザル八百萬圓ト云フ金ノ性質デアル、此巨額ノ金ガ免ニ角大臣官房ニ在、田中、山梨、菅野、松本、遠藤ノ五人ノ個人名義ニ依リテ各銀行ニ預金セラレ、自分等ハ何處モ之ヲ引出シテ公債ヲ買ハサレテ居ルト云フ事實ガアル、大臣官房會計ノ取扱フ金ハ陸軍本省ノ費用ダケデ、機密費モ本省デ使フ範圍ニ止マリ、一般陸軍トシテノ經費ハ軍事費ニセヨ、機密費ニセヨ、陸軍經理部デ扱フコトニナツテ居ル、然ラバ其金ノ出所ハ果シテ何處カ、自分ハ大方見當ハ付イテ居ルガ今茲ニ言明ガ出來兼ネル」斯ウ云フノガ三瓶基ノ去ル十八日ノ報知新聞ノ朝刊ニ掲載セラレタル談話デアリマス、此話ニ依リマスルト云フト、最早三瓶基モ機密費其モノニ付テ何ノ疑モ持テ居ナイ、唯、陸軍ニ出所不明ノ金ガ八百萬圓程アル、此金ガ問題デアル、此金ヲ當時ノ陸軍大臣、或ハ陸軍次官、經理局長ガ個人名義ヲ以テ利殖ヲ圖ルテ居ル、其金ノ出所モ自分ニハ大部分ヲ知ルガ、今之ヲ申ス譯ニ行カヌ、斯ウ云フ話ヲシテ居ル、最初三瓶基ガ文書ヲ作製シテ世間ニ宣傳シマシタモノト並ニ之ニ依リテ議員中野正剛君ノ本壇上ニ於テ致サレタル御演說、此内容トハ全然變テ參リマシテ居ル、非常ニ局限サレテ居リマシテ、機密費其モノニハ一切疑フ持タヌ、又持ツベキ餘地ハナイ、唯、八百萬圓ト云フ所謂得體ノ知レナイ金ガアル、斯ウ云フノデアリマスガ、果シテ斯様ナ金ガ陸軍ニアリト致シマシタナラバ、洵ニ不可思議千萬ナ話デアル、果シテ斯様ナ金ガ有力無イカト云フコトヲ陸軍大臣ニ承リタイ、以上申上ゲタ四ツノ質問ニ依リマシテ、大體

本件が陸軍大臣ノ御答辯がアリマスレバ明瞭ニナルト思ヒマスガ、尙ホ其他陸軍ニ於キマシテ、是等以外ニ於テ或ハ保管運用セラレテ居ル金ガアテ、ドウ云フ風ニナリテ居ルカ、苟モ國民ノ疑感ヲ招クヤウナ種トナレベキモノガアルカ、若シアリトスルナラバ之ニ就キマシテモ斯様ナモノガアル、斯様ナ事ヲ致シテ居ルト云フコトヲ、此際明瞭ニ御説明願ヒタイノデアリマス、以上數項ヲ陸軍大臣ヨリ御説明ヲ願ヒマシテ、其御説明ヲ伺フタデ、私ハ總理大臣ニ對シテ御伺スルコトガアリマスガ、ソレハ保留致シマス(拍手)

〔國務大臣宇垣一成君登壇〕

○國務大臣(宇垣一成君) 只今三土君ヨリ御質問ヲ蒙リマシタガ、實ハ只今御述ニナリマシタ問題ハ、既ニ私カラ數回機會ノアル度ニ御話ヲ申上ダテ居ル、今日ハ最早疑感ハナク、十分ニ御了解ハ得テ居ルト考ヘテ居リマシタガ、料ラザリキ尙ホ三土君カラ只今ノ如キ御質問ガ出マシタカラ、茲ニ過日來申上ダコト、重複スル點ガアルカ知リノセヌガ、免ニ角暫ク御清聴ヲ煩ヒマス、第一ノ御問ハ臨時軍事費、殊ニ其中ノ機密費ノ支出ノ手續ノヤウニ拜承致シマシタ、大正三年カラ十四年ノ四月一日ニ涉リマシテ前後通ジテ十一年、此間ニ於キマシテ臨時軍事費ト致シマシテ、陸軍ガ使ヒマシタモノガ六億四千萬圓デアリマス、從來臨時軍事費ハ議會ノ協賛ヲ經テ居リマスモノデモ、又豫算外ノ支出ニ係ルモノデモ、何レモ只今三土君ノ御述ニナリマシタ通り、凡ソ三箇月分ヲ見積リマシテ會計年度——事ノ初メカラ事ノ終結マデ數年、今回ノ如キハ十一年ニ涉リテ居リマスガ、其中中々議會ノ協賛ヲ經テ居ル、或ハ豫算外ノ支出ニ係ルモノ、是ハ凡ソ三箇月ツツノ見積リヲ立テ、サウシテ陸軍省カラ大藏省ノ方ニ内交渉ヲ致シ、ソコデ協議ガ總タ所デ、大藏大臣ヨリ之ヲ閣議ニ提出ヲシテ、閣議決定ノ上ニ勅裁ヲ仰グ、勅裁済ノ上ニ於テ支出ヲ致ス、斯ウ云フ手續ニナリテ居ルノデアリマス、即チ臨時軍事費ノ一目デア

所ノ機密費モ同様ノ手續ヲ經ルノデアリマス、御承知ノ通り臨時軍事費ハ立法課目ト致シマシテハ、款項共ニ臨時軍事費ノ一本デアリマス、行政課目ト致シマシテ、其中デ一ツノ目ヲ設ケ、人件費、物件費等ト同ジヤウニ目ヲ設ケテ、機密費モ一ツノ目ニナリテ居ル譯デアリマス、ソレガ勅裁ヲ經テ逐次ニ支出致ス譯デアリマスカラ、隨テ他ノ課目ト流用ト云フヤウナコトモ固ク禁ジラレテ居ル次第デアリマス、尙ホ其六億幾千萬圓ノ中デ機密費トシテ十一年間ニ支出致シテ居ルモノガ、先ニ御述ニナリマシタ通り二十四萬圓、其二十四萬圓ノ中デ、一番多數ニ使ヒマシタノガ大正七年カラ八年ニ涉リテ、アリマス、即チ兩會計年度ニ使ヒマシタ額ガ前ニ御述ニナリマシタヤウニ約一千八百萬圓、アトノ六百萬圓ハ九年間バカリニ使ハレテ居ルト云フヤウナ狀態デアリマス、ソコデ僅カ二年ノ中ニ千八百萬圓ノ機密費ヲ使フト云フ所ニ、或ハ一部ノ疑點ヲ懷ク者ガアルカモ知レヌト思ヒマス、就キマシテハ其經費ヲ、多額ノ其機密費ヲ使ヒマシタ當時ノ狀況ヲ聊カ申述ベテ、諸君ニ其當時ノ有様ヲ御追想ヲ願ヒタイノデアリマス、御承知ノ通り其當時ハ露西亞ノ革命ガ成立シテ、革命新政府ニ對シテ各處ニ反對ノ軍ガ起リテ居ラ際デアリマス、即チ南露西亞、高加索方面ニ於テハ「デニキン」或ハ「ウランデル」是等ノ兩將軍ガ大軍ヲ起シテ亦衛軍ニ對スル、中部西伯利ニ於キマシテハ「コルチヤク」ノ政府ガ「オムスク」ニ成立致シマシテ、彼ノ配下ニ集ルテ居ル所ノ多數ノ軍隊ハ「ウラル」ノ所ニ於テ、戰線ヲ亦衛軍ニ對シテ形作テ居ル、又後貝加爾州ニ於キマシテハ、御承知ノ「セミヨフ」ガ軍ヲ起シ、大正七年ニ於テハ、マダ其威力タルヤ微々タルモノデアリマシタガ、八年ニ移リマシテ、彼ノ全盛時代ニハ凡ソ五萬以上ノ軍ヲ擁シテ居リマシタガ、向ホ黑龍州ニ於キマシテハ、黑龍哥薩克ノ支隊ガ亦衛軍ニ對シテ事ヲ舉ゲテ居ル、沿海州ニ於キマシテハ「カルミコフ」ガ有力ナ支隊ヲ編成

シテ、亦衛軍ト對抗致シテ居ル、又東支鐵道沿線ニ於キマシテハ「コルワット」ヲ長官ト致シテ其下ニ幾多ノ軍隊ガ編制サレテ亦衛軍ト相對スル、斯ウ云フヤウナ狀態ニナリテ居リマス、又其當時ニ於キマシテハ西伯利ニ拘禁サレテ居ラ所ノ獨逸ノ俘虜十數萬ト云フモノガ解放ヲサレテ、自由行動ヲ取リテ居リマシタ、又聯合軍ト致シマシテハ、帝國軍ハ御承知ノ通り、其當時ハ約四個師團以上ノ軍隊ヲ滿洲西伯利ノ野ニ出シテ居リマシタ、又ソレニ參加致シテ居ル者ハ英、米、佛、伊、支那ヲモ加ヘテ其聯合ノ協同軍ガ約二十萬以上ニ達シテ居リマシタ、ソレガ各處ニ於テ亦衛軍ト對抗致シテ事ヲ致シテ居ル、即チ西伯利全體ノ狀況ハ、亂麻ノ如キ形デアッタト申シテ宜シカラウト思ヒマス、此間ニ處シテ此錯雜錯綜セル狀況ノ下ニ、機宜ヲ制シ行クト云フ上ニ於テハ、頗ル苦心慘憺タルモノガアッタト考ヘマス(拍手)デアリマスカラ私ハ其當時ノ此複雜シタル狀況ヲ能ク頭ニ考ヘテ載キマシタナラバ、是ダケノ經費ヲ使フタト云フコトハ必シモ不當デハナイ、寧ロ私ハ正當ナ進口デアラウト思ヒマス、然ルニ此内容ヲ此處デ申上ダルト云フコトハ、毎々述ベテ居リマス通り、軍部ニ於ケル機密費ト云フモノハ、所謂國軍國策上ノ機務ニ關係シタ方面ニ使用サレテ居ルモノデアリマスカラ、之ヲ公ニスルト云フコトハ、即チ國家ノ爲ニ不利デアリマス、ノミナラズ、寧ロ有害デアルト考ヘラノデアリマス、ソレ故ニ其公表ハ避ケマスガ、併シ其當時ノ狀況ヲ御考ヘ下サツタナラバ、賢明ナル諸君、又一般ノ國民モ、ソコニ冷靜ナル判斷ヲサレテ、判決ヲ得ラル、コト、考ヘルノデアリマス、ソレカラ第二ノ質問ハ、機密費デ公債ヲ購入シ、或ハソレヲ銀行ニ預金シタコトハアルカナイカト云フヤウナ御問ノヤウニ承知致シマシタガ、機密費ヲ以テ公債ヲ買入レ、或ハ之ヲ銀行ニ預金スルト云フヤウナコトハ毛頭ナイト云フコトハ、是ハ再三申上ダテ居

答デアリマス、第三ノ御問ハ共濟組合、其他招魂祭ノ基金ノ運用ノコトニ付テノ御問デアリマシタガ、御説ノ通り、又私カラモ毎回申述ベテ居ル通り、共濟組合、或ハ招魂祭等ノ基金ハ、陸軍省デ運用ヲ致シテ居リマス、此金高ハ時機ニ依リテ増減ハアリマスルガ、目下ノ所デハ凡ソ三百萬圓位ハアルト考ヘテ居リマス、之ニ依リテ公債ヲ買ヒ、又ハソレヲ銀行ニ預金スルト云フヤウナコトハ從來ヤテ居リマス、又今後モヤルノデアリマス、第四ノ御問ハ、去ル十八日ノ報知新聞ニ載リテ居ラタト云フ、即チ陸軍省ガ得體ノ分ラヌ、性質不明ノ八百萬圓ノ金ヲ持テ居ルカドウカ、私ハ新聞其物ハ見マセヌ、唯、只今ノ詰デハ、ソレニ依リテ御疑問ガアルヤウデアリマスガ、ソシナ性質ノ分ラナイヤウナ金ハ陸軍省ニハ一文モアリマセヌ、ドウカ左様御承知ヲ願フテ置キマス(拍手)

○三土忠造君 只今ノ陸軍大臣ノ御説明ニ依リマシテ能ク分リマシタガ、其御説明ニ依リマシテ、私ハ總理大臣ニ御伺シタイト思ヒマス、總理大臣ノ御出席ヲ要求致シマス

○議長(粕谷義三君) 總理大臣ハ只今貴族院ニ於テ、稅制案ノ本會議ガアリマシテ、偶、大藏大臣ガ御病氣ノ爲メ缺席セラレテ居リマスルノデ、代リテ質問ニ應答セラレテ居ルト云フコトデアリマシテ、只今直ニ出席ハムツカシイト思ヒマス、併ナガラ是ヨリ交渉ハ致シテ見マスルガ、直ニ出席ノ如何ハ確メラレマセヌ、三土君ノ總理大臣ニ對スル御尋ハ、他ノ機會若クハ今日質疑ノ終リニ於キマシテ、總理ガ御出席ニナリマシタナラバ、其時ニ御述ヲ願ヒタイト思ヒマス

○三土忠造君 ソレデハ私ハ陸軍大臣ニ對スル質問並ニ陸軍大臣ノ御答辯ヲ、總理大臣ニ出席セラレテ御聽キヲ願フタデ、御質問ヲシタイト思フノデアリマス、只今不幸ニシテ貴族院ノ方ヘ御出席ニナリテ、御出席ニナラヌヤウデアリマスカラ、只今ノ私ノ質問並ニ陸軍大臣ノ御答辯ノ要旨ヲ、國務

大臣若クハ政府委員ノ御方ヨリ總理大臣ニ御傳ヘテ、サウシテ後刻總理大臣ガ御出席ニナリマシタ時分ニ、總理大臣ニ對シテ御質問ヲ致シタイト云フコトヲ保留シテ置キマス

○議長(粕谷義三君) 次ノ質疑者松實喜代太君

〔松實喜代太君登壇〕

○松實喜代太君 諸君、私ハ本日只今議題ニナリテ居ル追加案ノ中、北海道第二期拓殖計畫調査費ト云フ部分ニ限リテ當局者ニ御尋テ致シタイノデアリマス、此費用ハ僅ニ二万五千四百九十七圓ト云フ少額ノ費用デアリマスケレドモ、併シ是ガ北海道第二次拓殖計畫ノ樹立ニ關スル根本ノ調査ヲ行フト云フノデアリマスカラ、北海道拓殖ノ上ニ於テハ、極メテ重要ナル事情デアルト思ヒマスカラ、此會期切迫ノ折柄甚ダ緊縮デアリマスルガ、暫時時間ヲ御割愛ヲ願ヒテ、御清聴ヲ願フ次第デアリマス、私ハ去ル二月九日ニ北海道拓殖政策ニ關スル質問書ヲ政府ニ提出シタイノデアリマシタガ、ソレハ矢張、此問題ニ關聯シタ事情デアリマシタノデアリマス、所ガ三月ノ一日ニ至リマシテ、内務大臣カラ答辯ガアツクノデアリマスケレドモ、其答辯ハ極メテ抽象的デ、私ガ質問シタ要領ニ觸レテ居ラヌノデアリマス、ソレ故ニ私ハ再質問ヲ致シ、又意見ノ陳述ヲ致シタイト今日マデ待テ居リマシタケレドモ、先刻議長ヨリ議場ニ御話ノ通りニ、質問ト云フコトハ今日モ許サレナイノデアリマス、故ニ此問題ニ關聯シテ私ハ少シク意見ヲ述べ、且ツ政府ノ所見ヲ伺フ次第デアリマス

○議長(粕谷義三君) 成ベク簡單ニ……

○松實喜代太君(續) 議長ヨリ成ベク簡單ニト云フコトデアリマスカラ、諸君ガ御清聴ニ聽イテ下サルナラバ簡單ニヤリマスガ、餘リ彼此レ言ハレ、少少トモ一時間位ヤラナケレバナラヌト思ヒマス、諸君ガ御承知ノ通り、現在ノ北海道拓殖事業計畫ハ大體ニ於テ大正十五年度ニ終了ヲ告グルノデアリマス、サウシテ大正十五年度ノ豫算額モ

極メテ不足ニナリテ居ルノデアリマスルカラ、ソレニ又附加ヘマシテ、北海道ニ只今ヤチテ居ル事業ノ中、幾多經費不足ノ爲ニ完了ヲ告ゲナイ事業ガアルノデアリマス、例ヘバ港灣ノ如キニ例ヲ取ツテ見マスルト云フト、澤山漁港港灣ノ修築ヲ爲シツ、アルノデアリマスルガ、其中ニモ港灣ハ二千四百餘萬圓ノ金ガナケレバ現在ノ計畫ガ終ラナイ、又漁港ノ方デモ五ツノ漁港ヲ修築致シテ居ルノデアリマスルガ、是モ四百二十七萬餘圓ト云フ金ガナケレバ、今後之ヲ遂行シテ行クコトガ出来ナイト云フヤウナ現状ニ在ルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマスルカラ、政府ハ昨年時ノ長官ニ命令ヲ致シマシテ、サウシテ新ニ第二次拓殖計畫ノ樹立ヲ立案ヲ命ジタイノデアリマス、サウシテソレ同時ニ政府ハ大藏省主計官ノ荒川昌二氏、又當時ノ内務次官淺見壽平氏、又當時ノ内務省ノ政務次官現前商工大臣ノ片岡溫氏、又現内務省政務次官ノ俵氏ヲ派遣シテ、實地ノ調査ヲ爲サシメタルノデアリマス、サウシテ一面ニ於テハ道廳ニ於テ新計畫ヲ樹立シテ、サウシテ五十一議會ニハ提出シナケレバナラヌト云フノデ、長官始メ其他ノ首腦部ハ晝夜兼行ニ從事シタノデアリマス、是ハ天下公知ノ事實デアリマス、斯ノ如ク中央政府カラハ幾多ノ官憲ガ出張シ、又道廳ニ於テモ非常ナ勢カヲ以テ一意氣組ヲ以テ調査シタイノデアリマスルカラ、民間ニ於テモ或ハ政黨ノ意見ノ發表トナリ、或ハ新聞紙上ニ於テ意見ノ陳述トナリ、サウシテ北海道ニ於テ見シテハ頗ル大騒ギヲヤツテ、サウシテ是非共此五十一議會ニ於テハ此計畫ノ遂行ヲサレタイト云フノデ、種々調査研究ヲ重ネタノデアリマス、サウシテ道廳ニ於テハ、結局二十箇年約十億萬圓ヲ費シテ、サウシテ拓殖事業ヲヤルト云フ案ヲ立テ、之ヲ内務省ニ移シ、内務省ハ又幾多調査研究ノ結果ト致シマシテ、多少ノ修正ヲ道廳案ニ加ヘマシテ、サウシテ成案ト爲シテ之ヲ大藏省ニ送付シタト云フコトデアリマス、サウシテ内務省ト大藏省トハ幾多交渉折衝ノ結

果、遂ニ此成案ハ大藏省ノ同意ヲ得ズシテ、サウシテ一年ヲ延期シ、更ニ調査會ヲ設置シテ調査スル、斯ウ云フコトヲ主張致シマシタ爲ニ、遂ニ内務省ハ之ニ讓歩致シマシテ、サウシテ其事ニ決シ、即チ只今此御提案ニナリテ居ル所ノ拓殖計畫ノ調査費ト云フモノハ、此處ニ基イテ居ルノデアリマス、然ルニ只今私ガ申上ゲタヤウニ、道廳當局ハ幾多ノ調査研究ヲシ、又政府ノ要路ノ大官ガ相繼イデ北海道ニ御出張サツテ、サウシテ調査研究ノ結果立案ヲ得タノデアリマス、然ルニ更ニ又茲ニ經費ハ僅カナリト雖モ調査シナケレバナラヌト云フ理由ハ何處ニ在ルノデアリカ、之ヲ明ニシナケレバナラヌト思フノデアリマス、此事柄ハ極メテ小サナイヤウデアリマスケレドモ、決シテ小サナイヤウデアリマスノデアリマス、結局大正十五年度ノ豫算案ニ對シテ——豫算案ト申シマスルガ、以前ニ殘リテ居ル案ニ對シテ一時ヲ糊塗スルコトニナツタノデアリマス、此二百八十萬圓ノ増額ヲ、十五年度ノ以前ニ殘リテ居ル經費ニ加ヘルト云フト、合計一千九百九萬三千餘圓ト云フコトナルノデアリマスルガ、之ヲ以テ大變成功デアリカ如ク得タシテ誇テ居ル者ガアルト云フコトデアリマスルガ、併シ之ヲ十一、十二年度ノ豫算、即チ一千九百三十餘萬圓ニ比較スルト云フト、尙ホ足ラザルコト二十餘萬圓デアリマス、是ハ言換ヘテ見マスルト云フト、大正十四年ニ財政整理緊縮ヲ行フタ結果減額サレテ居タモノガアツタガ、ソレヲ幸ウジテ復活シタニ過ギナイ、復活ト申シテモマダ二十餘萬圓ノ經費ガ不足ニナリテ居ルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ次第デアリマスルガ、何故ニ先程モ申上ゲマシタヤウニ、更ニ調査會ヲ組織シナケレバナラヌト云フノデアリカ、之ヲ先ゾ第一ニ御伺シタイノデアリマス、サウシテ第二ニ御聞キシタイノハ、此處ニ計上シテ居ル所ノ經費ハ僅ニ二萬五千餘圓デアリマスルガ、更ニ調査費ト云フナラバ是位ノ經費ヲ以テ調査ガ出来ル筈ハ無い、

ドウ云フコトヲ調査スルノデアリカ(議長定數ヲ缺イテ居ル)ト呼フ者アリ)調査項目ハ如何ナルモノデアリカ、此事ヲ御聞キシタイノデアリマス、マダ調査シナイノデアリカラ答辯ノ限リニアラズト、斯ウ仰セラレルカ知リマセヌガ、併シ白紙ヲ以テ調査ハ出来ナイノデアリマス、少クトモ今ハ(定數ヲ缺イテ居ル)ト呼フ者アリ)最早此調査ニ付スル所ノ項目、斯ウ云フ方面ニ對シテ調査ヲスルト云フ所ノ案ガナケレバナラヌノデアリマス(定數ヲ缺イテ居ル)ト呼フ者アリ)問ク所ニ依ルト此頃新聞デハアリマスルガ、内務省ハ長官ニ命ジテ二十箇年ニ僅ニ六七億ノ限度ヲ以テ、サウシテ更ニ立案ヲシロト云フコトヲ命ジタト云フコトデアリマスガ、併シ是ハ新聞或ハ世評デアリマスルカラ、果シテ事實ノ有無ハ私ハ能ク分ラヌ、是等ニ對シテ内務省ハサウ云フコトヲヤリツ、アルカ(二百名ヲ缺クマシタ)ト呼フ者アリ)如何カト云フコトヲ御聞キシタイノデアリマス、一體政府當局ニ對シテ私ガ御伺シタイコトハ、北海道ノ此拓殖政策ニ關スル根本ノ事情デアリカト申スト、國策上ニ於ケル北海道ノ眞價ト云フモノヲ政府ハ誤解シテ居ルノデハナイカト思フノデアリマス(「定數無し」譯聽)ト呼フ者アリ)政府ガ見テ居ル所ノ北海道ニ將來何程ノ人口ヲ收容シ得ルカ、是ガ先ゾ根本ノ問題ダト思ヒマス、道廳ノ調査ナドヲ見マスルト云フト五六百萬人位デアラウト云フコトデアアル、先達テ僕次官ガ貴族院ノ委員會ノ質問ニ答ヘタニハ八百萬人ダラウ、八百萬人位デアラウト云フコト、是モ新聞デ見タノデアリカ、果シテサウ云フヤウナ見當デ居ルヤ否ヤ、斯ウ云フコトヲ先ゾ伺ヒタイノデアアル、其次ニハ目下問題ニナリテ居ル食糧ノ關係デアアル、先ゾ日本ノ國民ノ常食タル所ノ米、此米ハ北海道ニ何程ノ生産ヲセシムル目標ヲ以テ拓殖計畫ヲ立テルノデアリカ、此事モ矢張道廳ナドハ五六百萬人ヲ限度トシテ計算シテ居ルサウデアリマスガ、吾々ノ考フル所ニ依ルト、吾

吾ノ調査シテ居ル所ニ依ルト一千万石以上
一千二百万石マデハ生産シ得ル所ノ可能性
ヲ持テ居ルト思フノデアリマス、此事ニ付
テ詳細ニ述ベマス、又時間ヲ取ルカラ餘
リ詳細ハ申シマセヌガ、是等ニ付テ如何ニ
考ヘテ居ルカ、是ガ即チ拓殖ノ根本義デ
ルト私ハ思フノデアリマス、其次ニハ北海
道デ只今生産シテ居ル所ノ甜菜精製糖デ
リマス、是モ政府ハ今年相嘗ニ補助ヲ出シ
テ居ルヤウデアリマスガ、併シ吾々ノ調査
ニ依リマス、北海道ニ於ケル砂糖ハ、約
四億斤位ヲ生産シ得ルト思フノデアリマ
ス、若シ假ニ四億斤生産シ得ルノナラバ、
直ニ是デ外國カラ輸入スル所ノ砂糖ノ問題
ヲ解決スルノデアリマス、米ノ如キモサウ
デアリマス、米ノ如キモ只今私ガ申上ダ
ヤウニ、一千万石以上一千万石位ノ可
能性ガアルモノトスルナラバ、直ニ米ノ
輸入ノ問題ハ解決スルノデアリ、ソレカラ
又次ニハ生産總額ト云フ問題ニ觸レテ御
ヲシタイ、生産總額ハ政府ハ如何ナル目
標ヲ以テ居ルカ、斯ウ云フコトデアアルノ
デアリマス、是モ極メテ消極的ニ計算スル
者ハ、將來北海道十億位デアラウト云フ
コトノ説ヲ爲シテ居ル者ガアルカ、是ハ又
極メテ誤、テ居ルモノデアルト私ハ思フ
デアリマス、何故ナレバ只今北海道ノ一
人當リノ生産額ハ何程デアラカト申シマ
ス、一人當リノ生産額ハ二百十七圓
ト云フコトニ、大正十三年度ノ統計デハナ
テ居リマスガ、若シ吾々ノ主張スルガ如ク
ニ一千万人ノ人口ヲ包容シ得ルト云フコ
トニナリマスナラバ、即チ二十億以上ノ生
産總額ヲ得ルコトハ少シモムツカシイ事
デハナイ、ソレハ今日ノ大正十三年ヲ基
礎トシテノ計算デアリマス、吾々ノ希望
スル所ニ依ルト、一人當リノ生産額ト云
フモノ今日以上ニ進メナレバナラヌ、少
クモ一人當リハ三百圓位マデナラナレ
バナラヌ、即チ一家五口アルト、一家ノ
收入、生産額ハ一千五百圓位ノ所マデ進
ムコトハ敢テ疑クナイト思ヒマス、サウス
ト云フ北海道ハ、將來ニ於テ三十億圓ノ

生産總額ヲ舉ゲルト云フコトモ、是モ餘
難ノ事デナイノデアアル、是等ニ付テ政府
局ハ如何ニ考ヘテ居ルカ、或ハ是モ調
査シテ行クノデアアルト云フ御答アルカ
モ知レマセヌガ、ソレハ當ラヌト思フ、何
故ナレバ斯ウ云フ大體ノ口實ハ、今日マ
デ既ニモウ付テ居ラナレバナラヌ、今
後僅ニ二萬何千圓ノ調査スルト云フコ
トハ、或ハ枝葉末節ノコトデアレ、大體
ノ方針ト云フモノハ既ニ決定シテ居ラ
ナレバナラヌト思フノデアリマス、此
問題ヲ決定シナレバ、北海道ニ金ヲ澤
山使フテ善イカ悪イカト云フコトハ問
題デアリマス、只今道廳アタリノヤ、
テ居ル四百萬石カ五百万石ノ人口ホカ
包容シナイ、或ハ生産總額モ十億圓ヲ
目標トシテ居ルトカ、米ノ如キモ五
百万石ヲ目標トシテ居ルトカ、米ノ如
キモ五百万石ヲ目標トシテ居ルトカ、
如何ニ北海道ニ多大ノ經費ヲ投ジテ、
サウシテ拓殖ヲ進メテ果レト申シテモ、
ソレハ國家ガ其支出ヲ計サナイト云フ
コトモ當然デアアルノデアリマス、吾
々ハ斯ノ如ク北海道ヲ多大ニ有望ナル
モノト見テ居ル、ソレ故ニ北海道ニ對シ
テハ積極的政策ヲ立テラレテ、サウシ
テ大ニ拓殖ノ振興ヲ期セラレテ、サウ
シテ先刻モ申上ダゲタヤウニ「簡單々々
」ト呼ブ者アリ、外國ノ米ノ輸入ヲ防
止、砂糖ノ如キモ輸入ヲ防ぎ、其他
年々四億カ五億ノ輸入ノ逆調ヲ轉換
スルト云フコトハ、最モ易々タル事
デアラカト申シマス、是ハ所謂國家上
カラ見テ、北海道ノ價值ヲ斯ノ如ク
見タラバ、先刻申シタヤウニ二十年
間ノ期シテ僅ニ六億七億、乃至八億
位ノ金ヲ省キムト云フヤウナコト
デハ、到底此國策ノ遂行ヲ期シ得ル
モノデナイノデアリマス、是非共之
ニ就テ政府ガ如何ニ考ヘテ居ルカ、
ソレヲ御伺シタイノデアリマス、只
今申上ダゲタヤウニ是カラ調査スル
ト云フナラバ、是ハ二萬圓ヤ三萬圓
ノ金ヲ投ジテ調査ノ出來ルモノ
デハナイ、デアリマスカラ如何ナル
程度ニ於テ此拓殖計畫ノ調査スル
ノデアアルカト云フコトヲ、此際詳
細ニ御説明ヲ願ヒタイノデアリ
マス

〔政府委員俵孫一君登壇〕
○政府委員(俵孫一君) 只今ノ松實君ノ御
質問ニ對シテ御答致シマス、松實君ノ御
質問ハ拓殖調査費ト云フモノニ付テ、何
ヲ調査スルカト云フコト、今其調査費ヲ
要求スル必要ハ何處ニ在ルカト云フコ
トノ御尋ノヤウデアリマシタ、成程御
話ノ通り、昨年ニ於キマシテ内務省ニ
於キマシテハ、北海道拓殖計畫ノ第二期
計畫ニ付キマシテ、十分ナル調査研究
ヲ致シタノデアリマス、併ナガラ此計
畫ハ今年ハ止メマシテ、明年ニ更ニ計
畫ヲスルコトニ至リマシタ理由ハ、調
査研究ヲ致シマシタ上ニモ尙十分ニ調
査スル必要ガアルト云フコトガ一ツ、
モウ一ツハ只今松實君モ御話ノ通り、
現時大正十五年ハ尙第一期拓殖計畫
事業ノ進行中デアリマス、此年
度ガ過ギタ後ニ於キマシテ第二次計
畫ヲ立テ、モ決シテ晩シトシナイ、
斯ウ云フ理由デアラナラバ、ソレ故
ニ明年ニ於キマシテ、即チ本年
度ニ於テ第二期拓殖計畫ニ對シテ尙
十分ニ調査研究ヲスルコトヲ必要ガ
アル譯デアリマス、而シテ第二期ノ
御質問ト致シマシテハ、ソレナラバ
少シ彈山ノ費用ガ要ルデアラウ、
斯ウ云フ僅カナル金ヲ以テ何ヲ調
査スルカト云フコトデアリマシタノ
デアリマスガ、此調査費ハ各官廳間、
各省ノ拓殖計畫ニ關スル所ノ事務上
ノ連絡ヲ取ル爲デアアルノデアリ
マス、從來ニ於キマシテハ内務省
乃至北海道廳ガ之ニ對シテ調査シ
テ居リマシタカ、之ニ就テハ大藏省
ノ調査ヲ必要トスル場合ガアリマ
ス、又進んでハ農林省、或ハ商工
省ノ政府當局ノ調査ヲ必要トスル
モノモアリマス、ソレデアリマス、
モウ一步進んで申シマス、尙ホ通信
省ノ當局ノ調査ヲ必要トスルモノ
モアリマス、是等ノ各官廳ノ當局
ノ此北海道拓殖ニ關スル所ノ調査
ヲ十分ニ致シマシテ、以テ尙ホ念
二念ヲ入レタ研究ヲ致シマシテ、
追進ナキヤウニ更ニ第二期計畫
ニ進ミタイト云フ積リデアリマス
ノデアリマス、ソレニ付キマシテハ、
北海道ノ産業ニ關ス

ル根本調査ガドウデアアルカト云
フコトデアリマスガ、是ハ松實君モ
多分御小知デアリマセウガ、北海
道廳ニ於キマシテハ、北海道上
云フモノニ關スル生産ノ根本的
調査ハ、多年ニ亘リテ研究シテ
アリマスノデアリマス、即チ人口
ノ問題ニ於キマシテモ、米ノ問題
ニ於キマシテモ、將又製糖ノ砂糖
ノ問題ニ於キマシテモ、或ハ生
産其他ノ問題ニ於キマシテモ、
總テ北海道廳ニ於キマシテハ、
多年ノ年月ヲ費シ、多大ノ費用
ヲ費シテ、是等北海道ニ關スル
生産ノ根本的調査ガアルノデア
リマス、是等ノ調査ガ更ニ問
違テ居ルカドウカト云フコトハ、
勿論計畫ヲ遂ゲマスル上ニ於
テハ考慮スル必要ハアリマス
ガ、今更ニ其點ニ於テ餘リ深ク
調査スルト云フ考モアリマセヌ
ノデアリマス、即チ今申シマス
ル通り、本年ニ於キマシテ更
ニ十六年度ノ豫算ヲ編成シマス
時ニ當テ、更ニ第二期拓殖計畫
ノ必要ヲ感ジマスルガ故ニ、其
各官廳ノ事務ノ連絡統一ヲ圖
リマシテ、尙ホ拓殖計畫ノ完
璧ヲ期シマスル爲ニ、調査ヲシ
ヤウト云フコトデアリマス、
調査費ヲ要求シタ次第デアリ
マス
○松實君代太君 マダ幾多質問
致シタイ事ガアリマスガ、會期
モ切迫致シテ居リマス、カラ省
略致シマス、唯、此席デ一言御
許シテ願ヒタイノハ、先刻委員
長ガ御話ニナリマシタ希望附
帶決議ト云フモノニ對シテ、
政府ノ所見ヲ伺ヒタイノデア
リマス、即チ之ヲ容レ得ルヤ否
ヤト云フコトヲ伺ヒタイノデア
リマス
〔政府委員俵孫一君登壇〕
○政府委員(俵孫一君) 此問題
ニ付キマシテハ、豫算總會ニ於
キマシテ、内務大臣ヨリモ御答
ニナシタノデアリマス、此委員
長ノ御報告ノ北海道調査、其
調査會ニ於キマシテハ、民間ノ
經驗者ヲ將タ學者モ尙ホ入
レテ、調査會ノ組織ヲシテ實
ヒタイト云フ御希望デアリマス
ガ、此點ハ御趣意ハ民間ノ希
望、乃至民間ノ意見ヲ此拓殖
計畫ニ挿入スルヤウニト云フ御
趣意デアリマス、御九千萬
デアル、實ハ民間ノ有志者
クハ學者ノ意見ト申シ

マスモノハ、既ニ昨年ニ於テ調査シタ際ニ於テモ、北海道ニ於ケル或ハ政友會、或ハ憲政會、將又政友會ノ諸君ノ意見ハ、悉ク一應ノ調査研究ヲ遂ゲラレテ、其意見ノ御發表ガアリマスノデアリマスガ、勿論ソレヲ以テ十分ハ致シマセヌ、尙ホ今後ニ於テモ、民間ノ諸君ノ御意見ハ十分ニ聴クコトヲ政府ハ喜ンデ居ルデアリマス、併シ此調査ノ目的ハ、只今モ丁度松實君ノ御質問ニ對シテ御答シマシタ如ク、行政官廳間ノ其統一、其連絡ヲ圖リマシテ、行政のニ、事務的のニ、此拓殖計畫ノ調査ヲ致シタイト云フ積リデアリマス、然ルニ之ニ對シテ更ニ民間ノ委員ヲ入レルト云フコトニナリマス、此費用ヲ以テシテハ到底支辨シ能ハヌノデアリマス、唯、單ニ此費用ヲ以テ支辨シ能ハヌカラ、其御意見ヲ採用スル譯ニハ行カヌト申上ゲルノデアリマス、而シテ更ニ此調査會ハ、勅令ヲ以テ其官制ヲ作ルニアラズシテ、單ニ内閣ノ閣議ノ決定ニ據テ、申サバ調査會ハ極ク輕イ意味ニ於テノ調査會ニ致シマス積リデアルノデアリマス、ソレ故ニ更ニ此調査會ニ於キマシテ、民間ノ諸公ヲ御入レセヌデモ、民間ノ諸君ノ御意見ハ、總テノ機會ニ於テ十分ニ尊重致ス積リデアルノデアリマス

○議長(粕谷義三君) 三土忠造君ニ申シマス、只今總理大臣ガ御出席ニナリマシタカラ、先刻保留ニナリマシタ質疑ヲ御進メテ願ヒマス

(三土忠造君登壇)

○三土忠造君 先刻私ガ陸軍大臣ニ對シテ質問致シマシタ、其質問ト陸軍大臣ノ答辯トヲ、總理大臣ニ御聴キテ願ヒ、其上ニ總理大臣ニ質問ヲ致シタナラバ宜カラウト思ウタノデアリマスガ丁度貴族院ノ會議中デ已ムヲ得ズ御退席ニナリマシタ、甚ダ遺憾デアリマス、故ニ私ハ國務大臣及政府委員ノ方ニ、此質問應答ノ要領ヲ總理大臣ニ御傳ヘテ願ヒタイト申シテ置イタノデアリマスガ、多分御傳ヘ下スヲ事ト考ヘマス、又明敏ナル若槻總理大臣ハ、兩方ノ質問應

答ヲ十分御了解アツタ事ト考ヘマス、其信用ノ下ニ質問ヲ致スノデアリマス、我ガ帝國陸軍ニ對スル國民ノ疑念ト云フコトハ、私共ハ非常ニ重大問題ト考ヘテ居ルノデアリマス(ヒヤ)申ス迄モナク我ガ忠勇義烈ナル陸海軍、此光輝アル我ガ陸海軍ニ對シテ、苟モ國民ヲシテ毫末モ之ニ對スル疑念ノ念ヲ懷カシムルコトガアリマシテハ、吾等ハ極力是ガ一掃ニ努メナケレバナラヌト思フノデアリマス(ヒヤ)又疑念ヲ懷カシムルヤウナ種ガアツタ致シマスルナラハ、是ハ重大問題デアリマス、陸軍ニ向テハ非常ナ吾々ハ決心ヲ以テ適當ノ處置ヲ講ジナケレバナラヌノデアリマス、然ルニ先日同僚秋田清君ノ質問並ニ陸軍大臣ノ答辯ニ對シテ、總理大臣ハ陸軍大臣ノ言明ヲ保證サレマシタ、即チ陸軍大臣ハ三瓶某ノ作成シタル文書、並ニ之ニ依テ爲サレタル議員中野正剛君ノ言フガ如キ事ハ、荒唐無稽ナ事デアリマス、事實無根ナ事デアルト云フ意味ノ事ヲ明瞭ニ言明サレタノデアリマス、之ニ對シテ若槻總理大臣ハ裏書ヲサレ、同ジ責任ヲ分ツト云フコトヲ申サレタノデアリマスルガ、然ラバ憲政會ハ黨議ヲ以テ中野正剛君ニ質問ヲセシメタト云フコトデアリマスカラ、之ニ對シテ如何ニ責任ヲ感ジラレルカト云フコトヲ御尋シマシタ所ガ、黨議トハ自分ハ聞イデ居ナイ、黨議ナラバ責任ヲ帶ビルケレドモ、黨議トハ思ウテ居ラヌカラシテ責任ヲ帶ビナイ、斯ウ云フ事デアリマシタ、私共ハ直接勿論憲政會ノ黨議決定ノ席ニ臨ンデ居リマセヌノデアリマスカラ、黨議デアイト仰シヤレバ、黨議デアイト受取ル外ハアリマセヌ、併シ事實ハ黨議デアイト思ヒマスガ、ソレハ黨議デアイトカナカッタカト云フコトヲ、今日御尋スル必要ハナイ、中野君ガ先達テ爲サレタ演說ニアノ内容ヲ持テ居ルナラバ、或ハ憲政會ノ幹部諸公モ許サレナカッタカモ知レヌト思フ、併シ今日カラ申シマスルト、アノヤウナ所謂荒唐無稽ナ事實ヲ基礎トシテ演說サレマシテ、是ガ爲ニ非常ナ國民ニ疑念ヲ懷カシメタノデアリマスカラシテ、若シ若

槻總理大臣ガ、先日陸軍大臣ノ當席ニ於テ御述ニナツタ事、並ニ先刻私ノ質問ニ對シテ御答辯ニナツタ事ガ、全部其通りデアルト云フコトヲ御確信ニナルナラバ、中野君ノ演說サレマシタ以後ニ於テ、或ハ中野君ノ動議ヲ撤回セシムルトカ、或ハ其他適當ノ處置ヲ講ジテ、サウシテ國民ノ疑念ヲ解決コトニ努メルコトガ憲政會ノ總裁デアツテ、總理大臣タル若槻首相ノ洵ニ免ルベカラザル責任ト私ハ考ヘルノデアリマス(拍手)然ルニ如何ニモ不可思議ニ考ヘマスノハ、其後憲政會ヲ代表セラレタル御方ノ此壇上ニ於ケル御演說ヲ聴キマシテモ、陸軍大臣並ニ總理大臣ハ左様ニ言ハレタ、荒唐無稽ト言ハレタト云フケレドモ、自分等ハ荒唐無稽トハ思ハヌト、憲政會ノ代表者ガサウ言ハレルノデアリマス、荒唐無稽ニアラズト言ハレルノデアリマスガ、而シテ今尙ホ中野君ノ動議ニ因ル査問委員會ハ繼續サレテ居ルノデアリマス、總理大臣ニシテ憲政會ノ總裁タル若槻君ガ、陸軍大臣ノ言明ヲ信用サレルト云フコトヲ聲明シテ置キナガラ、而シテ中野君ノ御演說ガ非常ニ我ガ陸軍ニ對シテ疑念ヲ懷カシメ、我ガ國軍ノ將來、國民思想ノ上ニ重大ナル影響ヲ及ボスコトニナツテ居ルノデアリマス(拍手)之ヲ憲政會ノ總裁並ニ輔弼ノ重責ヲ帶ビラレル若槻首相ト致シマシテ、袖手傍觀シテ居ルコトヲ私共ハ甚ダ不可思議ニ思フノデアリマス(拍手)故ニ尙ホ今日ニ及ビマシテモ、只今ノ私ノ質問、陸軍大臣ノ御答辯ノ要領ヲ御聴キ下サツタコト、考ヘマスガ、其上デ總理大臣ハ、晚シト雖モ議員中野君、即チ政府與黨タル總裁ノ節度ノ下ニ服スベキ中野君ノ此提案ヲ撤回セシメ、而シテ國民ノ疑念ヲ解決スルニ出ヅルト云フ御意思ガアルカ否ヤ、之ヲ伺ヒタイノデアリマス、若シ無シトスルナラバ其理由ヲ承リタイ其理由ヲ承ツタ上デ、私共ハ満足出來マセナカッタナラバ、適當ノ處置ヲ執ラナケレバナラヌト考ヘマス、此場合ニ明瞭ニ御答ヲ願ヒマス(拍手)

○國務大臣(若槻禮次郎君) 私ハ過日モ御答ヲ致シテ置キマシタガ、吾々政黨員デ互ニ居リマスル以上ハ、常ニ總テノ事ガ同一ニ出ヅルコトヲ望ムノデアリマス、併ナガラ大勢ノ人ノ集テ居ルコトデアアル、個々ノ人ノ意見ヲ悉ク左右スルコト云フコトハ出來ヌノデアリマス、ソレデアリマスカラ私ハ私ガ聽イデ居ツテ、自分ガ判斷シテ宜イト言フテ實行シタ黨議ニ付テハ、何所マデモ責任ヲ負ヒマスガ、唯、個々ノ議員ノ如何ナル言論ニ付テモ悉ク責任ヲ負フ譯ニハ行カヌ、斯ウ云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、而シテ中野君ノ言論ニ對シテハ、只今議會ニ於テ之ヲ査問委員會ニ付シテ居ラレルノデアリマス、ソレ故ニ議會ガ御判斷爲サルベキコトデアアル、議會ノ御判斷デ、私モ然ル後之ヲ考慮致シマス(拍手)

(三土忠造君登壇)

○三土忠造君 只今ノ御答辯ヲ伺ヒマシテハ、重ネテ御確メヲシナケレバナラヌノデアリマスガ、私モ勿論政黨ノ總裁ト致シテ、所屬議員ノ言論ニ一々統制ヲ加ヘルト云フコトノ困難ナコトハ能ク存ジテ居リマス、隨テ之ニ對シテ一々責任ヲ帶ビルコトヲ強フル者デアリマセヌ、併ナガラ此問題ハ帝國ノ國軍ノ威信ニ關スル非常ナ重大問題デアリマス(拍手)

(此時發言スル者多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○三土忠造君(續) 若シ議員中野正剛君ノ言論ニ依テ、寸毫タリトモ我ガ帝國ノ陸軍ノ信用ニ關スル結果ヲ來スナラバ、總理大臣ト致シマシテ私ハ默止スルコトハ出來ナイト思フノデアリマス、査問委員會ニ於キマシテ議會ノ問題トナツテ居ルコトハ申スマデモアリマセヌ、査問委員會ニ於ケル正式ノ手續ニ依テノ問題ヲ私ハ總理大臣ニ御伺スルノデアリマセヌ、總理大臣ガ眞ニ帝國ノ陸軍ノ事ヲ憂ヘラレ、眞ニ輔弼ノ責任ヲ盡サウト云フ御考ナラバ、私ハ自分ノ節度ノ下ニ在ル議員ノ行動ニ對シテ統制ヲ加ヘ、サウシテ之ニ依テ國民ノ疑念ガ解ケルト云フナラバ、當然執ラナケレバナ

ラヌ手段ト考ヘル(拍手)ソレヲ總理大臣ガ其責任ヲ回避サレテ、成行ニ委スト仰シタルナラバ、私共ハ最早之ニ對シテ御尋スル必要ハアリマセヌ、吾々ハ權能ニ依テ適當ノ處置ヲ執ル外アリマセヌ、唯私ハ若槻總理大臣ニ、私ガ今申スヤウナコトヲ爲スツタ方ガ、内閣ノ爲ニモ、國家ノ爲ニモ私ハ宜シクナイカト考ヘルノデアリマス、故ニ左様ナ事ハ出來ナイカト云フコトヲ今一度御尋致シマス

〔國務大臣若槻禮次郎君登壇〕
○國務大臣(若槻禮次郎君) 再質問デアリマシタガ……

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス
○國務大臣(若槻禮次郎君)(續) 再ビ御質問デアッテ、而モ御忠告デアリマシタガ、私ハ先刻答辯致シタ通りデ之ニ加ヘルモノアリマセヌ(拍手)

○議長(粕谷義三君) 丸山浪彌君

〔丸山浪彌君登壇〕
○丸山浪彌君 私ハ極メテ簡單率直ニ內務大臣ノ所見ヲ御伺シテ置キタイノデアリマス、併ナガラ先刻委員長ノ御報告中、此附帶決議ニ付テハ丸山ヨリ何レカ申出ルダラウト云フコトノ御言葉殘サレマシタ、委員會ニ於キマシテハ、私ハ特ニ委員長ヨリ附帶決議ノ内容ヲ申述ベテ貰ヒタイト云フコトヲ註文シテ置キマシタガ、委員長ハ私ヨリ述ベルト云フヤウニ、私ニ陳述ノ機會ヲ與ヘラレマシタガ故ニ、餘儀ナク此點ニ付テ極メテ簡單ニ諸君ノ御耳ヲ汚シテ置カナクレバナラヌ、此附帶決議ナルモノハ、先刻松實君ノ御演說中ニ、北海道拓殖論トシテ其片鱗ヲ現ハシテ居リマシタ、唯、吾々ガ是非附帶決議ヲ加ヘナクレバナラヌ所以ノモノハ、若シ政府ノ原案ノ儘ニシテ此案ガ通過スルノデアタナラバ、今日ノ北海道ニ於ケル道民ガ政府ヲ見ルノ眼ハ、此拓殖調査會ナルモノハ眞ニ拓殖ノ調査ヲ爲スモノニアラズシテ、憲政會ノ黨勢擴張ノ機關デアルト見ラル、虞ガアル、此故ニ私ハ附帶決議ヲ附シテ置イタルデアアル、所デ

委員會ニ於テハ內務大臣ハ、此會ハ各本省ノ聯絡ヲ圖ルガ爲ニ設クル調査會デアルガ故ニ、特ニ民間ノ有志ヲ加フルノ必要ガ無イト云フノ御答辯ガアツタノデアアル、諸君是ニ於テ僅ニ二萬五千有餘圓ノ調査會費用デアルケレドモ、二萬五千ノ調査會費用ノ中ニ、一萬二千有餘圓ト云フモノハ悉ク旅費ニ使用サレテ居ルデハナイカ、今日北海道ノ拓殖計畫ナルモノハ、業ニ既ニ諸君御承知ノ通り、民間ヨリモ、政府ヨリモ、微ニ入り、細ニ涉リテ殆ド隅カラ隅マデ港灣、道路、到ル處其調査シ盡サルモノナキモノガアルノデアリマスゾ、既ニ二十箇年案トシテ十二萬圓、又憲政會案トシテモ二十箇年案トシテ十萬圓、政府案トシテモ九萬二千圓、左様ニ幾多ノ成案ト云フモノガ十分ニ出來テ居ルノニ、更ニ調査會ニ名ヲ藉リテ調査會ヲ設立スル必要ガ何處ニ在ルカ、只今僕內務次官ハ、念ニハ念ヲ入レルト言ウタ、念ニハ念ヲ入レルト云フ言葉ヲ以テ此調査會ノ必要アリトシタナラバ、今後何年ノ後ニモ念ニハ念ヲ入レルナラハナラヌ必要ガアル、斯様ナ言葉ノ下ニ、徒ニ名ヲ調査會ニ藉リテ、憲政會ノ黨勢擴張ヲ爲スト云フコトハ、實ニ國家ノ爲ニ憂フル所デアアル(拍手)私ハ豫算總會ニ於テ、特ニ今日マデ政府當局ハ北海道ヲ親シク視察セラレタル其際ニ於テ、現ニ僕內務次官ガ昨午北海道ヲ視察セラレ、余市町ノ町議會ヲ始メ町民五百餘名ヲ悉ク憲政會ニ入黨セシメタ事實ハ、天下公知ノ事實デアアル(拍手)是ハ此余市港ノ漁港問題ヲ餌トシタルモノデアルト云フ、此位ノ事ハ憲政會ノ代議士諸君ト雖モ之ヲ認メナクテハナラヌノデアアル(拍手)是ハ單ニ一ノ事例デアアルケレドモ、恐ラク今後此調査會ナルモノハ、憲政會ノ政府委員諸君ノニ依テ組織セラレタナラバ、折角眞面目ニ調査セント欲スル所ノ調査會デモ、道民ノ眼ヨリハ疑惑ノ眼ヲ以テ判斷セラレルト云フコトハ、實ニ政府當局ノ爲ニ惜ムベキコトデアアル、所デ私ハ先刻委員長ノ申述ベラレタ

ルガ如ク、希望ヲ附帶決議ト致シマシタ、所デ若槻內相ハ又御見エニナラヌガ、是非若槻內相ヨリ御答ヲ得タイ問題デアアルガ、此附帶決議ナルモノヲ內相ハ如何ニ取扱ハレルデアラウカ、現政府ハ院議ヲ無視ナシタル所ノ先例ガアル、貴族院ニ於テ文部大臣ガ陳謝シタルノ事實モアル(ヒヤヒヤ)洵ニ此憲法上ノ立憲的行動ノ上ニ於テハ、私ハ一點ノ疑ヲ挾マザルヲ得ナイ所ノ政府ノ行動デアアル(拍手)私ガ若シ此條件ヲ單ニ一ノ希望ト致シマシタナラバ、憲政會ノ諸君ヲ清水君ガ代表シテ御贊成爲サルト云フコトデアッテ、單ニ一ノ希望ノミデハ、折角ノ此決議ナルモノハ有效ニ如實ニスルコトガ出來ナイ、故ニ特ニ附帶決議ト爲シタルガ故ニ、憲政會ノ諸君ヨリハ反對セラレタ、諸君此處デ念、附帶決議ナルモノハ委員長報告通り、本會ニ於テ必ズ満場ノ大多數ヲ以テ通過セラレルニ違ヒナイガ、當局若槻內務大臣ハ此院議ニ對シテ如何ニ取扱ハレルカ、若シ此院議ナルモノヲ無視シテ、假ニ政府提案ノ其通りニ之ヲ實行セラレルト云フコトデアアルナラバ、其非立憲的內閣ニ對シテ吾々ハ今後ノ深キ警戒、今後ノ深キ注意ヲスルモノガアルノデアアル(拍手)此問題ニ對シ內閣大臣、責任アル內務大臣ハ如何ニ取扱ハル、ノデアアルカト云フコトヲ、內務大臣ニ向ッテ簡單率直ナ御答辯ヲ煩スノデアリマス、只今內務大臣ハ出席ガアリマセヌガ、特ニ政府委員ヨリ此意味ヲ御通達ノ上、內務大臣ノ御答辯ヲ煩シタイト思ヒマス(拍手)

〔政府委員俵孫一君登壇〕

○政府委員(俵孫一君) 只今丸山君ヨリ特ニ內務大臣ノ御答辯ヲ求メラレタノデアリマスガ、御出席ガアリマセヌカラ、私デ宜シケレバ私ガ御答致シマス(丸山浪彌君「內務大臣デナクテバイケナイ」ト呼ブ)內務大臣ノ答辯ヲ御必要トセラレタナラバ、其御答辯ハ後ニ譲リマス、私ハ茲デ自己ノ一身上ノ辯明ヲ致サンケレバナラヌモノガアルノデアリマス、ソレハ只今丸山君カラシテ申述ベラレタ通りニ、昨年出張ノ際ニ於

キマシテ私ガ余市ニ旅行シタ、余市ニ立寄タ、此機會ニ於テ憲政會ニ五百名程入黨シタト云フコトヲ御話ニナリマシタガ、私ハ此旅行ノ際、余市ノ人達ガ五百人入黨シタカセヌカト云フ事實ハ知リマセヌ、知リマセヌガデス、或ハ其時機ヲ同ジウシテ入黨員ガ五百人アツタカモ知ラヌ、私ハ全く知ラナイ、併ナガラ此種ノ事ハ當テ政友會內閣ノ際ニ一嘗テ政友會內閣ノ際ニ、或ハ港灣鐵道ヲ利用シテ、地方ノ黨員募集ヲシタデアラウト云フ世間ノ非難ガアツタノデアリマス、サウ云フ非難ガ澤山アツタ、私ハ併ナガラサウ云フコトハ信用シナイ、是ハ多分地方ノ人達ガ或ハ時ノ政府ニ媚ビシテ爲ニ、或ハ特ニ政府ニ其地方ノ仕事ヲシテ貰ハンガ爲ニ、特ニ或ハ地方ノ人達ハ時ノ政府ガ喜ブデアラウト云フ譯デ以テ、此種ノ利害關係アル地方ハ、其機會ニ於テ入黨證書ヲ出シタカモ知レナイ、私ハサウ云フコトハ知ラナイガ、多分サウデアラウダラウト思フノデアアル、若シ北海道ニ於キマシテ全市ノ地方ノ人達ガ、私ガ出張シタ際ニ入黨證書ヲ出シタシタナラバ、蓋シ此意味デアラウト思フノデアリマス、是ハ私ハ政府トシテ又個人トシテ責任ノ無イコトデアリマスカラ、是ダケ御答辯シテ置キマス

○議長(粕谷義三君) 丸山君ニ御尋致シマスガ、內務大臣ハ先刻御承知ノ通り、貴族院ノ本會議ノ爲ニ退席サレマシタ、貴方ノ質問ハ保留セラレマスガ

○丸山浪彌君 宜シウゴザイマス

○議長(粕谷義三君) 次ハ清瀨一郎君

〔清瀨一郎君登壇〕

○清瀨一郎君 三土君ノ御質問ニ相成リマシタ軍費ノ事ニ關シ、私ヨリ陸軍大臣ニ對シ重ネテ御伺致シマス、同ジク軍費ニ付キ論ジマスル吾々ノ立場モ、陸軍大臣ノ立場モ同一デアアル、同ジク國軍ヲ思ヘバコソ質問ヲ致スノデアリマス、何卒慮心坦懷ナル御答ヲ得タイト思ヒマス、一ツハ昨日豫算ノ委員會ニ於キマシテ、彼ノ機密費ガ個人名義デ銀行預金ト相成タト云フ一件、又之ヲ以テ公債ヲ買入レタト云フ一件ニ付キ

御伺致シタノデアリマス、其實問應答ノ結
果ハ、現宇垣大臣ハ陸軍省ニ於ケル記録及
自分ノ記憶ニ依レバ、其事無シト云フコト
ニ歸スルト結論サレタノデアリマス、何レ
速記録ガ出来ヌルガ故ニ、私ノ言フコト
ノ誤ナラザルコトガ明ニナリマス、今三
土君ノ御質問ニ對シテハ、預金、公債證書
買入ノ事ハ毛頭アリマセヌト御答ニナッ
テ居ル、陸軍省ニ保存セラレタル公ノ記録ニ
依テ無イト云フコト、ソレカラ大正十三
年一月カラ御就任ニナリマシタ、宇垣陸軍
大臣ノ記憶ニナリト云フコト、此二ツノ
否定ト、今日ノ毛頭無イト云フコトノ間ニ
ハ多少ノ差異ガアル、デ國民ノ疑心ト云フ
ノハ此差異ニ付テ疑ヲ持ツノデアリマスガ
故ニ、重ネテ御尋フスルノデアリマス(謹
聽)昨日モ引用致シマシタガ、貴方ノ前任
者ノ山梨半造大將、此人ハ――前文ハ讀ミ
マセヌ、朝日新聞ノ紙上ニハ莫大ノ公金ヲ
銀行ヘ預入シタルハ事實ダ、預入者ノ名義
ニ吾輩其他ノ名義ヲ使テ居ルガ、是ハ何
處ノ役所デモアル事務上ノ慣例デアルト、
貴方ノ前任者ハ仰シヤル、而シテ是ハ新聞
社訪問ノ記事デアリマスルカラ、私モ初メ
全幅ノ信ヲ置キマセヌカッタ、然ルニ其翌
年三月七日ノ新聞紙上ニ、同大將ガ自ラ正
誤ヲ申込マシテ、第一項中莫大ノ公金トア
ルモ、單ニ公金ノミナラズ、官金モ含マレ
テ居ルト訂正サレテ居ル、此訂正ヲ前ニ續
ケテ讀ミマスルト、莫大ノ公金ト莫大ノ官
金ヲ銀行ヘ預入レタノハ事實ダト云フコト
ニナル、預入名義者ハ時ノ陸軍大臣個人ノ
名前ヲ使タノモ事實ダト、斯ウ云フコト
ニナル、ソコデ以テ國民ガ疑ヲ持ツノデア
リマスガ故ニ、此疑ガ消エルヤウニ仰シヤ
ラヌト云フト、毛頭無シト云フコトヲ幾ラ
大キナ聲デ仰シヤテモ、國民ノ疑ハ露レマ
セヌ(拍手)疑ハシナイト呼フ者アリ)第二
項ニハ同山梨半造大將ハ銀行利子ハ低イ
故、高利ノ公債ヲ買換ヘタノモ事實、參謀
ノ主計モ買ヒニ行タコトヲウ、皆吾輩
ノ命令デアルト訪問ノ記者ニ語ラレ、之ニ
對シテ正誤ヲサレテ居リマス(新聞博士)

ト呼フ者アリ)正誤ノ中ニハ第二項中、余
ノ命令ニテ公債ヲ買ハシメタ如クアルガ、余
ハ西伯利臨時軍事費中ノ或種ノ項目ニ依ル
費用ヲ以テ二三回、公債ヲ購入セシメタノ
ミデ、各會ノ分ハ其會自ラ購入シタモノデ
アルト訂正サレテ居ル、デアルカラシテ今
御説明ニナッタ共濟組合、招魂祭ノ費用等
ハ、其會自ラ買ウタモノデ、ソレハ別ダ、
自分ノ公債ヲ買ウタノハ、銀行ノ預金利子
ハ安イカラシテ、西伯利出兵ノ或種ノ基金
デ以テ、二三回公債ヲ買入レタト云フ正誤
ニ相成ルノデアリマス、即チ毛頭其事實無
シト云フコト、大變違フテ參ル、昨日ノ御
答辯ノ方ガ正確デアルノデハナイカト私ハ
考ヘマス、即チ大臣自身ハ潔白ノ方デ御記
憶ニハナイ、陸軍省ノ記録モ能ク整理シテ
アッテ、斯様ナル事ノ記録ハナイ、斯ウ云
フコトナラバ信用ハ出来ヌルケレドモ、當
前任者ノ山梨半造大將ガ筆ヲ執テ、正誤マデ
シテ居ル文章アリト云テ居ルノニ、如何ニ大
臣ガ無イト仰シヤテモ、本人ノ言フコトヲ信
ズルヨリ國民ハ信ジ方ガナイノデアリマス(ヒ
ヤヒヤ)拍手)茲ニ又益私ガ山梨前任者ヲ
信ズル譯ハ、軍事費ハ三箇月分宛前ニ動員
ヲ經テ費ヒタルモノダト仰シヤル、成程何
千ワト云フ金ヲ三箇月分前ニ御費ヒニナル
ト云フト、是ハ銀行ノ預金ニナルカ公債ニ
ナルカシナケレバ、御保管ニ御困リニナ
タノデハナイカ、此頃ハ内幸町一丁目デモ
強盜ノ出ル世ノ中デアアル(拍手)何千ワト云
フ金ヲ三月分前ニ御引出シニナレバ、矢張
銀行ニ豫金ヲ爲サルカ、公債ヲ御買ヒニナ
ルカシナケレバナルマイ、私ハ大臣ヲ責メ
ルノデハナイ、過去ノ歴史ヲ茲ニ仰シヤル
ト云フト善イモノハ善イ、惡イモノハ惡イ、
ソコデ判定ガ決マッテ國民ニ安定ヲ與ヘル
ノデアル、之ヲ押サセテ大臣ガ斯ウ言ウ
タ、總理大臣ガ眞實ヲシタ、ソレガ事實ナ
リト言フテ、一黨一派カラ如何ニ大聲呼號
サレテモ、私始メ何人モ信ズル譯ニ行キマ
セヌ(ヒヤ)――(拍手)元來機密費トハ仰シ
ヤルケレドモ――是ハ法律ノ事デ御尋ハシ
マセヌ、機密費ト云フノハ立法課目、此議

會デ以テ機密費トシテ決議シタルモノ、ミ
カ機密費ナノデ、此議會ガ機密費ノ項ヲ定
メナイノニ、行政部ガ勝手ニ之ヲ機密費ダ
ト云フノデ、議會ハルベカラズ、會計檢査
院ハルベカラズ、斯様ナ機密費ハ世界何レ
ノ國ノ會計法ニモアラウ筈ガナイ(拍手)名
前ヲ機密費ト御付ケニナッテモ宜イケレド
モ、是ハ眞ノ機密費デアリマセヌ、眞實
ノ機密費デアナイ、然ラバ戰サドウスル
カト云フト、戰サノ費用ヲサタ方ガ御使
ヒ下サルノニハ法律ガアル、明治二十三年
法律第七十號ト云フノデ、軍ニ要スル經費
ト云フモノ、出師準備ニ關スル物品購買ハ
陸海軍大臣其責ニ任ジ、會計檢査院ノ檢査
ヲ受ケナイ、是ハアノ方ノ機密費デアアル、
機密費トハ違ヒマス、機密費ト云フモノハ
矢張是ハ會計檢査院ノ檢査ト、議會ノ承諾
ヲ必要トスルモノデアリマス、政府ニハ多
數ノ法律家モ居ラレル、有名ナル山田長官
モ居ラレル、ドウカ法律ノ事ヲ能ク御研究
ヲ願ヒタイ、是ガ機密費ダカラ議會ニ報告
シナイト云フ譯ニハ參リマセヌ、國家ノ爲
ニ惡イト云フナラバ秘密會ノ制度モアルカ
ラ、秘密會ニシテモ二千四百ワト云フ内容
ヲ御公表ニナレバ疑問ハ解ケル、事實ヲ公
表シナイデ毛頭無イト仰シヤタ所ガ、無
イデハ通リマセヌ、ソレ故ニ――(常識ナ
シ)――(謹聽)ト呼ビ發言スル者多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス
○清瀬一郎君(續) 先ツ第一ト致シマシテ
ハ、貴方ノ銀行預金ハ無イ、公債買入ハナ
イト仰シヤルノハ、昨日仰シヤッタ通りニ
陸軍省ノ記録ニ無イト云フダケデアルカ、此
貴方ノ記憶ニ無イト云フダケデアルカ、此
二ツノ意味デアッテ、絕對ニ無イ事デア
ルト云フ保證ヲ貴方ハ爲サルノデハアルマイ
ト思ヒマスガ、其意味ヲ御釋明願ヒタイト
云フノガ第一、ソレカラ今ノ三箇月分デ私
ハ驚イタ、全體國民ガ感フ人ガ疑フト云
テ、國民ヲ議員ヲ惡イ者ニ貴方ハ思フテオ
ホデニナルケレドモ、一億三千万ノ事後
承諾ト豫備金支出ニ向ッテ、ドウ云フコト
ヲサレテ居ルカト云フト、大正七年ノ八月
十六日ニハ九百二十七萬圓、八月二十六日
ニハ九百六十八萬圓ナント使ウタ金ト曰
ダケヲ出シテ、事後承諾ヲシロ、斯ウ云フ
モノヲ出シテ何ニ使ハレタト云フコトハ少
シモ御説明ニナラナイ、ソレデ疑フ奴ガ惡
イト貴方ハ仰シヤル、ソレデ三箇月分ヲ出
シタト仰シヤルガ是ハ豫備金デス、御手許
ニアレバ御一覽ヲ願フ、大正九年一月二十
四日ニ陸軍ダケノ豫備費トシテ一日二千
五百七十五萬八千圓一ツニ出テ居ル、是ガ
タツタ三月ノ費用デアリマセウカ、三箇月
内ニ當時二千五百萬圓ヲ御使ヒニナッ
デアルカ、先刻ハ大正八九年ハ西伯利ハ忙
シカッタ時分デアルト仰シヤルガ、ソレハ
偽リデアリマス、丁度大正九年ノ一月ノ
議會ニ於テ、田中陸軍大臣ガ此處デ演説サ
レテ居ル、大正八年度ト云フモノハ西伯利
ハ手控ヘタ、日本ノ軍隊ハ半分以上ハ引返
シテ、僅カ二萬五千ダケデ以テ西伯利ヲ守
テ居ッタ年ノデアリマス、ソレヲ如何ニ
モ大キナ戰デモシタ如クニ大臣ハ仰シヤ
タケレドモ、其時ノ記録ヲ是コソ讀ンデ能
ク御調ベ下サイ、田中義一大將ノ演説ガチ
ヤントアル、アノ當時ノ答ハ二萬五千シカ
送ッテ居ラスノデアアル、其年ノ三箇月分ノ經
費トシテ二千五百萬圓、所ガ茲ニ私ガ疑ヲ
持チマスノハ大正九年一月二十四日ト云フ
ノハドウ云フデアルカ、大正九年一月二
十二日ニ憲政會及國民黨ヨリ普通選舉案ガ
提案サレ、ソレニ對シテ島田三郎君ガ演説
サレテ二月二十六日ニ議會ハ解散ニ相成
テ居ル、議會ノ解散ト豫備費ノ莫大ナル支出
ガ前後致シテ居リマスルガ爲ニ、國民ガ茲
ニ疑惑ヲ懷クノデアリマス(拍手)疑惑ヲ
投ダテハイケナイト云フコトヲ仰シヤル代
リニ、此一月二十四日ノ一口二千五百萬圓
ト云フ豫備金支出ガ、選舉トハ關係ガナ
イト云フコトヲ證明ナサタナラバ、國民ハ
安心ヲ致スコト、思フノデアリマス(拍手)
○國務大臣(宇垣一成君) 只今清瀬君カラ
臨時軍事費ノ關係ニ付テ御質問ガアリマシ
タガ、清瀬君ハ熱心ニ軍事ノ事ヲ御考ヘ下

サテ、度々御質問戴キ、海ニ有難ウゴ
ザイマス、本日三上若ニ對シテ私ノ答ヘマ
シタコトハ、昨日清瀨君ノ御質問ニ對シテ
答辯致シタコト、何カソコニ矛盾點ガア
リハセスカト云フ意味ノ御質問アリマシ
タガ、昨日如何ニモ御進ニナリマシタ通リ、
私ハ陸軍省ノ記録、又自分ノ記憶ヲ通テ
見テモ、サウ云フコトハナクハナク云フコトヲ
申上ダテ居リマス、即チ記録ト記憶以外ノ
何ヲ求メマスカ、毛頭ナク云フ結論ヲ申
上ダテ差支ナク私ハ思フテ居リマス、次
ニハ新聞ノコトニ付テ如何ニモ——昨日モ
拜聴致シマシタ、又今日モ拜聴致シマシタ
ガ、新聞記事ヲ何カ金刺玉條ノヤウニ御述
ニナリマシタガ、私ハ昨日モ申上ダマシタ
通り、今日局ニ當テ居ラナイ個人ガ、新
聞ニ對シテ話ヲシタコトニ對シテ、私カラ
別ニ御答辯ヲ申上ダル所ノ必要ハ毛頭ナク
ト考ヘテ居リマス、ソレカラ次ハ臨時軍事
費三箇月分繰メテ前以テ引出シタ、サウシテ
使ア、三箇月分ト云ヘバ今御話ニナリマシ
タヤウニ二千何百萬圓ト云フヤウナ巨額ナ
ル金ヲ、ソレヲ前使ヲシテ使フコト云フコト
ニナレバ、銀行ヤ何處カニ預ケタコトガア
ルダラウ、斯ウ云フ御推定ニナタノデア
リマスガ、私ガ先刻三箇月分云々ト云フコ
トヲ申シマシタコトハ、即チ豫算ノ三箇月
毎ニ切テ要求シタノデアリマス、支出ハ
其都度致スノデアリマスカラ、サウ御水知
置キテ願フテ置キマス、次ハ臨時軍事費デ
軍部ガ使フ機密費ハ眞ノ機密費デナクハ
云フ御議論ガアリマシタガ、此事ニ付テハ
昨日大藏ノ政府委員カラモ詳細御説明申上
ダテ置イタ答デアリマス、向ホ御必要ガア
リマスナラバ、大藏當局カラ御答致スデア
リマセウ

○清瀨一郎君 簡單デアリマスカラ此席カ
ラ……
〔登壇々々ト呼フ者アリ〕
〔清瀨一郎君登壇〕
○清瀨一郎君 最早會期モ切迫ノ際デアリ
マス、向ホ豫備金支出ノ委員會モアリマス
コトデアリマスルガ故ニ、細カナ點ハ留保
致シテ置キマスガ、唯能ク陸軍大臣ハ今
官職ニ在ル者デナクハ知ラヌヤウナコ
トヲ仰シタル、前ニモソノコトヲ言フテ、
豫備後備ノ者ハ物ヲ知ラヌト仰シタル、今
段々聽イテ居リマスルコト云フト、山梨大將
ハ今局ニ當テ居ラヌカラ知ラヌ答ヘナク
ト仰シタル、成程現在ノ事ナレバ、今局ニ
當テ居ル人ガ一番能ク知テ居ル、所ガ今
ノ問題ハ過去ニ貴方ガマダ大臣ニモ次官ニ
モ御成リニナリテ居ラヌ時分ノ事ナクデア
ル、山梨陸軍大將ガ大臣ヲシタリ次官ヲシ
テ居ラヌ時ノ事ガ問題トナリテ居ルノデア
リマスルガ故ニ、今局ニ當テ居ラヌ彼ノ言フ
コトハ嘘ダトバカリ言フ譯ニハ相成リマス
マイ、又新聞ハ信ズルニ足ラヌト仰シタル、
勿論新聞記事ニハ誇大モアリマセウ、錯誤
モアリマセウ、是ハ併シ新聞社ノ書イタ記
事デハナクシテ、其擔當者山梨ト云フ人ガ
筆ヲ執テ訂正ナリトシテ申込シタ訂正文
ナノデアリマス、印刷ハ新聞ニシテアリマ
スルガ、書イタ人ハ山梨ノ筆ニ成ルモノデ
アリマスルガ故ニ、貴方ハ此山梨大將ヲ嘘
吐キデアルト云フ勇氣ヲ御持チナリマス
カ、之ヲ信ズベカラズト云ヒ、自分ノ言フ
コトバカリガ眞實デアルト云フ前提デハ、
國民ノ疑惑ハ解クニ足リマセウ、貴方ノ良
心ヲ欺クコトハ出來テモ、國民ヲ欺クコト
ハ出來マセウ(拍手)三箇月毎ニ豫算ヲ要求
スルト仰シタル、ソレハ間違デス、豫算
ト云フモノハ議會デ決メテ居ル、豫算
三箇月毎ニ豫算ヲ決メテ居ルナドト云フ
コトハ抑、ノ間違デアリマス、ソレ故ニ是
等ノコトニ付テハ詳細御説明審議ノ席ニ議
リマスル、唯、再ビ此壇ヲ汚シタル所以ハ
貴方ハ山梨大將ノ言ヲコトハ間違テ居ル
ト斷言ナサルノデアアルカ、ドウカト云フ一
點デアリマス

○國務大臣(宇垣一成君) 清瀨君ノ再ビノ
御質問ニ御答致シマスガ、私ハ先刻モ朝日
新聞ニ山梨ガ何カ言ウタト云フコトニ付テ
ハ、別ニ嘘ダトモ未嘗ダトモ申シテ居リマ
セウ、即チ個人ガ新聞記者ニ語テ、ソレガ
新聞ニ載テ居ラヌコトニ對シテハ答辯ノ限
リデナク、斯ウ云フ風ニ申上ダテ置キマス
シタ、ソレノ邊否ヲ質サウト云フ御質問ナラ
バ、山梨ニ御聞キニナタラ一番能ク分ル
ドラウト思ヒマス(拍手、發言スル者多シ)
○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス
〔國務大臣若槻禮次郎君登壇〕
○國務大臣(若槻禮次郎君) 丸山君ノ御質
問ガアツサウデアリマス、私貴族院ニ行
テ居リマシテ、之ヲ聽キマセナクハコト
ハ遺憾千萬デアリマス、事情ハ松實君カラ
御質問ニナリテ、政府委員ノ答ヘタ事柄デ
アルラシウゴザイマス、ソレデアリマス
云フト、政府委員ガ松實君ニ答ヘマシタ通
リ、私モ御答申上ダナレバナリマセウ(拍
手)
○井本常作君 本案ニ對スル質疑ハ此程度
ニ於テ終局セラレンコトヲ望ミマス
〔賛成(賛成)ト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 井本君ノ質疑終局ノ
勸議ニ御賛成アリマセウ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 御質問ナシト認メマ
ス、仍テ質疑ハ終局致シマシタ、別ニ討論
ノ通告モアリマセウカラ直ニ採決ニ入リマ
ス、採決ノ順序ハ、日程第二、第二號追
加案ニ對シテ磯部君外二十二名提出ノ修正
ガアリマス、先ツ其修正案ニ對シテ採決致
シマス、次ニ第二號追加案ニ對シテ採決致
シマス、先ツ第二號ノ磯部君外二十二名提
出ノ修正ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス
〔賛成者 起立〕
○議長(粕谷義三君) 起立少數デアリマ
ス、仍テ修正案ハ否決サレマス、次ニ第二
號追加案ノ委員長報告ニ賛成ノ諸君ノ起立
ヲ求メマス
〔賛成者 起立〕
○議長(粕谷義三君) 起立多數デアリマ
ス、仍テ本案ハ委員長報告ノ通り可決確定
致シマシタ、最後第一號ノ追加案、特第二
號ノ追加案、第三號ノ追加案、特第二號
ノ追加案、此四案ノ委員長報告ニ賛成ノ諸
君ノ起立ヲ求メマス
〔賛成者 起立〕

○議長(粕谷義三君) 起立多數デアリマ
ス、仍テ四案ハ何レモ委員長報告ノ通り可
決確定致シマシタ(拍手)仍テ第一號、第二
號、特第一號、第三號、特第二號ノ追加案
ハ全部議了致シマシタ
○青木精一君 此場合議事日程變更ニ關ス
ル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ茲ニ東武
君提出ノ思想問題ニ關スル緊急質問ヲ議題
トナシ、其趣旨辯明ヲ許シ、政府ノ答辯ヲ
求メラレンコトヲ望ミマス
〔賛成(賛成)ト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 青木君ノ日程變更ノ
動議ニ御賛成アリマセウ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 御質問ナシト認メマ
ス——政府モ日程變更ニ同意セラレマシタ、
仍テ提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——東武
君
思想問題ニ關スル緊急質問(東武君提
出)
〔東武君登壇〕
○東武君 會期切迫ノ場合ニ際シマシテ
餘リ長時間ヲ費スコトハ海ニ恐縮ニ堪ヘマ
セウガ、成ルベク簡單ニ申上ダル積デアリ
マスカラ暫ク御清聴ヲ煩シタイ、私ノ此質
問ハ帝國最高學府ニ於ケル赤化宣傳事件ニ
關スル緊急質問、是ハ政黨ノ問題デモアリ
マセウ、又總テ上ノ政策問題ナドニ關係
スル問題デモアリマセウ、私ハ衷心ヨリ此
事ニ對シテ、國家ノ前途ニ對シテ憂慮スル
モノガアツテ、此質問ヲ致ス譯デアリマス、
世界大戰後、我國ニ於ケル思想界ノ動搖ハ、
諸君ト共ニ海ニ憂フベキモノガアルト考
ヘテ居リマス、又露露露西亞ノ赤化宣傳ノ組
織ハ實ニ巧妙ヲ極ム、今ヤ全世界ニ涉テ
公然トシテ大規模ニ開始サレテ居ルノデア
リマス、是ハ申スマデモナク第三「インテ
リナシヨナル」ノ豫定ノ行動ヲ取リツ、ア
ルコトデアリマス、此宣傳ハ非常ニ恐ルベ
キモノガアリマシテ、彼等ハ常ニ公言シテ、
吾々ハ機關銃、毒瓦斯或ハ小銃、大砲ヨリモ
威力ハ大ナル所ヲ武器ヲ有シテ居ル、即チソ
レハ何デアルカト云ヘバ宣傳デアアル、斯様
ニ彼等ハ總シテ世界ニ宣傳網ヲ張ラテ盛ニ
第三「インテリナシヨナル」ノ趣旨ニ依
テ、此共產主義ノ思想ヲ全世界ニ傳播シテ居
ルノデアアル、又此手段ヲ達スルニ對シマシテ

ハ、彼等ハ「マルクス」ノ所謂最高ノ目的ハ手段ヲ擇バズ、最高ノ目的ハ如何ナル事ニ依リテモ手段ヲ擇バナイト云フコトガ彼等ノ一種ノ「モットー」デアアルノデアル、即チ之ニ反對スル者ニ對シマシテハ之ヲ壓倒シ、或ハ抵抗スル者ハ粉碎シ、又全世界ヲ打テ一丸ト爲ス、共產主義ヲ實現セシムルノデアリマス、遂ニ其宣傳機關ト云フモノハ全世界ニ悉ク蔓延シテ居ルノデアリマスガ、其機關ニ對シマシテハ、中央執行委員會ナルモノガアリマシテ、又中央執行委員會ノ中ニ國內ノ宣傳部、軍隊ノ宣傳部、或ハ國外ノ宣傳部、斯様ニ分チマシテ、又國外ノ宣傳部ニ對シマシテハ、更ニ二課ニ十七支部ニ分チ組織シテ居リマス、其機關ノ大體ヲ申シマスレバ、公式ノ機關トシテハ、所謂「ソビエト」政府ノ宣傳ノ公式機關ト致シマシテハ、外交ノ上ニ於テ、又通商ノ上ニ於テ、又此「ロスター」ノ通信網ト云フ世界ニ對スル「ロスター」ノ通信網、又露國内外ニ於ケル所ノ無線電信、電話、所謂是等ノ總テ此宣傳ノ機關ヲ掌握シテ、政府ノ事業トシテ是等ノ仕事ヲヤシテ居ルト云フコトハ、是ハ殆ド天下公知ノ事實ニナリテ居ルノデアアル、又外國ノ公使館ニ於ケル所ノ公使館ニ從屬セル所ノ支那ガ多數アリテ、此支那ガ各方面ニ涉リテ絶ヘズ宣傳ヲ爲シツ、アル、外國ニ在ル所ノ秘密探偵機關ト云フモノモ、三十名乃至五十名ト云フ所ノ探偵、所謂支部員ナル者ヲ組織シテサウシテ赤化宣傳ノ方法ヲ遺傳ナク執リツ、アルノデアリマス、之ニ對スル歐羅巴各國其他ノ先進國等ニ於テハ、之ヲ防グ爲ニハ殆ド力ヲ有ラン限リヲ致シテ努力ヲ致シテ居ルノデアリマス、間ク所ニ依リマスレバ、露國カラシテ獨逸ニ對スル所ノ宣傳費ハ、今日マデ一千万圓以上ヲ投ジテ居ルト云フコトデアアル、而シテ相當ニ宣傳ノ效果ハ有ルケレドモ、獨逸ノ國民ニハ獨逸ノ國民性ナルモノガアル爲ニ、此露西亞ノ宣傳ハ獨逸ニ行フ革命政府ヲ起シタケレドモ、獨逸ノ國民性ハ必シモ彼等ニ對シテ今日ハ傳ハテ居ルノデアリマスガ、併シ極端ナル手段ヲ執リツ、アルト云フコトハ疑ナキ事實デアアルノデアリマス、又日本、東洋、支那、其他中央亞細亞ニ於ケル所ノ宣傳ノ方法ハ、今日ハ教養ノ積シタ文

明國ニ向テハ此思想ノ傳播ガ甚ダ困難デアルト云フコトヲ感知致シマシテ、今日ハ中央亞細亞、印度、支那、朝鮮、日本ニ於テ極力宣傳ノ方針ヲ立テマシテ、之ヲ此方面ニ最大ノ努力ヲ致シテ居ルノデアリマスガ「ソウヴェット」政府ノ報告ニ依リマスレバ「印刷シタル報告ナルモノヲ見マスル」ト、日本ニ對シテモ種々ナル方法ガ執ラレツ、アルト云フコトガ、彼等ノ報告ニアルノデアリマスガ、ソレ等ノ事ヲ茲ニ詳シク申上ゲルコトハ、餘リニ時間ヲ取リマスカラ申上ゲマス、唯、千九百二十一年ノ報告ヲ見マスルト、日本ニモ此宣傳支部ガ五箇所アル、サウシテ新聞ノ「機關新聞」ニナリテ居ルモノモ十一箇處アルト云フコトガ彼等ノ「ソウヴェット」政府ノ報告書類ニアル、又一昨年ノ衆議院選舉、所謂護憲內閣ノ出來タ時ノ總選舉ニ對スル衆議院ノ選舉ニモ相當ニ努力ヲ致シタト云フコトガ、彼等ノ報告書類ニアルノデアアル、日本ノ選舉ニ對シテモ相當ニ努力ヲ致シタト云フ所ノ報告ガアル、是等ノ事ハ吾々必シモ信ズルノデアリマス、左様ナコトデ衆議院ノ選舉ニ彼等ノ魔ノ手ガ及ンデ居ルト云フコトハ、吾々ノ考ヘバナイノデアリマスガ、彼等ノ報告書中ニ左様ナコトモアルノデアアル、而シテ今ヤ我が帝國ノ狀況ヲ見マスルト、私共ハ各方面ニ於テ憂フキ現象ガアルト考ヘル、全ク吾々ハ私心ヨリ左様ニ考ヘテ居ルノデアアル、特ニ私共此所ニ極言ヲ致シテ、吾々ハ身ヲ挺シテ此事ヲ論ジヤウト思フ、斯ウ云フ問題ヲ提起致シタト云フコトハ、思想問題ト云フ漠然タル名ニ於キマシテ、或ハ農民組合デアルトカ、労働組合デアルトカ、或ハ左傾團體デアルトカ、種々ナルモノガアルケレドモ、是等ノ事ニ對シテ私ガ一々論議シ、又質疑ヲ試ミルト云フコトハ餘リニ廣汎ニ失シマスカラ、私ハ單ニ帝國大學内ニ於ケル所ノ赤化ノ經過及其真相ニ付テ、私ハ茲ニ述ベントスル者デアリマス、私ノ調査シタ事實ガ或ハ多少誤リガ無イトハ限ラナイノデアリマスガ、併シ私共ハ此問題ヲ起ス爲ニハ相當ノ苦心ヲ致シ、相當ノ材料ヲ集メ、相當此内容ニ涉リテ調査研究ヲ遂ゲテ參タ積リデアリマス、餘リニ無責任ナル言動ヲ弄スル考ハ持テ居ラナイノデアリマス、若シ誤リガアッタナラバ是正ヲ願ムノデアリマス

ガ、第一ニ帝國大學内ニ於ケル所ノ新人會、又其他官公私立大學内ニ左傾學生團體ノ存在スルト云フコトハ、是ハ明カナ事實ニナリテ居リマス、是等ノ左傾團體ト云フモノハ悉ク露西亞共產黨、青年會ノ組織ヲ模倣シシテ、班部等ニ分チテ、サウシテ所謂細胞組織ナルモノヲ拵ヘテ、一首腦部ノ指導スル團體全部ニ互ニテ、徹底的ニ是ガ實行スル方法ヲ探シテ居ルノデアリマス、私ハ此處ニ書類ヲ携ヘテ居リマスガ、是等ノ團體ノ組織等ニ付テモ印刷シタ物ヲ持テ居リマスガ、是ハ茲ニ詳シイコトハ申上ゲマス、又是等ノ團體ハ表面ハ學術研究ニ名ヲ藉リマシテ、社會思想研究會、或ハ社會科學研究會、又ハ讀書會等ノ名ヲ冠シテ居リマス帝國大學ノ新入會、早大ノ文化同盟、或ハ建設者同盟等ハ是ハ歴史の、最早餘程古イモノデアリマシテ、社會科學研究會ノ指導的地位ヲ占メテ、是等ガ諸科學研究ノ名ノ下ニ社會科學ノ研究ヲ稱シテ、是等ガ殆ド思想ノ指導ヲ爲シテ居ルノデアリマス、是等ノ團體ハ單ニ帝國大學内ニ止マラズ致シマシテ、廣ク全國のニ互ニテ聯盟ヲ致シ、例ヘバ最近ノ例ト致シマシテモ、福岡高等學校ノ退學事件、或ハ小樽ノ高商生ノ檢舉事件、是等ノ事件ノ起ル毎ニ全國のニ代表ナル聯盟ノ上ニ全國のニナリテ學生ノ代表ナル者ガ皆東京ニ集リテ、盛ニ示威運動、宣傳ヲ爲シツ、アルノデアリマス、是等ノ團體員ノ信條ハ言フ、マデモナク徹頭徹尾「マルクス」主義デアアル、又露西亞革命ノ證者デアアル、故ニ當然ノ結果ト致シマシテ、日本ノ國體ヲ破壊スルコトヲ理論上正面上目的ト致シテ居ル、而シテ日本ノ國家組織ヲ根本ヨリ破壊セン爲ニハ、有ラユル機會ヲ利用セントシテ、實ニ虎視眈眈タル狀態ニアルト云フコトモ差支ナイト思フ、テ居ルノデアリマス（拍手）是ハ抽象的ノ言葉デアリマスガ、最近彼等ノ行フテ居ル所ノ事實ニ付テ之ヲ申上ゲタイト思フノデアリマスガ、第一ニ全國官公私立大學内ニ於テ發刊スル所ノ大學新聞ト云フモノガアリマスガ、此大學新聞ヲ彼等ノ手ニ獨占ヲ致シテ、大學新聞聯盟ナルモノヲ組織シテ居ル、事アル毎ニ此聯盟ノ名ノ下ニ有ラユル、思想下、有ラユル聲明書ヲ時々公ケニシテ居ルコトハ、是亦公知

ノ事實デアアル、又新聞獨占ノ外ニ各大學内ニ於ケル學友會ノ各部ノ支配權ヲ彼等ガ獨占シテ居ル、即チ辯論部、學藝部、雜誌部ヲ獨占シテ、聯絡團體ト致シテ都下大學辯論部聯盟ナルモノヲ組織致シテ、サウシテ聯盟ノ下ニ彼等ハ之ヲ唯一ノ牙城ト致シテ、之ニ據テ有ラユル宣傳ヲ致シテ居ルノデアリマス、最近著シキ例ハ大正十三年ノ六月ニ護憲內閣ガ成立スル同時ニ、學生ノ軍事訓練問題ガ、是ガ其內閣ニ依リテ發表サレタ時ニ、彼等ハ之ニ對シテ猛烈ニ反對ヲ致シ、直ニ學生社會主義團體ヲ組織致シテ、全國學生軍事教育反對同盟ノ名ヲ冠シテ、各大學ヲ巡回シテ、此軍事教育反對ノ演說會ヲ開イタコトガアル、是モ亦其當時ヨリ今日マデ連續シテ彼等ガ爲シツ、アルト云フコトハ明カナ事實デアアル、大正十三年ノ十一月二十二日、全國軍事教育反對學生聯盟ノ名ノ下ニ、所屬大學ノ專門學校代表者ガ五十餘名集リテ、九段ノ牛ケ淵ト云フ所ニ集リテ此決議ヲ致シテ居ル、「吾人ハ學生軍事教育ニ絕對反對ス」此決議文ヲ携ヘテ彼等ハ如何ナル行動ヲ執リタカト云フト、先ヅ文部省ニ到リテ文部大臣ニ面會ヲ乞ヒ、又陸軍參謀本部ヲ訪問シテ參謀總長ニ面會ヲ乞ヒ、各政黨本部ヲ訪問シテ、反對運動ヲ繼續致シテ居ルノデアリマス、又對去年七月ニ朝鮮水害ノ時ニ於キマス、是ガ救済ノ資金ヲ募集スルコトニ著手致シマシタ、日本人ノ共產主義者ノ一派ト聯盟ヲ致シテ、其實行運動ト致シテ、全國ニ互ニテ朝鮮水害義捐金募集演說會ナルモノヲ開イタ、各大學ノ所在地ニハ悉ク演說會ヲ舉行致シマシテ、朝鮮水害ノ救済ト云フ名ノ下ニ於テ、彼等ガ思想ノ上ニ於テ共產主義ノ宣傳ヲ爲シタト云フコトハ、是亦明カナ事實デアアルノデアアル、社會科學研究學生聯合會ハ、又會歌ナルモノヲ拵ヘテ居ル、此歌ナルモノハ何デアアルカト云ヘバ露西亞ノ「赤旗」ト云フモノヲ翻譯致シタモノデアアル、其宣傳歌ヲ高唱シテ、是ガ學生間ニハ殆ド流行シテ居ラナイ所ハナイ、此流行歌ハ今ヤ驚クベキ勢ヲ以テ、都下ノ電車ノ中デモ、或ハ俱樂部、集會所其他ニ於テ、大抵男女ヤ子供ガ此會歌ナルモノヲ今ハ覺エテ居ル、電車内デモ往々青年男女ガ此會歌ナルモノヲ歌テ居ルト云フ事實ガアル、又帝國新人會デハ、日ハ一寸忘レマシタガ帝

大ノ三十番ノ教室ニ於テ、露西亞ノ「ロス
ター」通信ノ「スレーパック」ト云フ人ヲ彼等
ハ招待致シ、露國ニ於ケル所ノ學生ノ革命
運動ノ經過ヲ聽イテ居ル、其「ロスター」通
信ノ「スレーパック」ト云フ人ハ、革命軍火
線タリ中心勢力タルモノハ各國共學生デアル
「ト」云フ講演ヲ致シテ、之ニ共鳴ヲ彼等
ハ致シテ居ルノデアリマス、帝國大學ノ講
堂ニ於テ斯様ナコトヲ彼等ハ公然行テ居
ルノデアリ、又甚シキコトハ是ハ文部大臣
ハ疾ニ御承知デアリマス、帝大ノ法科
ノ試験委員ガ學生ノ入學試験課ニ對シテ、
「マルクス」ノ共產黨ノ宣言書ヲ獨支ヲ和譯
ヲサセ、是ガ問題トナテ居ル、是ガ教授
會ノ問題トナテ教授會ハドウシタカト云
ヘバ、非常ニ不穩當デアアル、「マルクス」ノ
共產黨ノ宣言書ヲ試験科目ノ課題トシテ出
シタノハ、是ハ甚ダ不穩當デアアル、今後ハ
十分注意ヲスル、又擔當教授ハ是ガ爲ニ陳
謝ヲ致シ、サウシテ僅ニ世間ニ餘リ大問題
トナラナカッタ云フ事實ガデアリマス、
又、是モ隱レモナイ事實デアリマス、
ガ、昨大正十四年ニ新人會ノ主催ノ下ニ於
キマシテ、關東鐵工同盟會ノ同盟罷工ガア
タ、關東鐵工組合所屬ノ同盟罷工、即チ日
暮里ノ鐵工所ニ榮信社ト云フノガアリマシ
タガ、是ガ同盟罷工ヲ致シテ場合ニ、此等
議ノ資金ヲ帝國大學ニ於テ募集シテ居ル事
實ガアル、學生ハ罷工團體ニ對シテ澤山ナ
金デハナイノデアリマス、之レドモ、各、詰
リ同盟罷工ヲ維持スル爲ニ、之ニ應援ヲス
ル爲ニ資金ノ募集ヲ爲シタト云フ事實モ、
是モ明カナル事實ガアルノデアリマス、又
帝國大學ノ新聞ノ例ニ依テ見テモ、學友會
ノ經營シタル機關新聞ニハ大學教授學生ノ
意思表示ヲ致シマシテ、軍事教育反對、國
防破壞乃至國防ヲ呪詛スルト云フ事實ハ、
是ハ明ニ認メテ宜シト思フノデアリマス、
又、新聞ノ記事ノ上ニ於テ洵ニ明瞭ナモノ
ガアルノデアリマス、諸君、此軍事教育反
對ニ對スル可否ハハ暫ク別問題ト致シマシ
テ、御互ニ考ヘナケレバナラヌ事ハ、帝國
大學ノモノハ國家ヨリシテ莫大ナル國費ヲ
投ジテ、彼等ヲ養成ヲ致シテ居ルノデアリ
マ、即チ高等專門教育以外ニハ、我が帝國ノ國
費ハ五千萬圓以上ハ之ニ投ジテ居ルノデア
リマス、然ルニ苟モ國家ガ方針ヲ決メテ軍
事教育ヲ施スト云フコトニ依リマシテハ、

吾々ハ本年モ百万圓ノ豫算ヲ之ニ協賛ヲ與
ヘテ居ルノデアリ、此協賛ヲ與ヘテ國家ノ
方針トシテ軍事教育ヲ施スト云フコトニ
至ツタ以上ハ、此國家ノ方針ニ背イテ、帝國大
學ガ之ニ對シテ反對ヲスルト云フコトガア
リト致シマシタナラバ、如何デアリマセウ
カ、又國防ノ上ニ於テハ、吾々ハ國民全體
ノ血稅ヲ以テ殆ド歲入ノ半バヲ費シテ、我
ガ國防ハ吾々ガ擔當ヲ致シテ居ル、然ルニ
帝國大學ノ最高學府ニ於ケル所ニ於テ既ニ
軍隊ヲ呪詛シ、或ハ軍事教育ニ反對スル行
動ガ公然行ハレルト云フ事ガアツタナラ
バ、帝國大學ヲ維持スル爲ニ五千萬圓ノ金
ヲ以テ彼等ヲ教養シテ、一方ニハ此軍事教
育ト國防ヲ破壞スル行動ヲ執リツ、其事
云フ事ニナツタナラバ、國家ハドウナリマセ
ウカ(拍手)是ハ相互差引相殺サレテ何モ無
クナルト云フコトノ事實ガアルノデアリ、
實ニ私ハ驚クベキ現狀デアルト考ヘルノデ
アリマス、國民ノ犧牲ヲ破壞スベク努力シ
シ、アルスト云フコトガ、即チ此點ニ於テ極
メテ明瞭デアルト思フノデアリマス、又最
近ニ起ツタ所ノ京都大學社會科學研究會ノ
事件、是ハ今尙ホ司法官捜査ノ手ニ在ルト
考ヘマス、重大ナル事ガアルノデアリマス、
是ハ齊東野人之言葉デアリマス、之レドモ、
此勞農露西亞ノ代表「レバセ」ト云フ人ガ、
昨年ノ八月ニ參ツタ時分ニ、京都帝國大學ノ
學生ガ決闘ヲ致シ、此「レバセ」ナル者ヲ大
阪ノ停車場デヲ致シテ、不穩ノ文書ヲ
之ニ交付シタ、又其事ガ顯レマシテ、其學
生ハ遂ニ引致サレテ居ルノデアリマス、
ガ、此京都帝國大學ノ亦化ノ檢舉事件ノ起
タト云フコトハ、何ガ因デアアルカト申シマ
スレバ、最近即チ大阪ニ起ツタ所ノ市電爭議
ノ場合ニ、此京都帝國大學ノ詰リ學生教授
ガ、之ニ應援致シタト云フ事實ガ其因ヲ成
シテ居ルノデアリマス、此京都大學ノ亦化
宣傳網ト云フモノハ、ドウ云フ所カト云ヘバ、
是ハ甚ダ吾々ハ言フヲ憚カルノデアリマス
スガ、露西亞共產黨カラ直接ノ命令ガ出テ
居ルト云フ事實ガアル、共產黨ガ直接ヲ
命令シテ、絲ヲ引イテ居ルト云フコトガア
ル、是ハ何處カラ出テカト云フコト、矢張彼
等ノ中ニ前非ヲ悔イテ皆其內容ヲ暴露シ
者ガアルノデアリ、此亦化宣傳ノ共產主義
者ノ山川均デアルトカ、或ハ荒畑村ト云
フ人ハ、始終出入シテ是等ノ學生ト行動ヲ

共ニシテ居ル、又ソレニ對シテ費用モ出シ
テ居ルト云フ事實モアル、今京都帝國大學
ハ學生山内某、桑原某、阿波某ト云フ十餘
名ノ檢舉ヲ見ルニ至ツタ事實ガアル、此不
穩ノ文書ノ中ニハ、吾々ガ口ニスベカラザ
ルモノガアル、是ハ驚クベキモノガアルノ
デ、是ハ司法當局者モ恐ラク公表ヲ憚ルコ
トガアルト承知シテ居ルノデアリマス、彼
等ガ常ニ唱ヘテ居ルノハ、理論ノ研究ハ實
行ガ伴ハナケレバ無意味デアリ、無價値デ
アルト云フテ居ル、理論タケシテ實行ニ至
ナカッタナラバ、殆ド其議論ハ無價値デア
ル、即チ吾々ガ學問ノ自由、吾々ガ學問ノ獨
立ニ依テ研究シタモノハ、必ズ社會ニ
實行シナケレバナラナイト云フコトハ、
彼等ノ平素唱ヘテ居ル所ノ主張デアリ、又
軍事聯盟ト同様ニ、吾々ガ考ヘナケレバ
ナラヌコトハ、全國ノ學生科學研究會員ナル
モノガ、各大學ヲ通ジテ學生ガ二千餘名
約四百五十名宛アル、是等ノ學生ハ既ニ在
學中ヨリ亦化宣傳ノ中心ニナツタ濃厚ナル
極ニ傾分子デアリ、之ヲ實社會ニ放ツノハ、
恰モ虎ヲ野ニ放ツテモ同様デアリ、危險此
上モナイ、然ルニ當局官憲ハ如何ナル措置
ヲ執テ居ルカト云ヘバ、甚ダ矛盾ノ點ガ
アルノハ、最近警視廳及全國警察署ニ於キ
マシテ、當局官憲ガ此四百餘名ノ學生ガ
ソレニ對シテ社會ニ出ヅルト云フコトノ爲ニ、
之ニ尾行シ、監視スル爲ニ警視廳ニハ高等
課員ト云フモノヲ特ニ増置シナケレバナ
ラナイ必要ガ起ツタ、又全國各府縣ニハ左
様ナ者ガ段々々々出テ來ルノデアリカラ、之
ヲ取締ルガ爲ニ、各府縣警察ニハ不足ヲ生
ジテ、之ガ増員ヲ要求シテ居ルト云フ事實
ガアルノデアリ、實ニ驚クベキ事デアルト
吾々ハ考ヘテ居ルノデアリ、而シテ是ハ私
ガ決シテ荒唐無稽ナコトデハナイト云フコ
トハ、此處ニ居ラル、岡田文相モ恐ラク私
ト同感デアラウ、平素文相ノ御意見ヲ伺
テ居リマシテモ、吾々ノ思想ニ一點共通シ
タ點ガアルト思フ、故ニ私ハ此事ニ對シ
マシテハ、文部大臣ヲ非難スルト云フ取
毛頭持テ居リマセヌ、又内務大臣ノ取締
ガ十分デアルト云フコトモ私ハ甚ニ唱ヘ
マセヌ、吾々ガ力ヲ協セテ、此洛々ト押寄
セル所ノ此大勢ヲ抑止スルト云フコトニ付
テハ、是ハ今日ノ行政官ノ力ノミデハイケ

ナクナツタ、即チ立法府ノ權威ニ依リマシテ、
吾々ガ連帶責任ニ國家ヲ擁護スルト云フ上
ニ立ツテヤラナカッタナラバ、此大勢ハ抑止
スルコトハ出來ナイト吾々ハ考ヘテ居ル
デアリマス(拍手)政府モ決シテ之ヲ看過シ
テ居ラヌト云フコトハ、本年一月十五日ニ
東京地方裁判所ノ檢事局ニ於テ、檢事七名
豫審判事七名ガ、自動車七臺ヲ驅テ帝國
大學ノ新人會員ノ家宅搜索ヲ致シマシタ、
サウシテ有力ナル證據書類ヲ押收スルト同
時ニ、帝大新人會ノ幹部是枝某ハ四
名ノ者ヲ拘引致シマシタ、是ニ續イテ社會
科學研究會員ノ二十餘名檢舉ト云フコト
モ、是モ事實デアリマス、此新人會ノ是枝
某ト云フ者ハ、是ハ私ハ此所斷言スルコ
トハ出來マセヌガ、昨年露西亞ノ勞農使節
ガ參ツタ、即チ「レバセ」ト云フ人ガ帝國
「レバセ」ニ參ツタ時分ニ、此帝國大學ノ新人會
ノ幹部ニナツテ居ル者ハ、五千萬圓ノ金ヲ受
取、タト云フコトガ、臆氣ナガラ、詰リ此
事實ヲ推測スルコトガ出來ルノデアリ、此
當時、此「レバセ」ガ來タ時分ニ、警視廳モ
殆ド此網ノ手ヲ張テ、注意ヲ怠ラナカ
ノデアリマシタケレドモ、七千萬圓ノ金ヲ其
時ニ置イテ行ツタト云フコトモ、臆氣ナガ
ラ明ニナツテ居ル、之ヲ受渡シタノハ何所
デアアルカト云ヒマス、是ハ確カノ證據ガ
アルテ申スノ度デアリマス、芝ノ協調
會館ノ二階デ授受シタト云フコトハ、稍
推測シ得ベキ點ガアルノデアリマス、是ハ
福岡ニモ最近檢事局ニ起ツタ、此亦化宣傳
ニ對シテ、檢事局ガ活動シテ居ルト云フ事
實ガアル、多數ノ學生ガ拘引サレテ取調ヲ
受ケテ居ル事實モアルノデアリマス、斯ク
多數ノ此學生、或ハ學校ニ斯様ニ亦化宣傳
ノ毒手ガ廻テ居ルト云フコトハ、何ガ元デ
アルカ、大學教授及專門學校、高等學校ノ
教授中ニ、極ニ傾分子ノ指導教授ガ澤山
アルト云フコトデアリマス、斯ク全國の
學生ノ不穩行動アル其原因ヲ質シタナラ
バ、學校内ニ絶エズ共產主義、「マルクス」
主義ノ指導教授アル爲デアリ、此源ヲ正サ
ナカッタナラバ、其源ヲ清メナカッタナラバ、
是ハ決シテ此大勢ヲ抑止スルト云フコトハ
出來ナイ事實デアルト吾々ハ考ヘテ居ル
デアリマス(拍手)斯様ナ指導教授ヲ居ル
云フコトヲ、此儘看過シテ置イテ宜イノ
デアルカドウカ、之ニ對シマシテハ、此所

ニ私ハ詳細ナル調ベナドヲ持シテ居リマス
ルガ、帝國大學ノ經濟部、京都帝國大學法
學部、經濟部、又ハ九州大學ノ文學部、東
北大學ノ法文科、北海道大學、之ニ對シテ
此亦化思想ヲ持テ所ノ持主ガ、絶エズ指
導教授ヲシテ居ル、其人、是ハ明カナモノ
ガアル、天下公知ノ事實ガ澤山アル、私ハ
茲ニ一々、姓名ヲ申シマセヌ、姓名ヲ申サ
ナイト云フノハドウ云フコトデアルカト云
ヘバ、私ハ實名ノニ彼等ガヤツテ居ル者モ
アラウト思フ、新思潮、新傾向ナント申シ
テ、是等ノ徒ヲ歡迎スルコト云フ風潮ガアル
爲ニ、心ニ無クテモ斯様ト危險思想ヲ持
テヤツテ居ルコト云フコトモ限ラナイ、
又吾々ガ今後之ヲ戒めシ、監督スルコ
ト云フコトニナクナラバ、彼等ハ多少今日マ
デノ思想ハ誤テ居ルコト云フコトニ、自然悔
悟ノ餘地ヲ與ヘルモノト考ヘルカ、私ハ
此所ニ名前ヲ申シマセヌ、申シマセヌガ、
帝國大學ニ於キマシテ末廣殿太郎、吉野博
士ノ如キハ、天下公知ノ人間デアル、又京都
大學ニモ多數アリマス、多數アリマス
レドモ、天下ニ明ニテ居ルモノニ河上肇
ト云フ人ガアリマス、其他ニ數名最モ濃厚
ナル者ガアリマス、其名前ハ省イテ置
キマス、又九州帝國大學ニ於テモ教授高田
保馬以下十數名ノ者ガアルデアル、此九
州帝國大學ニ於キマシテハ憲法ヲ教ヘル
際シテ、憲法ノ講座ニ於キマシテ、何ヲ憲
法ノ講義ヲ致シテ居ルカト云ヘバ、英吉利
ノ憲法モ日本ノ憲法モ教ヘズシテ、露西亞
ノ「ツウエト」ノ憲法ノミヲ教授シテ居ル
所ノ教授ガアルデアル、又東北帝國
大學、即チ北海道大學ニ於キマシテハ、私
ガ住居シテ居ル所ハ、札幌ノ大學町ト稱ス
ル所ノ一隅ニハ住居シテ居リマス、此
數名ノ中ニハ三三六節ニ於テドウシテモ國
旗ヲ立テナイ教授ガアル、又自分ノ子供ヲ
小學校ニ入レナイ所ノ教授ガアル、又自分
ナニシテモ土地ノ官幣大社ノ御祭ニ際シ
テ、町内デ寄附金ヲ十錢、二十錢ト集メル
ガ、一錢デモ出サナイ、彼等ハドウ云フコ
トヲ言フコト云フ、自分ノ子供ヲ學校ニ
入レルト云フト馬鹿ニサレル、或ハ忠告ダ
ノ體ナドト云フ馬鹿ナコトヲ教ヘルカ
ラ、ソノ學校ヘハ入レナイノデアルト云
テ自分デ教ヘル、家庭デ教ヘルト公然稱シ

テ居ル、三大節ニ國旗ヲ立テナイト云フヤ
ウナ、サウ云フヤウナ人間ガ多年蟻居シテ
居ルト云フコトハ、私ハ朝夕目撃シテ居ル
ト斯ウ云フ事實ガ各地方ニ在ルデアル、
彼等ハドウ云フコトヲ稱シテ居ルカト申シ
マスルト云フ、學問ノ研究ハ固ヨリ大學
ノ使命デアル、學問ノ研究ハ固ヨリ大學
トハ研究ノ結果ヲ制限サレルコトデハナ
イ、研究ノ一學問ノ研究ハ其手段モ亦自
由デナクナラバ、ソレハ自由デ、其手
段ニ於テモ自由デアル、自由デアル、ノミナ
ラズ研究ノ自由デアル、自由デアルナラバ
其結果ニ於テモ自由デアル、自由デアル、
斯様ニ稱シテ居ル、ケレドモ吾々ハ大學ニ
於テ如何ナル危險思想ヲ研究スルモノソレハ
宜シイ、宜シイト思フガ、荷モ國法ニ觸レ
テ、國禁ニ觸レル事ヲシナケレバナラズ
ト云フコトニナクナラバ、吾々ハ是ハ斷
ジテ容赦スルコトハ出来ナイト考ヘルノデ
アル(拍手)申スモデアリマセヌガ、私ガ
斯様ナ演説ヲ致シマシタラバ、アナタ方
ハ私ノ演説ニ多少疑ヲ存スル人ガアリマセ
ウガ、私ハ茲ニ實ニ身ヲ挺シ、身ヲ挺シ
テ諸君ニ懇ヘタイコトガアル、此壇上ニ於
テ私ガ此事ヲ述ベルト云フコトハ、私ハ決
シテ黨派ノ問題デモナク、自分一人一己ノ
利害休戚ヲ顧ミマセヌ、如何ナル迫害ガ
アラウトモ、ソレハ顧ミナイト云フ決心ガ
アル、其決心ノ下ニ於テ私ハ此事ヲ論ジテ
居ル、若シ此事情ガ行ハレタラバ、私ハ明
日議員ヲ罷メテ決シテ私バ遺憾デナイト
考ヘルガ決心ヲ持テ居ル(拍手)諸君
ニ甚ダ私ハ申上ダ惡イコトデアリマス
ドモ、已ムヲ得マカシテ諸君ニ一言申述
ベルノハ如何ナリマス、難波大助ノ犯行ト云
フアルガ、金融無識ノ我が帝國ニ於テ、三
年來建國ノ理想ヲ破ラレタ所ノ彼ノ難波大
助、此難波大助ノ犯行ハ如何ナル動機ニ依
テ起シタモノデアルカ、是ハ秘密書類デ
アリマス、是ハ秘密書類デアリマス、議員ノ言論
ハ自由デアリマス、此豫算調書ノ全文
ハ中ノ一節ヲ諸君ニ御披露ヲ申シマス、大
體ヲ申上ダマス、即チ難波大助ノ不滿ヲ抱
イタト云フコトニ付テノ動機ハ、大正十年
一月頃ヨリ雜誌「改造」ヲ購讀シテ(秘密會
デアレト呼フ者アリ)——一寸御斷リシマ

ス
○議長(粕谷義三君) 東君ニ一寸御注意シ
マスガ、ソレハ秘密會ニ致シテシタラ如何
デス
○「秘密會ノ必要ナシ」(秘密會デアレト
ト呼フ者アリ)
○東武君(前) 閣下省キマス、閣下省
キテ私ガ其趣意ヲ申上ダマス、即チ此
雜誌ノ社會主義思想ニ共鳴シテ、雜誌「改
造」ノ四月號ニ於テ博士河上肇ノ短編「テ
ロリスト」ヲ讀ミテ、「テロリスト」ハ專制ニ對
スル當然ノ結論デアルト云フコトヲ彼ハ考
ヘタ、又圖書館ニ於テ幸徳秋水ノ公判ノ記
事ヲ讀讀致シ、之ニ依テ彼ハ同情ヲ致シ
テ「テロリスト」ノ意思ヲ繼續スルト彼ハ稱
シテ居ルノデアリマス、又其後早稻田ノ高
等學院ニ入學致シマシテ、思想ハ一變シテ
社會主義者トナリ、街頭革命家ヲ以テ彼ハ
任ジテ居シ、而シテ漸次労働問題ニ興味
ヲ加ヘマシテ、共產主義的思想ニ變化致シ、
更ニ佐野學氏ヨリ 佐野學氏ヨリ共產黨
宣言ノ講義ヲ聽イタノデアリマス、サウシ
テ愈々共產主義ノ信念ヲ彼ハ固メタノデア
ル、此無產階級、即チ共產主義ト皇室ノ存
在トハ到底兩立スベカラザルモノガアル
ト彼ハ稱シ、之ニ對シテ提多イ事デアリマ
ス、彼ハ我が日本帝國國民トシテ社會テ
無イ所ノ大逆ヲ犯シテ、「テロリズム」ヲ遂
行スルコト云フ決心ヲ致シタト云フコト
ハ、公判ノ此調書ニ歷々トシテ載テ居ル
ノデアリマス、又「テロリズム」ノ革命思
想ハ、震災ノ爲メ反動思想ガ旺盛ニナ
シタ、(「テロリズム」ノ思想ガ漸次閑息セ
ント致シタ場合、即チ國家主義ノ思想ガ非
常ニ旺盛ニナラタ爲ニ、此「テロリズム」
シム場合、ハ「テロリズム」ガ非常ニ急氣箱
ニ對スル所ノ報復手段ト致シテ、彼ハ最モ
此我國ニ於テ諸團體ガ神聖受スベカラズト
稱シタルモノニ向テ、之ニ向テ甚シキ不
逞ノ行爲ヲ爲サント云フコトヲ決意致シタ
ト云フコトハ、此豫算調書ノ一節ニ於テ歴
トシテ現ハレテ居ルノデアリマス、然ラ
バ我が帝國ハ開闢以來一世ノ皇室ヲ奉
ジ、君臣一體、忠孝一致ヲ以テ國體ノ精華
ト爲シテ居ルノデアアル、固ヨリ吾々ハ歐米
ノ新思想ト稱スル、功利主義或ハ物質本位
ノ社會觀ニ依テ我が國體ノ基礎ガ動搖ス

ルモノトハ吾々ハ考ヘテ居リマセヌ、考ヘ
テ居リマセヌガ、併シ今日ハドウ云フ社會
相デアルカト申シマスレバ、明治初年以來
物質文明ガ輸入致シ、同時ニ産業革命ノ結
果ト致シマシテ、我が帝國ノ貧富ノ懸隔ガ
著シク進ミ、階級意識ガ明瞭トナリ、社會
各方面ニ於キマシテ生活上ノ不安、思想上
ノ缺陷ト云フモノガ最モ著シクナツテ、是
ガ爲ニ我國ノ思想界ト云フモノハ今ヤ暴風
ノ真只中ニ漂ウテ居ルヤウナ狀況ヲ呈シテ
居ルノデアリマス、私ハ若シ一歩ヲ退
ナラバ、我が建國以來ノ此精神ト云フモノ
ヲ失ハレ、金融無識ノ國ヲ破壞シテ、遂
ニ生民ヲ塗炭ニ苦メル、彼ノ恐ルベキ階級
露西亞ノ覆轍ヲ見ルト云フヤウナコトガ
或ハナイコトヲ保證スルコト云フコトガ、如
何ニモ大膽デアルガ如キ感ヲ懷ク者デアリ
マス、故ニ私ハ此點ニ付テハ、諸君ノ深
甚ナル御考察ヲ煩シタイト同時ニ、餘リ永ク
ナリマスルカ、此以上ハ申述ベマセヌ
ガ、私ノ前段申述ベタ所ノ質問ノ要旨ヲ述
ベテ此壇ヲ降ラウトスル者デアリマス、質
問ノ要旨ハ第一、以上述ベタ事事實ニ
對シテ、政府ハ斯ノ如キ事實ナシト認ムル
バ、政府ハ國家ノ思想上イカド云フ考ヲ
持テ居ラナイカドウカ、第二ハ、歐米各
國ハ今ヤ荷モ國家組織ニ對スル破壞的行爲
ニ對シテハ、極力其防遏ニ從事シテ、徹底
的ニ權力ヲ用キテ居ルノデアリマス、各國
共法制上或ハ國家ノ權力ヲ用キテ居ルノデ
アルガ、單リ我國ニ於テハ、朝野共ニ頗ル
此點ニ付テハ徹底味ヲ缺イテ居ル、且ツ傍
觀的態度ニ出ルノ觀ガナシトシナイ、斯
ノ如キ狀態ニ於テ、政府ハ我が國家百年ノ
前途ヲ如何ニ考ヘテ居ルノデアアルカ、此點
ニ對スル政府當局ノ御考察ヲ伺ヒタイ、又
第三ニハ、政府ハ幾ニ高等學校ニ於ケル社
會科學研究會ノ解散ヲ命ジタ、岡田文相ハ各
高等學校ニ對シテ非常ナル英斷ヲ以テ、社
會科學研究會ノ解散ヲ命ジタガ、以テ、社
會間ガ幼稚、思想ガ軟弱デアルト云フガ爲
ニ之ニ解散ヲ命ジタノガ、一世ノ議論ヲ生
ジタノデアリマス、若シ徹底的ニ思想
善導ノ舉ニ出デントスルナラバ、何故ニ最
モ危險性ヲ帶ビタ所ノ、所謂朝野素亂ノ虞
アリトモ云フベキ所ノ帝國大學内ノ新人
會、其他ニ對シテ解散ヲ命ジナイノデアアル

カ、是が第三點デアリマス、第四點ハ彼等ハ既ニ全國の聯盟ノ下ニ學術研究ノ範圍ヲ越エテ、實行手段ニ著手シツ、アルト云フコトハ、前段申述ベタ如クデアル、何故ニ政府ハ今尙ホ傍觀ノ態度ニ出デツ、アルノデアルカ、文部大臣ハ一度此方面ニ手ヲ下下ニ、或ハ大學ノ勢力ノ下ニ及ビ、唯獨ニ出ヅルト云フガアル爲ニ、今尙ホ躊躇巡シツ、アルノデアルハナイカト云フコトヲ私ハ質問致スノデアリマス、此事ニ付テハ、灰カニ承リマスレバ、閣議ニ於テモ數回問題ニナツタト云フコトヲ聞イテ居ル、然ルニ今尙ホ此狀態ニ放任シテ置クト云フコトハ、如何ナル考デアルカ、何故ニ躊躇巡シツ、アルカト云フコトガ第四點デアリマス、第五ハ各大學内ノ共產主義教授ハ非常ニ多數ニ上ツテ居ルト云フコトハ、先程申述ベマシタ、如何ニ生徒ヲ取締レバトモ危險思想ハ止ムベキモノニアラズ、畢竟其未ヲ清クセント欲スレバ、其源リ正ササルベカラズ、是等大學ニ潛在スル所ノ多數ノ不良教授ヲ徹底ニ處分スル所ノ意思ハナイカドツカ、是が即チ第五點デアリマス、第六ハ既ニ大學教授中ニハ、司法官意ノ手ニ依リマシテ家宅搜索ヲ受ケタル者モアルノデアリマス、數人アルト聞イテ居ルノデアリマス、又私ノ懸念ナリデアリマスガ、吉野博士ノ如キハ思想上ノ犯罪ニ依リマシテ、今起訴猶豫ニナツテ居ルデアル、五箇條ノ御誓文ニ對シテ非難ヲ致シタト云フニ依ツテ、犯罪ハアルケレドモ起訴猶豫ニサレタ人デアリマス、此起訴猶豫ニサレタ人ガ何時ノ間ニカ再ビ——犯罪ノ汚名ヲ受ケテ居ル人ガ現ニ大學ノ講師ヲシテ居ルノデアル、講師トシテ之ヲ僱用シタ、起訴猶豫ニナツテ居ル人ヲ講師トシテ更ニ僱用シテ居ルノデアルガ、之ニ對シテ、文部大臣ハ、如何ナル考ヲ以テ斯ノ如キ人ヲ更ニ講師トシテ用キテ居ルノデアルカ、以上六問デアリマスガ、本員ノ此質問ハ、先程申上ゲタ如ク、決シテ一黨一派ノ問題デハナイ、超政黨超世間的、超個人的デアリマス、此嚴肅ナル理想ノ上ニ於テ私ハ此質問ヲ發シテ居ルノデアル、此問題ヲ提起スル爲ニハ齋戒沐浴、伊勢大廟、明治神宮ニ祈願ヲ施メル熱誠ヲ以テ此質問ヲ提起致シテ居ルノデアル(拍手)故ニ政府ハ最モ嚴肅ニシテ

且ツ確乎タル方針ノ下ニ、一時ヲ躊躇シ、一時ヲ糊塗スルガ如キ曖昧ナル其場邊レノ答ヲシナイデ、國家ノ政策ハ都迷ニ在ルカ、内務省或ハ文部省ニ於キマシテハドウ云フ方針デアルカト云フコトヲ、徹底のニ確乎不拔ナル覺悟ニ於テ、此質問ニ御答辯アラント望ミシデ、此壇ヲ降ル次第デアリマス(拍手)

(國務大臣岡田良平君登壇)

○國務大臣(岡田良平君) 只今東君ヨリ思想問題ニ關係致シマシテ最も熱心ナル、又最も國ヲ憂ヘラレル所ノ東情ヲ披露シタ御質問ガアリマシタ、私ハ當局者ト致シマシテ最も深厚ナル敬意ヲ表シテ拜聴ヲ致シタノデアリマス、殊ニ東君ガ是ハ政黨政黨ヲ超越シタ問題デアル、又單リ政府ノミヲ責ムルノデハナイ、立法府ニ於テモ共ニ但ニ力ヲ盡シテ此弊ヲ救フコトニ努力センケレバナラヌト云フコトヲ御述ニナリマシタ、此點ニ付キマシテハ最も私ハ深厚ナル敬意ヲ表スル者デアリマス、勿論政府ト致シマシテハ、此點ニ付テ最善ノ努力ヲ致スベキハ當然デアリマス、併ナガラ決シテ是ハ政府ノ力ノミヲ以テ完全ナル結果ヲ得ルコトノ出來ナイ困難ナル問題デアリマス、國民共ニ俱ニ、殊ニ此立法府ノ諸賢ガ、此事ニ付テ深厚ナル援助ヲ與ヘラレト云フコトハ最も有力ナル事デアアル、最も必要ナル事デアアルト私ハ深ク感ズルノデアリマス、東君ガ御述ニナリマシタ種々ノ事實ニ對シテ辯解等ハ、私ハ甚ニ之々其事實ニ對シテ辯解等ハ致シマセス、承リマシタ事實ノ中ニ、私ノ聞イテ居ル所ト多少違フテ居ル點モアリマス、又私ノ全然承知致シテ居ラヌ事柄モアリマス、然シ大體ニ於キマシテハ、東君ノ御述ニナリマシタ事實ヲ甚シク相違ナイモノト考ヘルノデアリマス、然ラバ當局者ハ將來如何ナル方法ヲ執ルノデアアルカ、第二ノ御尋トシテ歐米諸國ニ於テハ是等ノ惡思想ヲ防遏スル爲ニ最善ノ努力ヲシテ居ル、最も有力ナル防遏ノ方法ヲ執ルテ法ヲ執ルカト云フ御話デアリマス、此點ニ付キマシテハ從來私ガ執リ來リタルコトアリマス、私ハ就職ノ初メヨリ此問題ニ付キマシテハ最も憂慮ヲ致シマシテ、一昨年ノコトデアリマスルガ、高等學校程度ノ學

校ニ於キマシテハ、總テ斯ノ如キ研究ニ耽ル所ノ團體ヲ禁止致シマシタ、然ルニソレ以上ノ程度ノ學校ニ付キマシテハ、是ハ研究ヲ目的トスル以上ハ、之ヲ禁止スルコト云フコトハ甚ダ適當ヲ缺クニデアリマスルカ、總テハ研究ノ範圍ニシテメテ、苟モ實際の行動ヲ執リ、或ハ外部ト聯絡ヲシテ種種ノ行動ヲ爲スト云フガ如キコトハ、是ハ禁止スルコトニ致サナレバナラヌト云フ事ヲ以テマシテ、學校ノ當局者ニ向シテハ絶エズ注意ヲ促シテ居タノデアリマス、然ル所當局者ノ眼ノ及バナイ、又學校長ノ限ノ屬キマセヌ所ニ於キマシテ、段々不都合ナ行動ガアツタモノト見エマス、最近ニ京都ニ於キマシテ數名ノ學生ヲ檢禁致シマシタ、司法官ノ手ニ於テ調査ヲ致シテ居リマスルガ、其調査ノ結果ハマダ私モ能ク承知ハ致シテ居リマセヌガ、併シ漏レ聞ク所ニ依リマスルトモナ新事實ガアルノデアリマス、是迄當局者ノ承知致シテ居ラナカ、ヤウナ事ガアルノデアリマス、今一層此調査ガ進ミマシテ、此方面ノ事實ガ歴々ト現レルコトニ至リマシタラバ、當局者ト致シテハ單リ高等學校程度ニ止ラズ、大學程度ニ對シマシテモ徹底ノ手段ヲ執ル積リデ居リマス、又其法ニ觸レル者ノ如キニ至リマシテハ、勿論是ハ聊カモ假借スル所ナク致ス積リデアリマス、デ大學ノ教授ノ中ニ不都合ナ説ヲ唱ヘル者ガアルト云フ事ヲ御述ニナリマシタ、其例トシテ二人ノ人名ヲモ御舉ゲニナツタノデアリマス、其點ニ付キマシテハ大學教授ガ例ヘバ「マルクス」ハ斯様ナル説ヲ抱イタ者デアルト云フコトヲ學生ニ紹介致スト云フコトハ、是ハ已ムヲ得ヌ事ト思フノデアリマス、苟モ教授ガ宣傳ヲ致シマシタリ、或ハ特別ノ行動ヲ執リマシタリ、即チ國法ニ觸レヤウナ行動ヲ致シマシタラバ、是ハ決シテ假借ヲ致サヌ積リデアリマス、京都ノ大學ノ教授ガ十數名家宅搜索ヲ受ケタト云フ御話ガアリマシタガ、是ハ少シク事實ガ間違フテ居ルヤウデアリマスガ、家宅搜索ヲ受ケタ者ハ一名デアリマス、併ナガラ若モ其行動ガ學術研究ト云フヤウナ範圍ヲ超越致シマシタナラバ、申スマデモナク假令國法ニ觸レル程度ニ至リマセヌデモ、不都合ナル行動ヲ認メマシタ以上ハ、當局者ハ之ニ對シテ

相當ノ處置ヲ執ルコトハ決シテ躊躇致シマセヌノデアリマス、唯、今日ノ程度ニ於キマシテ、マダソレ程ニ確實ナル事實ヲ私ハ擲シテ居リマセヌガ、併シ只今司法官ノ手ニ在リマスル所ノ事實ガ、調査ガ進シテ參リマシタラバ、定メシ種々私共ノ水知致シテ居ラヌ事ガ明ニナルコトデアアラウト思ヒマス、然ル上ハ當局者トシテハ決シテ勇斷ヲ下スコトニ付テ躊躇スル者デハゴザイマセヌ、要スルニ私ハ將來ニ向ヒマシテハ、十分ニ此東君ノ御心配ニナル問題ニ付キマシテ、徹底ノ手段ヲ執ル積リデアリマス、十分ノ努力ヲ致ス積リデアリマス、願クバ立法府ノ諸公ニ於カレモ、之ニ對シテハ深ク希望致シマス(拍手)

○井本常作君 議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出シマス、即チ政府提出、大正十三年法律第十號中改正法律案ヲ特ニ提呈、委員長ノ報告ヲ求メ、第一讀會ノ議ヲ開カレト望ミマス

〔贊成〕贊成ト呼ブ者アリ

○議長(柏谷義三君) 井本君ノ日程變更ノ動議ニハ御異議アリマセヌカ

〔異議〕異議ナシト呼ブ者アリ

○議長(柏谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍チ日程ハ變更セラレマシタ、大正十三年法律第十號中改正法律案ノ第一讀會ノ議ヲ開キマス——委員長上原好雄君

大正十三年法律第十號中改正法律案(高等學校復舊後復舊費ニ關スル豫算ノ施行ニ關スル件)(政府提出)

第一讀會ノ議(委員長報告)

報告書

大正十三年法律第十號中改正法律案(高等學校復舊後復舊費ニ關スル豫算ノ施行ニ關スル件)(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決ス(ヘキモノト議決致候此段及報告候也)

大正十五年三月二十三日

中改正法律案委員長

上原 好雄

衆議院議長柏谷義三殿

希望

東京帝國大學其ノ他諸學校復舊事業ハ可成速ニ完成セラレムコトヲ望ム

〔上原好雄君登壇〕

○上原好雄君 昨ハ只今上程ニナリマシタ
本案ニ對シ、委員會ノ經過及結果ヲ御報告
致シマス、本案ハ御承知ノ通り極メテ簡單
ナル案デアリマシテ、即チ帝國大學特別會
計法中ニ一ノ特別ヲ設ケタイト云フノガ本
案ノ骨子デアリマス、即チ東京商科大学ヲ
移轉改築致シマス爲ニ、其殘地ヲ特別會計
カラ引離シテ、國有財産ノ方ニ移シタイト
云フノデアリマス、之ニ對スル委員會ハ委
員諸君ト政府委員トノ間ニ最モ熱心ニ仔細
ナル質問應答ヲ重ネラレマシタ結果、希望
條件ヲ附シマシテ、滿場一致原案ヲ可決致
シマシタ、希望條件ハ「東京帝國大學其ノ
他諸學校復興工事ハ可成速ニ完成セラレム
コトヲ望ム」以上御報告致シマス（拍手）

○議長（粕谷義三君） 本案ニ對シテハ別ニ
發議ノ通告モアリマセマカラ、直ニ採決ヲ
致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議
アリマセヌカ

〔異議ナシ〕「異議ナシ」ト呼フ者アリ
○議長（粕谷義三君） 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○井本常伴君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ
三讀會ヲ省略シテ委員長報告通リ可決セラ
レンコトヲ望ミマス

〔贊成〕「贊成」ト呼フ者アリ
○議長（粕谷義三君） 井本君ノ動議ニハ御
異議ナシト認メマス、仍テ直ニ第二讀會ヲ
開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

大正十三年法律第十九號中改正法律案
（高等諸學校復興費ニ關スル豫
算ノ施行ニ關スル件）第二讀會（確定議）
〔異議ナシ〕「呼フ者アリ」

○議長（粕谷義三君） 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ
通り可決確定致シマシタ

○井本常伴君 再ビ議事日程變更ノ緊急動
議ヲ提出致シマス、即チ政府提出、日程第
二十一乃至第二十五ヲ逐次上程シ、委員長
ノ報告ヲ求メ其第一讀會ノ續ヲ開キ、審議
ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕「贊成」ト呼フ者アリ
○議長（粕谷義三君） 井本君ノ日程變更ノ
動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕「異議ナシ」ト呼フ者アリ
○議長（粕谷義三君） 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日程第
二十一及第二十二ハ同一委員ニ付託シタ議
案デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕「異議ナシ」ト呼フ者アリ
○議長（粕谷義三君） 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程第二十一、民事訴訟法中改正
法律案、日程第二十二、民事訴訟法中改正
法律施行法案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開
キマス——委員長齋藤隆夫君

第二十一 民事訴訟法中改正法律案
（政府提出、貴族院送付）

報告書

一 民事訴訟法中改正法律案（政府提出、
貴族院送付）
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモ
ノ決議致候此段及報告候也
大正十五年三月二十二日
民事訴訟法中改正法律案（政
府提出、貴族院送付）委員長
齋藤 隆夫

衆議院議長粕谷義三殿
〔別紙〕

（小字及ハハ委員會修正）

民事訴訟法中改正法律案中左ノ通修正ス
第三十一條 裁判所ハ其ノ管轄ニ屬スル
訴訟ニ付著キ損害又ハ遲滞ヲ避クル爲
必要アリト認ムルトキハ其ノ專屬管轄
ニ屬スルモノヲ除クノ外申立ニ因リ
又ハ職權

決定ヲ以テ訴訟ノ全部又ハ一部ヲ他ノ
管轄裁判所ニ移送スルコトヲ得
第三十五條 判事ハ左ノ場合ニ於テハ法
律上其ノ職務ノ執行ヨリ除外セラレ
一 判事又ハ其ノ妻若ハ妻タリシ者カ
事件ノ當事者ナルトキ又ハ事件ニ
付當事者ト共同權利者、共同義務者
若ハ償還義務者タル關係ヲ有スルト
キ

二 判事カ當事者ノ四親等内ノ血族若
ハ三親等内ノ姻族ナルトキ又ハナ
リシトキ
三 判事カ當事者ノ後見人、後見監督
人、保佐人又ハ同居ノ戸主若ハ家族
ナルトキ
四 判事カ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト

爲リタルトキ
五 判事カ事件ニ付當事者ノ代理人又
ハ輔佐人ナルトキ又ハナリシトキ
六 判事カ事件ニ付仲裁判斷ニ關與シ
又ハ不服ヲ申立テラレタル前審ノ裁
判ニ關與シタルトキ但シ他ノ裁判所
ノ囑託ニ因リ受託判事トシテ其ノ職
務ヲ行フコトヲ妨ケス
第八十一條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタ
ル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假
差押及假處分ニ關スル訴訟行爲モ亦之
且辨濟ヲ受領スル
ヲ爲スコトヲ得
左ニ掲クル事項ニ付テハ特別ノ委任ヲ
受クルコトヲ要ス
一 反訴ノ提起
二 訴ノ取下、和解、請求ノ拋棄若ハ
認諾又ハ第七十二條ノ規定ニ依リ脫
退
三 控訴、上告又ハ其ノ取下
四 代理人ノ選任
訴訟代理權ハ之ヲ制限スルコトヲ得ス
但シ辯護士ニ非サル訴訟代理人ニ付テ
ハ此ノ限ニ在ラス
第九十九條 當事者カ故意又ハ重大ナ
ク過失ニ因リ時機ニ後レテ提出シタル
攻撃又ハ防禦ノ方法ハ之カ爲訴訟ノ完
結ヲ遲延セシムヘキモノト認メタル
キハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スル
コトヲ得
下ノ決定ヲ爲ス
攻撃又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明
瞭ナラサルモノニ付當事者カ必要ナル
釋明ヲ爲サス又ハ釋明ヲ爲スヘキ期日
ニ出頭セサルトキ亦前項ニ同シ
第一百二十四條 調査ニハ辯論ノ要領ヲ記
載シ殊ニ左ノ事項ヲ明確ニスルコトヲ
要ス
一 和解、認諾、拋棄、取下及自白
二 證人鑑定人ノ宣誓及陳述
三 檢證ノ結果
四 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及當事者
ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項
五 書面ニ作ラサル裁判
六 裁判ノ言渡

第一百四十八條 裁判所必要アリト認ムル
トキハ。○申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ
ル陳述ノ全部又ハ一部ヲ筆記セシムル
コトヲ得
第一百五十二條 期日ハ裁判長之ヲ定ム
受命判事又ハ受託判事ノ審問ノ期日ハ
其ノ判事之ヲ定ム
期日ノ指定ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以
テ之ヲ爲ス
口頭辯論ニ於ケル最初ノ期日ノ變更ハ顯著
ナル事由ノ存セサルトキト雖當事者ノ合意
アル場合ニ於テハ之ヲ許ス準備手續ニ於ケ
ル最初ノ期日ノ變更亦同シ
第七十條 當事者、法定代理人又ハ訴
訟代理人ハ受託裁判所ノ所在地ニ住所、
居所、營業所、又ハ事務所ヲ有セサルト
キハ其ノ裁判所ノ所在地ニ於テ送達ヲ
受クヘキ場所及送達受取人ヲ定メ之ヲ
届出ツルコトヲ要ス
送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲サ
サルトキハ其ノ者ノ對シテ送達スヘキ
書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達ス
ヘキ場所ニ宛テ。○書留
送スルコトヲ得
第一項ノ届出ハ送達ヲ受クヘキ者ガ受
訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業
所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テモ亦
之ヲ爲スコトヲ得
第七十二條 前條ノ規定ニ依リテ送達
ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ裁判
所書記書類ヲ。○書留
スルコトヲ得
郵便ニ付シテ之ヲ發送
スルコトヲ得
○交付ヲ受ケタル日
第九十三條 判決ハ。○當事者ニ之ヲ送
達スルコトヲ要ス
ヨリ二週間内ニ之ヲ
達スルコトヲ要ス
判決ノ送達ハ正本ヲ以テ之ヲ爲ス
第二百六十二條 裁判所ハ必要ナル調査ヲ
官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又
ハ。○法人ノ囑託スルコトヲ得
第三百六十一條 財産權上ノ請求ニ關ス
ル判決ニ對シテハ控訴ニ因リテ受クヘ
キ利益ノ償額カ二百圓ニ滿タサル場合
ニ於テハ再審ノ事由アルニ非サレハ控
訴ヲ爲スコトヲ得ス

爲リタルトキ
五 判事カ事件ニ付當事者ノ代理人又
ハ輔佐人ナルトキ又ハナリシトキ
六 判事カ事件ニ付仲裁判斷ニ關與シ
又ハ不服ヲ申立テラレタル前審ノ裁
判ニ關與シタルトキ但シ他ノ裁判所
ノ囑託ニ因リ受託判事トシテ其ノ職
務ヲ行フコトヲ妨ケス
第八十一條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタ
ル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假
差押及假處分ニ關スル訴訟行爲モ亦之
且辨濟ヲ受領スル
ヲ爲スコトヲ得
左ニ掲クル事項ニ付テハ特別ノ委任ヲ
受クルコトヲ要ス
一 反訴ノ提起
二 訴ノ取下、和解、請求ノ拋棄若ハ
認諾又ハ第七十二條ノ規定ニ依リ脫
退
三 控訴、上告又ハ其ノ取下
四 代理人ノ選任
訴訟代理權ハ之ヲ制限スルコトヲ得ス
但シ辯護士ニ非サル訴訟代理人ニ付テ
ハ此ノ限ニ在ラス
第九十九條 當事者カ故意又ハ重大ナ
ク過失ニ因リ時機ニ後レテ提出シタル
攻撃又ハ防禦ノ方法ハ之カ爲訴訟ノ完
結ヲ遲延セシムヘキモノト認メタル
キハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スル
コトヲ得
下ノ決定ヲ爲ス
攻撃又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明
瞭ナラサルモノニ付當事者カ必要ナル
釋明ヲ爲サス又ハ釋明ヲ爲スヘキ期日
ニ出頭セサルトキ亦前項ニ同シ
第一百二十四條 調査ニハ辯論ノ要領ヲ記
載シ殊ニ左ノ事項ヲ明確ニスルコトヲ
要ス
一 和解、認諾、拋棄、取下及自白
二 證人鑑定人ノ宣誓及陳述
三 檢證ノ結果
四 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及當事者
ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項
五 書面ニ作ラサル裁判
六 裁判ノ言渡

前項ノ規定ハ訴訟ノ目的ノ價額カ二百圓以上ナル事件ニ付裁決所カ訴訟ノ一部ニ付爲シタル判決ニハ之ヲ適用セス
第一項ノ價額ハ控訴提起ノ時ノ標準トシテ之ヲ定ム
控訴審ニ於テ擴張シタル請求ノ價額ハ第一項ノ價額ニ之ヲ算入セス
第一項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ハ二百圓以上有做ス第二十三條ノ規定ハ第一項ノ價額ノ算定ニ之ヲ適用ス
第三百六十二條ヲ第三百六十一條トシ以下第三百七十一條ヲ順次繰上ク
第三百七十一條 第二百二十八條ノ規定ハ控訴狀カ第三百六十八條第二項ノ規定ニ違背スル場合、法律ノ規定ニ從ヒ控訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合及控訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ適用ス
第三百七十二條ヲ第三百七十一條トス
第三百七十三條 被控訴人ハ控訴權消滅ノ後ト雖口頭辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得附帶控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ價額カ二百圓ニ滿タサルトキ亦同シ
第三百七十四條ヲ第三百七十三條トシ以下第三百九十二條ヲ順次繰上ク
第三百九十三條 訴訟完結シタル後上訴ノ提起ナクシテ上訴期間滿了シタルトキハ裁判所書記ハ判決又ハ第三百七十一條ノ規定ニ依ル命令ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ之ヲ第一審裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス
第三百九十四條ヲ第三百九十三條トシ以下第三百九十七條ヲ順次繰上ク
第三百九十七條 上告裁判所ノ書記ハ原裁判所ノ書記ヨリ訴訟記録ノ送付ヲ受ケタルトキハ選擇ナク其ノ旨ヲ當事者ニ通知スルコトヲ要ス
第三百九十八條 上告狀ニ上告ノ理由ヲ記載セサルトキハ遲クモ上告期間滿了ノ日ヨリ三十日以内ニ上告理由書ヲ提出スルコトヲ要ス
第四百四條 第三百九十四條第二項ノ規定ニ依ル上告アリタル場合ニ於テハ上告裁判所ハ原判決ニ於ケル事實ノ確定カ法律ニ違背シタルコトヲ理由トシテ其ノ判決ヲ破毀スルコトヲ得ス
第二十二條 民事訴訟法中改正法律施行法案(政府提出 貴族院送付)
第一讀會ノ續(委員長報告)
報告書
一 民事訴訟法中改正法律施行法案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十五年三月二十二日
民事訴訟法中改正法律施行法案委員長 齋藤 隆夫
衆議院議長柏谷義三殿

(別紙)
(小字及ハ委員會議修正)
民事訴訟法中改正法律施行法案中左ノ通修正ス
第十一條 新去施行前ヨリ繁屬スル訴訟ニ付言渡シタル判決ニ對シテハ上訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ價額ハ二百圓ニ滿タサル場合ニ於テモ上訴ヲ爲スコトヲ得
第十二條ヲ第十一條トシ以下順次繰上ク
○齋藤隆夫君登壇
○齋藤隆夫君 只今議題トナツテ居リマスル兩案ノ中、先ツ民事訴訟法中改正法律案、此特別委員會ノ經過並ニ結果ニ付キマシテ、極メテ大要ヲ御報告致シマス、御承知ノ如ク本案ハ現行民事訴訟法中第一編、乃至第五編ニ對シテ根本的ノ改正ヲ企テ、尙ホ之ニ關聯致シマシテ、第六編乃至第八編ニ對シテ一部ノ改正ヲ加ヘントスルモノデゴザイマシテ、本期議會ニ現ハレマシタル法律案ト致シマシテハ、其内容ガ最も浩瀚デ法律マズルノミナラズ、私權ノ行使ニ付キマシテハ極メテ重大ナル關係ヲ有スルモノデアリマス、幸ニシテ委員諸氏ハ何レモ知名ノ在野法曹デアリマスルガ故ニ、多年ノ經驗ニ基キ、熱心精細ニ本案ヲ審議セラルマシタ結果、委員會ハ最も圓滿ニ且ツ順調ニ終リテ報告致スコトヲ喜ブノデアリマス、而シテ本案ノ主眼トスル所ハ何レニ在ルカト申シマスルト云フト、詰リ現行民事訴訟法施行以來多年ノ經驗ニ基キ、訴訟遲延ノ原因トナルベキ諸種ノ規定ヲ改メマシテ、專ラ事件ノ圓滿ナル進捗ト審理ノ適正ヲ圖ルニ在ルコトハ、本案提出ノ理由トシテ司法大臣ノ述べラレタル通りデアリマス、此目的ヲ達シマスルガ爲ニ、第一ニ準備手續ヲ擴張シ、第二ニ審判ノ制ヲ變シ、第三ニ不當審判ノ合意ニ依ル期日ノ變更ヲ廢シ、第四ニハ裁判官轉送ノ制ヲ設ケ、第五ニハ攻擊防禦方法ヲ提出ヲ制限シ、第六ニハ法人ニアラザル社團又ハ財團ノ訴訟能力ヲ認メ、第七ニハ訴訟參加ノ制ヲ擴張シ、第八ニハ證據訴訟及爲替訴訟手續ヲ廢シ、第九ニハ輕微ナル訴訟ニ付テハ上訴ヲ制限シ、第十二ニハ上訴期間ヲ短縮シ、其外幾多ノ新シキ規定ヲ設ケテ居リノデアリマス、斯ル規定ヲ設ケタルニ至リマシテ理由ノ大要ハ、此所司法省編纂民事訴訟法中改正法律案理由書、東京清水書局發行定價一圓五十錢之三載、テ居リマスニ依テ、之ニ就テ御覽ヲ願ヒタイノデアリマス、委員會ハ去ル十一月ヨリ連日ニ涉リマシテ開會ヲ致シ、政府當局ト委員諸氏トノ間ニ於テ幾多ノ質問應答ガ重トラレタノデアリマス、此質問ノ中デ主ナルモノヲ御紹介致シマスルナラバ、第一ニハ本案ヲ豫メ世上ニ公ニシテ、廣ク各方面ノ意見ヲ求メナカッタノハ何故デナラヤ、第二ニハ此短カノ期間ハ餘ス所僅ニ十數日ヲ出ナイ、此短カノ期間ニ於テ斯ノ如キ大法案ノ審查ヲ盡サシメントスルノハ、餘リニ輕率デナイカ、第三ニハ本期議會ニ於テ是非共本案ヲ成立セシメ、ネバナラヌ所ノ必要ハ何處ニ在ルカ、第四ニハ訴訟遲延ノ原因ハ獨リ裁判官、辯護士、裁判所書記、是等ノ者ノ能率ガ羈ガライト云フトモ原因ヲ成シテ居ルノデアアル、政府ハ如何ニシテ是等ノ機關ヲ改善シ、其能率ヲ増進ヲ圖ラントスルノデアアルカ、第五ニハ證據訴訟、爲替訴訟手續ヲ廢シタル理由ハ如何、第六ニハ關聯判決ノ制ヲ廢シタル理由ハ如何、第七ニハ準備手續ヲ擴張シタル理由ハ如何、第八ニハ訴訟價額三百圓未滿、貴族院ニ於キマシテハ之ヲ二百圓未滿ト修正シテ居リマスガ、免ニ角此種ノ訴訟ニ付テ控訴及上告ヲ許サズト定メタル理由ハ如何、第九ニハ現行法ニ於テ不當審判ノ合意ガアル場合ニ於テハ、自由ニ期日ノ變更ヲ許スニ拘ラズ、本案ニ於テハ一切之ヲ廢シタル理由ハ如何、其他幾多ノ質問ガ發セラレマシテ、之ニ對スル政府ノ答辯ヲ御紹介致シマスルト云フト非常ニ長時間ヲ要シマスルニ依テ、是ハ速記記録ニ依リテ御覽ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、斯ノ如クニシテ委員會ニ於ケル總體的及逐條的質問ガ終リマシタ後ニ、更ニ小委員ヲ設ケタノデアリマス、委員長ヲ加ヘテ十名ノ小委員ヲ設ケテ、此委員會ニ於キマシテハ速記ヲ廢シテ懇談會ニ移タノデアリマス、此委員會ノ内容ニ付キマシテ、特ニ御報告申シテ置キタイ一事ガアリマス、ソレハ外ノ事デハゴザイマセヌ、此改正案ニ付キマシテハ在野法曹ノ間ヨリ幾多ノ修正意見ガ現ハレ、吾々ノ手許ニモ配付セラレテ居リノデアリマス、其ハ日本辯護士協會及東京辯護士會ノ名ニ依リテ、又一ツニ帝國辯護士會及東京第一辯護士會ノ名ニ依リテ、各々六十餘條ニ互ル所ノ修正意見ガ現ハレテ居リノデアリマス、而シテ是等ノ團體ハ、何レモ我國ニ於キマシテハ最も有力ナル所ノ法曹家ノ寄集リデアリマスルニ依テ、吾々ガ本案ヲ審議スルニ當リマシテ、是等ノ意見ニ重キヲ置キ、之ヲ參考ニ供スルト云フトハ、決シテ不當ノ事デハナイト思ヒマシテ、此趣旨ヨリ致シマシテ小委員ニ於キマシテハ、是等ノ意見ヲバ逐次審議ヲ盡シタノデアリマス、而シテ最後ニ於テ委員相互ノ意見ヲ交換致シマシタ結果、一ノ修正案ヲバ作製シタノデアリマス、續イテ委員會ヲ開キマシテ此修正案ヲバ議シ、更ニ委員會ニ於テ新シキ修正モ認メサレタ、其修正案カ此ニ諸君ノ御手許ニ廻サレテ居ル所ノ印刷物ナノデアリマス、之ニ就キマシテハ別ニ詳シイ説明ハ致シマセヌガ、此ハ二ツバカリ特ニ御注意ヲ願、テ置キタイコトガアルノデアリマス、ソレハ何デアアルカト云フト、第一ハ上訴ノ制限ヲ撤廢シタコトデアリマス、政府原案ニ於キマシテハ訴訟價額三百圓未滿ノモノハ、貴族院ノ修正ニ於テハ二百圓未滿ノモノハ、控訴上告ヲ許サナイト云フ規定ガアリマシタガ、委員諸氏於キマシテハ之ヲ全部削除シテ、如何ナル種類ノ訴訟ニモ上訴ヲ許スト云フ現行法ノ規定ニ還テ居ルノデアリマス、其理由ハ金額ノ多少ニ依リテ權利ノ救済ニ差等ヲ設

合ニ於テハ、自由ニ期日ノ變更ヲ許スニ拘ラズ、本案ニ於テハ一切之ヲ廢シタル理由ハ如何、其他幾多ノ質問ガ發セラレマシテ、之ニ對スル政府ノ答辯ヲ御紹介致シマスルト云フト非常ニ長時間ヲ要シマスルニ依テ、是ハ速記記録ニ依リテ御覽ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、斯ノ如クニシテ委員會ニ於ケル總體的及逐條的質問ガ終リマシタ後ニ、更ニ小委員ヲ設ケタノデアリマス、委員長ヲ加ヘテ十名ノ小委員ヲ設ケテ、此委員會ニ於キマシテハ速記ヲ廢シテ懇談會ニ移タノデアリマス、此委員會ノ内容ニ付キマシテ、特ニ御報告申シテ置キタイ一事ガアリマス、ソレハ外ノ事デハゴザイマセヌ、此改正案ニ付キマシテハ在野法曹ノ間ヨリ幾多ノ修正意見ガ現ハレ、吾々ノ手許ニモ配付セラレテ居リノデアリマス、其ハ日本辯護士協會及東京辯護士會ノ名ニ依リテ、又一ツニ帝國辯護士會及東京第一辯護士會ノ名ニ依リテ、各々六十餘條ニ互ル所ノ修正意見ガ現ハレテ居リノデアリマス、而シテ是等ノ團體ハ、何レモ我國ニ於キマシテハ最も有力ナル所ノ法曹家ノ寄集リデアリマスルニ依テ、吾々ガ本案ヲ審議スルニ當リマシテ、是等ノ意見ニ重キヲ置キ、之ヲ參考ニ供スルト云フトハ、決シテ不當ノ事デハナイト思ヒマシテ、此趣旨ヨリ致シマシテ小委員ニ於キマシテハ、是等ノ意見ヲバ逐次審議ヲ盡シタノデアリマス、而シテ最後ニ於テ委員相互ノ意見ヲ交換致シマシタ結果、一ノ修正案ヲバ作製シタノデアリマス、續イテ委員會ヲ開キマシテ此修正案ヲバ議シ、更ニ委員會ニ於テ新シキ修正モ認メサレタ、其修正案カ此ニ諸君ノ御手許ニ廻サレテ居ル所ノ印刷物ナノデアリマス、之ニ就キマシテハ別ニ詳シイ説明ハ致シマセヌガ、此ハ二ツバカリ特ニ御注意ヲ願、テ置キタイコトガアルノデアリマス、ソレハ何デアアルカト云フト、第一ハ上訴ノ制限ヲ撤廢シタコトデアリマス、政府原案ニ於キマシテハ訴訟價額三百圓未滿ノモノハ、貴族院ノ修正ニ於テハ二百圓未滿ノモノハ、控訴上告ヲ許サナイト云フ規定ガアリマシタガ、委員諸氏於キマシテハ之ヲ全部削除シテ、如何ナル種類ノ訴訟ニモ上訴ヲ許スト云フ現行法ノ規定ニ還テ居ルノデアリマス、其理由ハ金額ノ多少ニ依リテ權利ノ救済ニ差等ヲ設

クルト云フコトハ宜シクナインナラズ、斯ノ如キ規定ヲ設ケマスニ付、概シテ下階級ノ人ハ權利ノ救済ニ付十分ニ國家ノ保護ヲ受ケルコトヲ出來ナイト云フコトナラ、今日ノ時代思想ニ逆行スルモノデアルト云フ意味モ含マレテ居タヤウニ本員ハ理解シテ居ルノデアリマス、若シ私ノ考ニ謀クザイマシタナラバ、委員諸氏ヨリ御遠慮ナク御訂正ヲ願ヒタイノデアリマス、次ハ現行法ニ於キマシテハ合意ノ延期ヲ無條件ニテ許シテ居ルノデアリマス、ソレヲ改正案ニ依リマスニ付、一切禁止シテ居リマス、今日ノ如ク訴訟當事者ガ合意スレバ無制限ニ何回、何十回モ期日ヲ延期スルト云フコトモ惡イガ、サリトテ一切之ヲ許サナイト云フコトニナルト云フ、當事者ノ不便モ察セナナラズニ依テ、委員會ハ此間ヲ適當ニ調和ヲ致シマシテ、準備手續及辯論期日ニ付テ、最初ニ決定メタル所ノ期日ダケハ當事者ノ合意ヲ以テ變更ヲ許ス、其次ノ期日ハ裁判所ノ自由ニ決定スルト云フコトニ改メタルデアリマス、其外詳細ノコトハ此印刷物ニ就テ御覽ヲ願フコトニ致シマス、ソレガラシテ委員會ヲ閉ヅルニ當リマシテ、清瀬君ヨリ政府ニ向テ斯ウ云フ質問ガ發セラレタノデアリマス、本案ハ私法上ノ權利義務ニ關スル極メテ重要ナルモノデアリガ、何分ニモ審判期間十分ナラザルガ爲ニ、精細ノ考究調査ヲ爲スコトガ出來ナイノハ甚ダ遺憾デアリ、仍テ政府ハ將來本法ノ實施前後ヲ問ハズ、或點ニ付テ改正ノ必要ヲ認メタル場合ニ於テハ、直ニ是ガ改正ヲ惜マザルヤ否ヤ、之ニ對スル答辯ヲ聞イタ上ニ於テ、修正案ニ贊否ヲ決シタイト云フコトデアリマシタ、此質問ニ對シテ江木司法大臣ハ、御質問ノ如ク將來本法中ニ於テ若シ不都合ノ點ヲ發見シタル時ハ、實施ノ前後ヲ問ハズ是ガ改正ニ容ナルモノデアイト云フ答辯ヲセラレタノデアリマス、次ニ黒住成章君ヨリ次ノ如キ希望條件ヲ提出セラレタノデアリマス、「委員會ハ本案ヲ審議決定スルニ當リ改正案ノ精神趣旨ニ鑑ミ左ノ希望條件ヲ附シテ本案ニ賛成ス、第一、裁判官及裁判所書記優遇ノ方法ヲ講シ人材簡便ノ途ヲ開キ訴訟遲滯ノ弊ヲ一掃スルコト、第二、次期議會ニ於テ辯護士法改正案ヲ必ズ提出スルコト、第三、次期議會ニ強制執行法及競

賣法ノ改正案ヲ提出スルコト、第四、執行期間ヲ改善シ其監督ヲ嚴シシテ裁判ノ進行ニ遺憾ナカラシムルコト」右申シマシタ修正案及希望條件ハ、滿場一致ヲ以テ之ヲ可決致シタルデアリマス、是ガ民事訴訟法中改正法律案ノ經過並ニ結果ノ大要デアリマス、最後ニ於テ之ニ關聯シテ一言、述ベテ置キタイコトハ、政府ノ原案ニ對シテ貴族院ニ於キマシテモ二十幾箇條ノ修正ガ加ヘラレテ居ルノデアリマス、貴族院ノ修正ニ對シマシテハ、委員會ハ全部適當ノモノト認メテ之ニ贊成ヲシテ居リマス、唯、其中ニ於テ一箇條ダケ提前申シマシタ上訴ノ制限ヲ撤廢スルコトニ付テハ貴族院ノ意見ヲ異ニシタルハ甚ダ遺憾デゴザイマスガ、吾々ガ斯ノ如キ修正ヲ加ヘザルベカラザル必要ヲ感ジマシタ理由ハ、先程申シタル通りデアリマスカラ、貴族院ノ諸公ニ於ケラレマシテ十分吾々ノ意ノ在所ヲ諒察セラレハ、衆議院ノ修正ニ御同意アルコトヲ私ハ確信シテ疑ハナイノデアリマス、次ハ民事訴訟法改正法律案施行法案、是ハ民事訴訟法ヲ實施スルニ當リマシテ、其經過ヲ圓滿ニスルガ爲ニ必要ナル規定ヲ設ケテ居ルノデアリマシテ、別ニ異論ヲ申シマスルヤウナ體モナイノデアリマス、唯、先程申シマシタ上訴制限ヲ廢シマシタ結果ニ付、此法案ノ第十一條全部ヲ削除スルニ止マルノデアリマス、以上ガ兩案ノ委員會ニ於ケル經過並ニ結果ノ大要デアリマス、左様ニ御承知ヲ願フデ置キマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 兩案ニ對シテ別ニ發言ノ通告モアリマセヌカラ採決致シマス——兩案ノ第二議會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 御異議ハナイト認メマス、仍テ第二議會ヲ開クニ決シマシタ

○井本常作君 直ニ兩案ノ第二議會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

〔贊成〕(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ兩案ノ第二議會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

民事訴訟法中改正法律案 第二議會

民事訴訟法中改正法律案施行法案 第二議會

〔異議ナシ〕(發起ル)

○議長(粕谷義三君) 別ニ御發議モナイヤウデアリマスカラ採決致シマス——是ニテ第二議會ハ委員長報告通り終了致シマシタルヲ井本常作君 直ニ兩案ノ第二議會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ第三議會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

民事訴訟法中改正法律案 第三議會

民事訴訟法中改正法律案施行法案 第三議會

〔異議ナシ〕(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案共第三議會決議決ノ通り可決確定致シマシタルヲ(拍手起ル)——次ハ日程第二十三、暴力行為等處罰ニ關スル法律案ノ第一議會ヲ開キマス——委員長森田茂君

第二十三、暴力行為等處罰ニ關スル法律案(政府提出)

第一議會(委員長報告)

報告書

一暴力行為等處罰ニ關スル法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通過修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十五年三月二十二日

暴力行為等處罰ニ關スル法律案委員長 森田 茂

〔別紙〕

暴力行為等處罰ニ關スル法律案中左ノ通過修正ス

第一條中「假令シテ威カヲ示シ」ノ下、「ヲ制」又ハ「ヲ加ヘ」(兇器ヲ用シ)ノ下、「又ハ」ヲ「若ハ」ニ改ム

〔森田茂君登壇〕

○森田茂君 暴力行為等處罰ニ關スル法律案ノ委員會ハ三月十九日、同月二十二日ノ兩日ニ涉リマシテ慎重審議セラレマシタ、本案ハ團體的背景ニ依リ兇器ヲ携帯シ又ハ常習トシテ暴行脅迫、又ハ強談威迫ヲ行フ者及之ヲ援助スル者ヲ處罰スル規定デアリノデアリマス、法律ハ僅ニ三箇條ヨリ成立シテ居リマシテ、極メテ簡單デアリマス、所ガ此法律案ニ付キマシテ、茲ニ一言辯明致シテ

置カナケレバナラヌコトハ、此法案ナルモノガ勞働運動若クハ小作運動、或ハ水平運動ヲ阻止スル目的ハナイイコト、斯ウ云フ疑問デアリノデアリマス、即チ此點ニ關シマシテハ憲政會ノ山崎重雄、新正俱樂部ノ山口政二、政友會ノ有馬頼寧、政友本黨ノ原夫次郎氏等ヨリ種々質問ヲ發セラレタノデアリマス、所ガ此點ニ關シマシテ政府當局ノ答辯スル所ニ依リマス、本案ハ決シテ勞働運動若クハ小作運動、或ハ水平運動等ヲ目標トシテ、之ヲ阻止スル意味ヲ以テ立案セラレタモノデアリナイト同時ニ、如何ナル者モ雖モ此法案ノ意味ニ抵觸シマスル所ノ多ク團體ヲ背景トスル、或ハ兇器ヲ携帯シ、若クハ常習トシテ暴行脅迫ヲ爲ス者、及之ヲ援助スル者ハ處罰スルコトヲ決シテ假借スルモノデアリ、斯ウ云フ答辯ガアツタノデアリマス、又有馬君ヨリハ水平運動ニ關シ若クハ水平社ニ對シテ侮辱的言辭ヲ弄シタル者ハ考慮シテ居ルヤ否ヤ、或ハ差別的言辭ヲ弄シタル者ヲドウスル、若クハ此差別的言辭ニ依リテ爭ヲ生ジタル場合ニ於テ、之ヲ調停スル法案ヲ掲ヘルカ否ヤト云フコトニ付テノ御質問モアツタノデアリマス、併シ是等ノ速記ニ付キマシタハ、其詳シイコトハ矢張速記録ニ依テ御覽ヲ願フコトニ致シタイト思フノデアリマス、斯ノ如キ問題ニ付テ質問應答ヲ重ネタノデアリマスガ、其結果大體ニ於キマシテ政府ノ案ニ何人モ異存ガナクアツタノデアリマス、本條ノ原夫次郎君ヨリ第一條ニ僅カカリノ修正ヲ試ラレマシタ、即チ第一條ノ前略「團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威カヲ示シ」ト云フ下ニ「又ハ」ト云フ文字ヲ挿入スルコト、其次ニ「兇器ヲ用シ」ト云フ下ニ「又ハ」ト云フ文字ガアリマスガ、之ヲ「若ハ」ト斯様ニ變ヘタイ、サウシテ此法案ノ意味ヲ明白ニ致シクイト云フ修正意見ガ提出セラレマシタガ、之ニ對シテハ政府ニ於キマシテモ別ニ異議モアリマセヌ、又吾々委員會ノ間ニ於キマシテモ、何等異議ナシアリマス、此案ハ多數ヲ以テ可決セラレタノデアリマス、政友會ノ委員諸氏ハ本案ニ對シマシテ、別ニ贊否ノ意見ヲ發表セズ、本會議ニ於テ何等カノ意見ヲ發表スルト云フコトデ、其意見ヲ留保セラレテ居ルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマシ

〔山口義一君登壇〕

ノ際ニ八權蹂躪ノ無イヤウニシナケレバナ
ラストニテフ意味ニ於テ、此附帶決議ヲ付ケ
テ本案ニ賛成スル次第デアリマス(拍手)
○議長(粕谷義三君) 原夫次郎君
(原夫次郎君登壇)
○原夫次郎君 只今議題トナッテ居ル暴力
行爲等處罰ニ關スル法律案ハ、現今世相ノ
副產物デアリマシテ、私共斯ル法律ガ茲ニ
上程セラル、コトヲ甚ダ遺憾トスル者デア
リマス、世人口ヲ開ケバ近時我國ノ思想界
ノ危險若クハ混亂ヲ高唱致シ、議論スル人
ガアルノ議論アリマスケレドモ、或ハ時ニ依
テ斯カルノ議論アリマスル人自體ニ於テ、大ニ危
險性ヲ帶ビテ居ル人モ有ルシ、又世ノ中ヲ
騒ガス人モアルシ、誠ニドウモ困タ世ノ
中デアアルノデアリマス(拍手)一體本案ハ政
府ノ提案ニ係ル法律案デアッテ、私共ハ實
ハ此法律ハ少シ生溫ルイト思フノデアリマ
スガ、先ヅ第一番ニ暴力行爲等ヲ目的トス
ル所ノ團體ガ茲ニ生レマシタナラ、斯カル
團體ヲ先ヅ其團體的ノ行動ヲ取ラナイ以前
ニ於テ、其成立シタル團體其モノノ撲滅策
ヲ大ニ攻究シナケレバナラナイ、是ハ大ナ
ル社會政策ノ一ツデアリマスケレドモ、併
ナガテ是非非常ナル「リキエト」ナ問題デ
アラフ、吾人ニ結社集會ノ自由ガ憲法上正
許サレテ居ル限リハ、無暗ニ當局ガ甲ナル
團體ハ暴力團體デアアル、乙ナル團體ハ然ラ
ズト云フテ之ヲ差別スルコトガ出來ナイノ
デアリマスカラシテ、之ヲ制禦スルト云フ
コトノ法律ハ中々困難デアアルケレドモ、併
シナガラ斯ル非法ヲ目的トスル所ノ團體
ヲ、其發生前ニ於テ撲滅ヲスルヤウ一體
法律ヲ作ルベキデアラウト思フノデアリマ
スガ、然ルニ事此ニ出デズシテ、本法ハ斯
ノ如キ惡イ團體ガ、其團體ノ威力ヲ藉リ、
或ハ斯カル團體ヲ假裝致シテ、其威力ヲ藉
リテ暴力行爲ニ及ブ場合ニ於テ、其暴力行
爲、即チ社會ニ害毒ヲ流シタ所ノ者ヲ處罰
シナケレバナラスト云フ本法ノ立テ方デア
リマスガ、甚ダ不十分デアリマスケレド
モ、私共ハ今日我國ノ世相ニ鑑ミテ、洵ニ
是ハ緊急必要ナルモノデアアルト考ヘテ居ル
ノデアリマス、斯ノ如キ暴力行爲ハ、今日
我國ノ思想界ガ產物ノ所ノモノデアリマシ
テ、何カト云フト或ル威力ヲ藉リ、時ト場
所トヲ考ヘナイデ暴威ヲ逞シウスル團體若
クハ個人ガ多イノデアリマス、洵ニ怪シカ
ラナイ物騒ナ世ノ中ニ相成ッテ居ルノデア

決ノ結果山内君ノ反對論ハ少數否決トナ

何ナル利子デアッタカ、實ニ世界ノ笑ヒモノ
デアル。而モ侮辱のナ菊ノ御紋ヲ這入ツテ證
支ヲ書イテ、百圓ノ證文額ニ對シテ八十圓、
八十五圓ト云フヤウナ、貧乏人モ眞似ノ
出來ナイヤウナ金ヲ借りテ、一時ヲ彌縫シ
ナケレバナラヌ、而モドウドアリマスカ、
財政上ニ於キマシテモ全ク中央集權デアッ
テ、緊縮々々ト云フコトデ、地方ノ生産的
ノ費用、即チ港灣ノ如キ若クハ道路或ハ鐵
道ノ如キモ、全ク地方打ツヤウナ狀態マル
東京ノ震災ハ實ニ同情スベキデアルガ、
東京ノ被災火災ハ實ニ同情スベキデアルガ、
國ノ財政ハ困難デ僅カ五十億万ノ負債ノ爲
ニ利子スラ拂フコトガ出來ナイデ、政府ハ
心配シナケレバナラヌ狀態デアリナガラ、
餘リ國力不相當ナル華美ナル不生産的ナコ
トニ金ヲ掛ケテ、而モ國民ニ奢侈の精神ヲ
助長サシテ、生産的、活動的ノ精神ヲ銷磨
スル如キ政策ト云フモノハ甚ダ遺憾デア
ルハ、私ハ決シテドウノ政府ニモ反對モシナケ
レバ、贊成モシナイ、善政ヲ行ヒ國民幸福
ヲ増進スル所ノ政府ニ私ハ贊成スルノデア
リマス、政府ハ全知全能ノモノデナイカラ
吾々ノ下手ヲ演説ヲ聽イテ大ニ參考トシ
之、善政ノ上ニ資スルコトガ大切デアル、
之ヲ全免シテモ僅ニ六千万圓内外デアル、
東京ノ二億六千万ノ金カラ五六千万引ケバ
宜イノデアル、東京ニ金ヲ置ケ爲ニ刑務所
ガ繁昌シタリ、高位高官ノ人が自殺シタリ
豫審判事ガ忙シクテ困ルト云フ狀態デア
ル、國家ノ金ヲ使フ權衡ト云フモノヲ全ク
失シテシマッテ居ル、此東京ヲ國力以上ニ立
派ニシテ何ニシテルデアラウカ、金ヲ借り
テ家ヲ立派ニシテルドウスルノデアラウカ、
是ガ國力増進ノ本ニナルカドウカ、諸君ハ
能ク御考ニナルト宜イ、農村ノ代議士ガ何
デモカンデモ黨議ニ服從シテシマッテ、サウ
シテ心ニモナイ賛成ヲシテ、國家ノ政策ヲ
誤ラスト云フコトハ是デアルカ非デアル
カ、如何デアアリマセウカ

○此時發言スル者多シ

○議長(粕谷義三君) 多木君法案ニ關係ノ
アルコトヲ御述ベ下サイ

○多木久米次郎君(續) スウ云フ狀態デア
テ全ク農村ト云フモノニハ負擔ノミ掛ケ
テ、豫算ノヤリ方ト云フモノヲ全ク誤
居ル、今日食糧ガ五百万石、千万石足ラヌ
デモ、内地ハ勿論朝鮮モアレバ臺灣モアルハ

經營宜シキヲ得マズレバ十年、二十年ノ自治自足ヲスルコトハ出來ルノデアリマスカラ、第一番ニ私ハ此懸念ヲ天變地變ノ謂テ行カナケレバチラス、如何ナル機械力デモ、如何ナル發明工夫ニ致シテモ、天變ニ勝ツコトハ出來ヌモノデアリマス。亞米利加ノ如キ殆ド無税同様デアリ、英國亦然リ、何ヲ苦シンデ惡税ヲ徵收スルノデアラカ、以テ都會ノ濫費ニ備ヘントスルモノデアラウカ、政府ハ田畑租ヲ廢スル意思アリヤ否ヤ伺ヒタイ

〔政府委員黒田英雄君登壇〕

○政府委員(黒田英雄君) 御尋ノ第一點ハ今回貨貸價格ヲ調査致シマスノハ減税ノ目的デアリカ、如何ト云フコトデアラカノデアリマス、本案ニ依リマシテ土地貨貸價格ヲ調査致シマスノハ、即チ今日土地ニ對シマス課税標準ハ、土地臺帳ニ掲ゲマシテアル所ノ地價デアリノデアリマス。是ガ今日負擔ノ公正ヲ得マスルニ於キマシテ適當デナイト考ヘルノデアリマス。其課税標準ヲ公正ナラシメル目的ヲ以テ、土地ノ貨貸價格ヲ調査致スノデアリマシテ、其貨貸價格ニ依リマシテ、今回税制整理ニ依リマシテ、取リマスル所ノ地租ノ總額ヲ動サナイ範圍ニ於テ、適當ナル税率ヲ盛ル考デアルノデアリマス、本案ノ目的ハ其課税標準ヲ調査スルノデアリマス、地租ノ減ズルコト、若クハ之ヲ増收スルコトカ云フ目的ハ持タナイノデアリマス、ソレカラ第一二點ハ、田畑ニ付テハ地租ヲ全免スル意思ガナイカドウカト云フコトデアラカノデアリマス、之ニ就テハ長ク御意見ヲ御述ニナシタノデアリマスガ、所得税ノ補充税トシテ地租ヲ課シマスル上ニ於テ、田畑ニモ課税ヲ致スコト云フコトハ適當デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、併ナガラ今回法案ニ依リマシテ、貨貸價格ノ實際ヲ調査致シタ上ニ於テ、土地ノ各地目ノ間ニ其負擔ノ公平ヲ得セシメマスル爲ニハ、果シテ其税率ヲ宅地或ハ田畑其他ノ地目ニ於テ之ヲ同一ニ致スコトハ適當デアリカ、或ハ宅地田畑等ノ間ニ適當ニ其税率ニ差等ヲ設ケルコトガ其負擔ノ公正ヲ得マスル上ニ於テ適當ナリヤ否ヤト云フコトハ、貨貸價格ヲ調査致シマシテ、適當ナル案ヲ具シマシテ、地租條例改正ノ際ニ於キマシテ御協賛ヲ仰グ積リ

デアリノデアリマス、今日ニ於テハマダ稅率ヲ一律ニスルカ、或ハ其間ニ區別ヲ設ケルカト云フコトハ決メテ居ラナイノデアリマス、併ナガラ田畑ニ付キマシテ、總テ如何ナル田畑多ク有シテ居ル者ニ對シテ、總テ田畑二付テ地租ヲ免ズルコト云フ考ハ持テ居リマセヌ次第デアリマス

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ討論ニ入りマス

〔八田宗吉君登壇〕

○八田宗吉君 本案ハ政府ガ本議會ニ於テ最モ力説主張シタル稅制案ニ伴フ所ノ提案デアリマシテ、其趣意タルハ負擔ノ公平ヲ期スルコト云フ點ヨリ致シマシテ、全國ノ土地ニ對シテ貨貸價格ヲ以テ之ヲ二箇年ニ互テ一年五百萬圓ノ、即チ大正十五年度ニ於テ五百萬圓、十六年度ニ於テ五百萬圓、合計一千万圓ヲ費シテ全國ノ土地ノ貨貸價格ニ依リテ賦課スベキ税率ヲ定メントスル所ノ大ナル企圖デアリマス、吾々ハ此點ニ對シマシテ、委員會ニ於テ種々調査ヲ致シマシタガ、遺憾ナガラ其政府ノ提案ニ對シテハ、吾々ハ賛成スルコトガ出來ナイノデアリマス、(ヒヤ) (拍手) 其理由ニ付キマシテ簡單ニ私ハ申述ベタイト思ヒマス、吾々多年農民ノ負擔ガ甚ダ過重デアリテ、此負擔ノ過重ヲ公平ナラシムルニ非ザレバ、農民ノ苦シンデ居ル狀態ヲ救フコトハ能ハズトシテ、幾回カ農家負擔減輕ト云フコトニ對スル建議案ヲ議會ニ提案致シマシタ、毎回議會ノ答ハ所トナリ、政府亦之ヲ容認シ、各黨各派ハ皆何レモ農村振興ト云フ題目ノ下ニ、其政策ヲ實行スベク何レモ誓ヒツ、アル狀態デアリノデアリマス、其振興タルヤ否ヤ吾々ガ多年唱ヘテ居タ農民ノ負擔ガ重イ、之ヲ公平ニシナケレバナラヌト云フコトガ即チ振興デアリ、斯様ナ點カラ出發シタル上ニ於テ、今日殊ニ此政府ハデス、現政府ハ農民ニ對スル負擔ガ重イ、地租二分減ヲ野ニ在テ主張シテ居タケレドモ、政府ニ立ッテ見レバ二分減ハ出來ナイデ一分減ヲヤラウトシテ、今回稅制整理案ニ於テ提案シタルデアリマス、即チ農民ノ過重ヲ減輕スベク試ミラレタル所ノ一政策デアリニ相違ナイ、即チ地價二百圓以上ノ地主ニ對シテハ、一分減ヲ爲スト云フコトヲ政策ノ一ニ掲ゲテ、稅制整理案ヲ提案シタルデアリマス、然ルニ妥協政治茲

ニ現レ、此一分減モ終ニ撤回サル、ニ至リマシテ、一分減ノ財源ヲ以テ教育費國庫負擔金ノ増額ニ充テルト云フコトニナシテ參々、其趣意タルハ決シテ惡イトハ致シマセヌガ、吾々多年唱ヘテ居タ農民ノ負擔過重ナリト云フ點カラ考ヘマス、吾々ハ甚ダ政府ノ取扱ガ不公平デアルト云フコトヲ斷言セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手) 何ヲ以テ爾カ云フカ、政府ノ地租一分減案ヲ農民カラ減ラサント試ミタノデアアル、一見合セマシタガ爲ニ、最初カラ二千一百萬圓ヲ減ラサントシタノデアリマス、地價二百圓以下ノ自作農等ヲ免除スベク金額ヲ合セテ二千一百萬圓ヲ農民ノ負擔カラ減輕スル、然ルニ上ハ漸ク商工業者ニ對シテ稍、對等トナッテ來ルト云フコトヲ政府ハ認メタノデアリマス、何ヲ以テ爾カ云フカ、大正十二年度ノ營業稅ニ於テハ一千九百萬圓ヲ此營業稅ニ於テ減ラシテ居ル、而シテ今回改正案ニ於テハ四百萬圓ヲ減ラシタノデアリマス、二千三百萬圓ヲ商工業者ハ負擔ヲ減輕サレタ譯デアリ、地租一分減ヲ試ミレバ初メテ二千一百萬圓ニナルカラ、ソレデ、斯様ニ二千三百萬圓ニ對スル二千一百萬圓、稍減ニ政府ヲ試ミラレタルモ、妥協政治ニ行ハレテ、農民者ノ負擔ト云フモノハ僅ニ一千萬圓シカ減ラサレナイカラ、茲ニ益々商工業者ト農民者ト間ノ負擔ガ不公平極マリナイト云フコトニナッテ、妥協政治ノ致ス所、農民ハ過重ナル負擔ヲ帶ビルヤウニ至、タ所以デアリ(拍手) 故ニ農民ノ方ノ負擔ヲ重クシテ、一般商工業者ノ負擔ヲ輕減セシムル結果ヲ來シタコトハ、能ク攻究シ來レバ、是レ即チ農民ノ負擔過重ナル狀態ニナッテ來ルコトヲ吾々ハ憐マザルヲ得ナイノデアリマス(拍手) 政府ハ斯様ナ點ニ付テ非常ニ苦心ノ存スル所ガアツタコトヲ間クノデアリマス、其主張ヲ拋棄シタルデアアル、而モ吾々東北出身ノ者ハ、顧ミテ此地價修正問題ニ付テハ感慨無量ナモノガアルデアリマス、國會開設以來吾々東北方面カラ出身シタル所ノ代議士ハ、政府ニ向ッテ二十三年以來地價ノ修正ヲ幾度カ要望シタカ知レナイ、吾々東北ノ者ハ實ニ此地價ノ上ニ於テ非常ニ不公平ナル藩閥政治ノ下ニ、過去五十年間大ナル負擔

ヲ爲シメラレツ、アツタノデアリマス(拍手) 我ガ福島縣下ノ例ヲ申シマシテモ、福島縣ハ田地ガ二十八萬圓デアリマス、畑ガ十萬圓デアリマス、是ガ平均額、然ルニ鹿兒島縣ハ一私ハ今ニナッテ斯ウ云フコトヲ申スノハ甚ダ殘念ニ感ジマスケレドモ、是ハ矢張社會ノ爲ニ明ニシナケレバナラヌカラ申上ゲマスガ、福島縣ハ二毛作ノ出來ナイ田地デアアル、秋ニナレバ早クモ雪來リ、氣候寒冷ニシテ凶作來リ唱ヘザルベカラザル所ノ憐レナル田地デアアル、然ルニ此田地ガ二十八萬圓ノ時ニ當テ鹿兒島縣ノ二毛作ノ出來ル田地ガ二十四萬圓ト二錢デアアル、サウシテ山口縣ガ二十五萬圓、畑ニ至テハドウデアアルカト申シマス云フコト、福島縣ハ先程申シタ通り十萬十七錢デアアル、然ルニ鹿兒島縣ノ如キハ四圓二十二錢、福島縣ノ三分ノ一シカ納メナイ、山口縣ガ三圓三十八錢、高知縣ガ二圓五十六錢、殆ド此三分ノ一シカ幸福ナル土地ニ居テ税金ヲ納メルコトガ少シト云フヤウナ狀況ニナッテ居ル、薩長藩閥、即チ薩長土肥デス、私ハ露骨ニ申ス、斯様ナコトニナッテ居リマシタカラ東北民ハ非常ニ不平ヲ感ジテ、議會ニ此地價修正ハ一日モ早ク爲サナケレバナラヌ、東北ノ振ハザルコト久シイノハ、此過重ナル負擔ニ東北ノ人民ガ苦シンデ居、タカラデアアルカラ、此負擔ヲ減輕スル爲ニ地價ノ修正ヲセヨト云フコトヲ、此壇ニ幾度吾々ノ先輩ガ叫ンダカ知レナイノデアアル、然ルニ何時モ時ノ政府ハ是非常ニ金ガ掛カルト云フコトヲ辭柄トシ、全國ニ互テ之ヲヤレバ幾年掛カルカモ知レナイ、サウシテ金ハ掛カル、幾年掛カルカモ知レナイカラ諸君諸君ハ幾年掛カルカモ知レナイデアリマスガ、東北民ノ實ニ忍ブコト能ハザル所デアラカノデアリ、過去ノコトヲ考ヘルト實ニ悲哀ニ堪ヘナイ(拍手) 諸君、斯様ナコトヲ考ヘル時、政府ガ英斷ヲ以テ不公平均一ナラシムル爲ニ、全國ヲ統一シタル課税標準ノ下ニ、貨貸價格制ニ依リ地價修正ヲセラレコトハ、公平ナル政治ヲ實施セントスルノデ、現内閣ノ政策ヲシテハ吾々東北ニ謳歌セントスル者デアリマスケレドモ、奈何セン過去ニ於テ政府ガ議會ニ於テ聲明シタル事ハ、實際ニ當テハ机上ノ言論ハ免モ角、政府ノ言フ所ハ机上ノ空論ト思フ、實地ニ臨ンデ之ヲヤウラトス

レバ、日ニ々々變ル地價ノ價額ト云フモノハ、交通機關ノ完備、文化ノ發達ニ伴レテ非常ニ變ハルモノナル、單リ賃賃價格ニ依テ制定セントシテモ、而モ十年ノ後マデ據置テト云フナラバ、負擔ノ不公平ナルコトヲ覺テ、人民ハ課税ノ不公平ヲ叫ビ來ルコト云フコトニナリ、由來日本國國民ハ土地ニ對シテハ殊ニ愛着心ヲ強クシテ、土地ニ對シテ税金ヲ納ムルコトヲ忠義ノ一ツト考ヘ、良民ト考ヘテ居タリ我ガ日本國民ハ、斯様ナコトニ付テ不平ヲ訴フルト云フコトハ、從來ハ少カッタレドモ、段々後日其眞相ガ明ニナリテ來ル、此權利義務ノ思想ガ濃厚ニナリツ、アル今日、況ヤ社會思想ガ惡化セントシツ、アル今日、況ヤ小作爭議ガ各所ニ頻發シツ、アル現在ノ狀態——殊ニ色々ナ宣傳ニ依テ勞働者ガ相呼號呼應シテ、此不公平ヲ叫ビ來ルコト云フコトハ、時機ニ當テ、到底十年ノ據置ト云フコトハ机上ノ空論ナル、ソレレコト云フコトハ、二年デ一千圓ヲ使テモ、結局ハ伊太利ト同ジ結果ニ陥ルコトヲ憂フル者デアリマス、私ハ伊太利ノ例ヲ、縣議會ガ調査シタル例ヲ申シマス、伊太利ハ嘗テ日本ト丁度今回ノ同ジヤウナ事ヲシタコトガアツタ、此一説ヲ讀ミテ御清聴ヲ願ヒタコト思ヒマス、伊太利ハ國王ノ統一當時統一的地租法ヲ制定スルコト困難ナリシヲ以テ、從來各州ニ於テ徵收セル地租ノ合計額ヲ各州ノ徵收額ニ應ジテ配賦スルガ如キ不徹底ナル方法ヲ採用セリ、此稅法ハ千八百九十六年ノ法律ニ依リテ廢止サレ、之レニ代ルニ全國ヲ通ジテ土地臺帳ヲ定メ一定ノ稅率ニヨリテ課税スルノ制度ヲ以テセリ、然レドモ新法實施ニ要スル臺帳調製事業ハ遲々トシテ進マズ、遂ニ千九百十九年所得稅法大改正ニヨリ地租ハ所得稅中ニ包含セラル、ニ至レリ、地租ハ取ラナクナリ、セウ云フ風ニナリシマタハ伊太利ノ例デアリマス、賃賃價格ノ如キ實ニ宅地價修正ニ付テ試ミタ所ノ——又全國ノ市街地、其他田畑山林ヲモ一律ニ定率法ニ依テ定メルト云フヤウナ金ハ言フベクシテ行ハレザル伊太利ノ如キ例トナシ、又連ニハ之ヲ地方々々ニ依テ取ラシムルヤウナ方法ヲナシタルヨリ仕方ガナイト私ハ考ヘルノデアリマス、先ツ私ハ伊太利ノ例ヲ舉ゲマシタガ、全體ノ今回ノ政府提案ニ付テ不備ナ點ヲ申述ベテ、サウシテ吾々

ハドウシテモ斯様ナ案ニ賛成ガ出來ナイト云フ理由ノ一端ニ供シタイト思フ、即チ今回ノ法律案中ニ標準價格ト云フコトヲ言ウテ居リマス、或ル地目ニ對シテ標準價格ヲ定メテ、ソレニ依テ其地目ヲ一律ニ律スルコト云フヤウナ方法デアルト云フコトハ、此法律ノ第三條ニ規定シテ居リマス、其標準土地ト云フコトハ、中ニ實地ニ臨ンデ明確ニ決メ得ナイノデアル、明確ニ之ヲ標準價格ノ土地デアルト選ボトハ中ニ困難ナル、殊ニ山林デアルトカ、原野デアルトカ云フモノニナリマス、殊ニ此標準價格ノ土地ヲ定メルト云フコトハ困難ナル、實地ニハ農村ニ生活シテ居ル者ノ直グニ肯テ所ノコトデアリマス(拍手)

〔柏谷議長議長席ヲ退キ小泉副議長代リ着席〕
此山ハ澤山ノ木ガ生ヘル、此處ニハ生ヘナイト云フ色々ナコトヲ見定メルニハ、殊ニ原野ノ方ガムジカナイ、ソレヲ定メルト云フコトハ到底出來カナイ、斯様ナ地目ニ對シテカカテ入レ、政府今回ノ法律ハ宅地價ト云フモノノ修正ヲ試ミタ時ニ當テ、宅地價ノ如キハチヤント地目ガ決テ居ル、ソレニ依テ定メタルト、山林ノ如キ漠タル土地ニ對スル賃賃標準——土地ノ價格ノ標準ヲ決メルト云フヤウナコトヲ致スコトハ、到底困難ナ事デアリマス、ソレカラ私ハ確信シテ疑ハズデアリマス、ソレカラ今回ノ賃賃價格ノ定メ方ニ付キマシテ先程來申シマシタヤウニ、地租ト營業稅ト云フモノハ、補充稅デアアル、所得稅中ニ包含シテ、此兩稅ヲ以テ政府ハ補充稅ト爲サント致サレツ、アル、ハ、即チ政府ノ政策ノ一例デアアル、然レニ今回ノ賃賃價格ヲ定メルニ當テ、經費ヲ差引カナイ、地租ニ對シテハ經費ヲ差引カナイデ賃賃價格ヲ定メルノデアリマス、營業稅即チ營業收益稅ハ、經費ヲ差引イテサウシテ定メルノデアリマス、一方ノ地租ニ對シテハ、經費ヲ差引カズ、營業收益稅即チ商業業者ノ納メル稅ニ對シテハ、經費ヲ差引クコト云フヤウナコトニナリマス、コレトハ、甚ダ不公平極ム課税ノ方法デアルト考ヘ(拍手)斯様ナコトモ一度地方民ガ知リタルナラバ、誰ガ今回ノ賃賃價格ニ満足シテ税金ヲ拂ハウトスル者デアリマス、私ハ實ニ不安心至極ニ感ズル者デアリマス、ソレカラ又段別ノ整理

ヲ臺帳面ニ於テ整理シナクナラバ、是ハ到底行ハレナイ、又地目ノ變換ヲ明ニセラレナクナラバ、是ハ到底賃賃價格ヲ定メルコトハ出來ナイト思フ、現ニ東京ニ來テ私共ノ爲キマスコトハ、東京市中ニ山ノアルコトデアリ、田ノアルコトデアリ、東京ノ市中ニハ山モ田モナイニ拘ラズ、臺帳面ニ當テ見ルト山ガ澤山アリ田ガアル、或ル富豪ノ庭園ハ山トナリテ居リ、或ル富豪ノ土地ハ宅地デアリニ拘ラズ田トナリテ居ル、泉水ガ池沼ニナリテ居ル、斯様ナ地所ガ澤山アル、斯様ナ地目ヲ先ツ改メナクテバナラズ、段別モサウデアリマス、山ノ如キニナラズ、實測致シテ見マスト往々ニシテ五十町歩、百町歩ト云フ所ガアルト云フコトハ事實デアリマス、斯様ナ地目ヲ變更スルコトガ必要デアアル、地目變換ニ對シテソレモ爲サズコトハ、其費用モ計上シテ置カナイト云フコトハ、又臺帳面積ヲ直スベキ段別ノ更生ヲ爲サナイデ、單ニ賃賃價格ヲ以テ田畑、宅地、皆一律ニ律セント云フコトハ私ハ不可能ノ事ト信ジテ、政府ノ爲ニ惜ムノデアリマス(拍手)ソレカラ政府ガ言フガ如ク十年ノ據置コト云フコトハ、全權利ハ別ノ課税ノ標準ト上ニ於テ、人民ノ權利ヲ沒却シタル所ノ亂暴ナル政治ノ致方ト申サナクシタル所、營業稅ノ如キハ年營業稅調査委員ヲ定メテ、サウシテ之ヲ爲サシテ營業稅、所得稅ヲ得テ居ル、地租ノ賃賃價格ニ依テ十年間モ據置イテ、之ヲ向ホ動かサス試ミルモノ、如キハ、一方ニ片手落ナル不公平ナル政治ヲ、敢テ農民ニ擬セントスル所ノ政府ノ致方デアルト私ハ考ヘル者デアリマス(拍手)斯様ニ考ヘ來リマス、今回ノ賃賃價格ノ定メ方、到底出來得ザルコトハ、非常ニ簡易ナル所ノ宅地價修正當時ノ明治四十四年ニ試ミタルコトヲ以テ、直ニ之ヲ今回當嵌メントスル次第デ、暴政モ亦甚シイ、私ハ斯様ナ事ハ速ニ御撤消ニナシテ、サウシテ斯様ナ事ハ改メラレニコト希望スル者デアリマス、吾々ハ窮極スルニ、各國ノ稅制ヲ調ベテ見シテモ、土地ニ對シテ税金ト云フモノハ多クハ國ガ取ラナイ、是ハ私此ニ在ル所ノ租稅ノ知識ト云フ書物、即チ法學士ノ藤澤弘氏ガ著シタルヲ見マシテモ能ク分リマス、各國ハ税金ヲ取ラナイヤウニ——地租

ニ對スル税金ハ色々變テ參ル、何處デモ地租ヲ取ラヌ、或ハ地租ヲ納メナクテ人民ガ愛國心ヲ失ウテ來ルヤウニナルト云フヤウナ解釋ヲ致シテ居ル所ノモノハ、私ハ實ニ怪シカラヌ事デアルト思フ、斯ウ云フヤウナ人民ヲ愚ニシテ、斯様ナ制度ヲ布クシトスルナラバ、サウ云フ人ヲ私ハ憎ンデ且ツ政界カラ驅逐シナクテバナラズト考ヘ(拍手)此農民ノ爲ニ深ク私ハ惜ム者デアリマス、是ハ私計シテ申上デマセヌデモ宜シイガ、御參考ノ爲ニ讀ンデモ宜シイ、縣農會トシテ調査書ヲ讀ンデモ宜シイガ、煩雜デアアルカラ申シマセヌ、ソレヨリハ此方ノ方ガ簡單デアリマス、書物ニ書イタル所ヲ此際申シタガ明カデアルト考ヘル、私ガ調査シタル稅制委員會ニテ申上デタル、荒唐無稽ノ事ヲ論議スルガ如ク言ハレタ方モアルケレドモ、實ハ非常ナ金ヲ費シテ某縣農會ガ調査シタル所ノ材料デアツタデアリ、此書物ハ即チ租稅ノ知識藤澤氏著「英國ニ於テハ特ニ地租ノ名義ニ於テ課税ヲ存シナイ、若シ地租ノ實質ニ於テ我國ノ地租ニ相當スル認メラル、モノヲ需ムレバ、即チ所得稅ニ於テ第一種——土地ノ所得ヨリ生ズル所得及第二種——土地ノ農業ノ利用ヨリ生ズル所得——ノ各所得ニ對スル課税ヲ以テスルコトガ出來ル、佛國ノ地租ハ舊時ノ租稅制度ニ於テハ所謂四大老稅ノ一トシテ革命以來ノ古キ沿革ヲ有シ、而シテ其ノ課稅法ハ土地臺帳ニ記載シタル土地ノ收益ノ課稅ノ標準トスル配賦稅デアツタガ、一九〇七年及一九一四年ノ改正ニ依テ課稅標準ハ土地ノ普通ノ賃賃收益ヨリ其ノ五分ノ一ヲ扣除シタルモノニ依リテ之ヲ定率稅ニ改メタ、然レニ一九一七年ニ於テ分類所得稅ヲ制定スルト共ニ即チ從來ノ地租制ハ當然ニ廢止ニナツタ、伊太利ノ事ハ先程申述ベマシタカラ申上デマセヌ、獨逸及米國ニ於テハ從來ヨリ一般ノ地租ノ制定ヲ有シナイ、獨逸ノ各聯邦特ニ普國ニ於テハ夙ニ地租ノ制度ヲ有シテ居タノデアリマス、千八百九十九年ニ於テ之ヲ地方公共團體ノ財源ニ委讓シテ、亞米利加ニ於テハ取テ居ラナイ、獨逸ハ地方ニ委讓シテ居ル、年是ハ人民ノ租稅觀念ガ發達スルニ伴レマシテ、不公平ナル税金ヲ出スト云フコトハ、誰モ喜ンデ出ス者ハアリマセヌ、年々之ヲ

改メサス方法ヲ取テ行カナレバナラヌ、課税ノ標準、經濟事情、生産狀態等皆各地各樣ニ異ナル故ヲ以テ、ドウシテモ各地方各町村毎ニ年々決定スルト云フヤウニナラナレバ、到底公平ニハナラナイ、ソレハ「プロシヤ」ガ町村ニ地租ヲ委讓シテ理由書ニモアリマスガ、煩雜ヲ避ケ此際ハ申シマセヌガ、實際全國の二統一シタル地租制度ヲ行フ見テモ行ヘナイ、是ハ宜シク地方ニ委讓シテ地方ノ財源ニ宛テ、地方ニ於テ今日ノ戶數割ノ如ク會議ノ上決定シ、此煩雜ナル手續ヲ國家ハ免レテ、サウシテ地方ノ自治團體ノ資源ニ供スルコトヲ以テ、最も進歩シタル政治ノ致アルト私ハ信ズル(ヒヤ)「拍手」之ヲ以テ我ガ日本國ガ新ニ試ミル所ノ「政友會」ガ如何ニモ國體ヲ破壞セントスルガ如キ言動ヲ爲シテ、稅源ガ無いノドウデアルトカ、財源ガ無いノニ徒ニ地方人民ヲ愚ニスルモノデアルト宣傳スル人ガアルケレドモ、是ハ私ハ能ク各國ノ租稅制度ト對照シテ然レ後ニ言フベキ由アルト思フ(拍手)唯、昔カラ農民ハ税金ヲ出スガ當然デアルト、斯様ニ農民ヲ愚ニスタル傳統的ノ政治ヲ致ス所ノ因習ニ因ハレタル人ノ説デアルト思フ(拍手)私ハ農民ノ爲ニ看過スルコトハ出來ナイ、斯様ニ私ハ考ヘテ居ル、各國ノ地租ヲ調ベテ見ルト、前申シタル通りデアルト、實際踏込デ地方ノ財源ガ如何ニ枯渴シテ居ルカト云フコトヲ考ヘテ見マシタナラバ、先日誰カハ「プロシヤ」ガ地租ヲ取ルヤウニシタト言ハレタガ、地租ヲ取ルヤウニシタカモ知レナイ、即チ賠償金ヲ出スガ爲ニ國難ニ際會シタカラ地租ヲ委讓シテ居タモノヲ、二三年前ニ之ヲ課税スルコトニナツタカモ知レナイ、斯様ニ國家大難ニ方テハ、茲ニ即チ伸縮自在ナル地租デアアルカラ、中央ニ取ルカモ知ラヌガ、平生ハ地方ノ財源ヲ養フ爲ニ、之ヲ地方ニ移シテ置クガ當然デアルト、是非如何ニ研究シテモ、之ヲ地方ニ委讓スルニ非ザレバ、今日地方ヲ救フコトハ出來ズ、不公平ナル政治ヲ公平ナラシムルコトハ出來ナイ(拍手)農村振興策トハ何ゾ、不公平ナルコトヲ公平ニスルコトデアルト、東北振興トハ何ゾ、東北振興ヲ論ズルコトハ甚ダ私ハ残念ニ感ズル、從來不公平ナル取扱ヲ受ケテ居タカラ、之ヲ公平ニサスノガ振興ノ意味デアルト私ハ多年残念ニ感ジテ居ル

(拍手)斯様ニ意味カラ致シテ、私ハ地租委讓ヲ爲サズシテ、今日ノ地方ヲ救フコトハ出來ナイ、地租委讓ヲ爲サズシテ農村ノ困憊ヲ救フコトハ出來ナイト確信致シマス、斯様ニ無益ナル國費ヲ投ジテ、出來得ザル所ノ法案ヲ實行スルコトスル政府ノ政策ニ對シテハ、賛成スルコトハ出來ナイモノデアルト云フコトヲ特ニ表明致シマス、本案ニ反對スル者デアリマス、何卒諸君ノ御賛成ヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 討論ハ結局致シマシタ、本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤ御諮リ致シマス、第二讀會ヲ開クニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(賛成者 起立)

○副議長(小泉又次郎君) 討論ハ結局致シマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○井本常作君 直ニ本案ノ第一讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(異議ナシ)「反對」ノ聲起ル

○副議長(小泉又次郎君) 反對ノ聲ガアリマス、仍テ起立ニ依テ採決致シマス、井本君ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(賛成者 起立)

○副議長(小泉又次郎君) 起立多數デアリマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、直ニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

土地賃賃價格調查法案 第二讀會(確定議)

(異議ナシ)「ト呼フ者アリ」

○副議長(小泉又次郎君) 別ニ御發議ガナイヤウデアリマスカラ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ

日程第六、獸醫師法案ノ第一讀會ヲ開キマス、高田政府委員

第六 獸醫師法案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

獸醫師法案 (小字及ハ貴族院修正)

獸醫師法

第一條 獸醫師ヲタムトスル者ハ農林大臣ノ免許ヲ受ケ獸醫師名簿ニ登錄ヲ受ケテハシ

獸醫師ノ免許ヲ受クルニハ左ノ各號ノ一二該當スル資格ヲ有スルコトヲ要ス

一 大學令ニ依ル大學ニ於テ獸醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者、東京帝國大學農學部獸醫學實科ヲ卒業シタル者又ハ官立公立ノ專門學校若シテ文部大臣カ之ト同等以上ト認メ指定シタル學校ニ於テ獸醫學ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

二 獸醫師試驗ニ合格シタル者

三 外國ノ獸醫學學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ獸醫師ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ法令ノ規定ニ該當スル者

第一項ノ登錄及前項第二號ノ獸醫師試驗ニ關スル事項ハ法令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 農林大臣ハ左ノ各號ノ一二該當スル者ニ對シテハ獸醫師ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス

一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 未成年者、禁治產者又ハ準禁治產者

三 精神病者、聾者、啞者又ハ盲者

第三條 農林大臣ハ左ノ各號ノ一二該當スル者ニ對シテハ獸醫師ノ免許ヲ爲ササルコトヲ得

一 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

二 獸醫師ニ關シ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ不正ノ行爲アリタル者

第四條 獸醫師ハ自ら診察セシテ診斷書處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セシテ檢案書若ハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス但シ診察中死産シタル場合ニ交付スル死産診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 開業ノ獸醫師ハ診察又ハ治療ノ需アリ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

獸醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書、檢案書又ハ死産證書ヲ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 獸醫師ハ診察簿ヲ備ヘ三年間之ヲ保存スヘシ

第七條 獸醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位、稱號及專門科名ヲ除クノ外其ノ技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 獸醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣獸醫師會ヲ設立スヘシ

道府縣獸醫師會ハ日本獸醫師會ヲ設立スルコトヲ得

道府縣獸醫師會ハ日本獸醫師會ノ會員トス

道府縣獸醫師會及日本獸醫師會ハ法人トス勅令ノ定ムル所ニ依リ獸醫學衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

道府縣獸醫師會ハ道府縣ヲ、日本獸醫師會ハ内地ヲ區域トス

第九條 道府縣獸醫師會及日本獸醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十條 本法ニ規定スルモノノ外道府縣獸醫師會及日本獸醫師會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 獸醫師第二條各號ノ一二該當スルトキハ農林大臣ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

獸醫師第三條各號ノ一二該當スルトキハ農林大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第二號又ハ第三號ノ原因止ミタルトキ又ハ改後ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ爲スコトヲ得

農林大臣第二項ノ處分ヲ行フ場合及改後ノ情顯著ナル者ニ對シ前項ノ再免許ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 獸醫師ノ免許ヲ受ケスシテ其ノ業務ヲ爲シタル者

二 業務停止中ノ獸醫師ニシテ其ノ業務ヲ爲シタル者

三 第四條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者

第十三條 第五條又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

獸醫師免狀規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前獸醫師免狀ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ獸醫師ノ免許ヲ受ケ獸醫師名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ未成年

者タルノ故ヲ以テ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得ス
本法施行前交付シタル獸醫假免狀ハ本法施行後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス
前項ノ假免狀ノ有效期間ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得
本法ノ規定ハ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニ付之ヲ準用ス
本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ獸醫免狀ヲ受ケタル資格ヲ有スル者及本法施行後十二年內ニ從前ノ規定ニ依リ獸醫免狀ヲ受ケタル資格ヲ得タル者ハ第一條第二項ノ規定ニ拘ラズ獸醫師ノ免許ヲ受ケタルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ未成年者タルコトヲ妨ケス
本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

○政府委員(高田松平君登壇)
○政府委員(高田松平君) 提案ノ理由ヲ極メテ簡單ニ說明致シマス、獸醫師ニ關スル現行法律タル獸醫免許規則ハ、明治二十三年ノ制定ニ係リテ居リマス、故ニ畜産界ノ發達ニ伴ハナイ點が多クゴザイマスカラシテ、其改正ノ要望ハ去ル五十議會ニ於キマシテ、請願トシテ或ハ建議トシテ本院ニ現レタノゴザイマス、其請願及建議ノ趣旨ニ依リマシテ、今回獸醫師法ヲ制定致サントスルノデゴザイマス、改正ノ第一點ハ現行法ニ於テハ獸醫師ノ免許資格ハ、農業學校程度ニ依リ獸醫學ヲ卒業シタル者ニ、免許資格ヲ與ヘタノデゴザイマスガ、我が畜産界ノ現況並ニ獸醫學ノ進歩ニ鑑ミマシテ、專門學校卒業程度ニ改メルノ必要ナルノデゴザイマス、獸醫師ノ向上ト其衛生ノ發達ヲ圖ラントスル爲ニハ、獸醫師ノ團體的活動ヲ俟ツ所ガ極メテ大ナルモノガアルノデゴザイマス、故ニ獸醫師會ヲ設ケシムルノ必要ガアルノデアリマス、仍テ是等ノ事項ニ關スル規定ヲ設ケマシテ、獸疫衛生ノ改良發達ヲ圖リ、以テ我が畜産業ノ振興ニ資セントシテ茲ニ法律案ヲ提出シタルノデゴザイマス、本案ニ對シマシテ貴族院ニ於キマシテ、政府原案ニ對シ、第四條及附則

ノ第八項ニ修正ヲ加ヘタノデゴザイマス、サリナガラ此修正ハ何レモ本案ノ改正ノ根本ニ觸レテ居ルモノデハゴザイマセスカラ、政府ハ此修正ヲ以テ大體支障ナキモノト看做シテ居ルノデゴザイマス、以上ノ通りデゴザイマスカラ、御審議ノ上ニ速ニ協議ヲ與ヘラレマスコトヲ望ミマス(拍手)
○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス——高橋熊次郎君

○高橋熊次郎君 此獸醫師法案ハ四五日前カラ日程ニ上リタガ、其儘働キニナリタガ案デアリマス、而シテ時刻モ既ニ六時三十分ヲ過ぎ、吾々ハ空腹ヲ感ジテ居ルノデアリマス、然ルニモ拘ラズ斯ノ如キ畜産發展上ニ於テ大ナル效果ノアルト云フ重大ナル法案ガ、突如トシテ茲ニ現ハレテ來ルト云フコトハ、吾々ハ不可思議ニ感ズルノデアリマス、而シテ吾々ハ御承知置キノ通り、各派ニハ議事係ト云フソレリ、機關ガアツテ、ドノ法案ガ日程ニ上リ、ドノ議案ガ議題ニ供セラル、ト云フ順序ガ定メラル、本日ハ此程度ヲ以テ打切ルトカ、色々ナ打合せガアツタト云フコトハ諸君ガ分、テ居ル通りデアアル、今日ハ此法案ガ日程ニ上ラスト云フノデ、吾々モ其積リデ居タルノデアリマス、然ルニモ拘ラズ、何等打合せモナクシテ、突如トシテ斯ル重大ナル法案ガ茲ニ現ハレルト云フコトハ、吾々ハ不思議ニ堪ヘナイ、諸君ハ或ハ政府當局者ニ於テモ、又議事ヲ進行スル方面ノ人ニ於テモ、農事上ノ諸法案ト云フモノハ、一向注意ヲ惹イテ居ナイヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス、重大視シテ居ラヌヤウナ模樣ガアルヤウニ吾々ハ感ジテ居ル、吾々農村ニ生活スル者ニ於テ、殊ニ農事ハ國家ノ大事ナリト考ヘテ居ル者ニ在リテハ、遺憾ヲ禁ジ能ハスノデアリマス、斯ノ如ク致シテ政府ハ果シテ國務ニ盡心ヲササバ、或ヤ否ヤト云フコトヲ、私ハ責任アル國務大臣ニ問ハントスル者デアリマス、本日ナドモ色々重要ナル法案ガ日程ニ載リテ居ルニモ拘ラズ、之ヲ審議スルコトヲ爲サズシテ、徒ニ何ノ何某ノ懲罰事犯ヲ本日日程ニ上ボストカ何トカ言フテ、懲罰事犯バ眼中大切ニ思フテ、法律案ヤ其他ノ建議案等ハ眼中ニ無イコトヲ考ヘタルノデアリマス、斯ノ如キコトガ國務ヲ進行スル上ニ於テ、政府ハ遺憾ナリト思ハ

ナイカ、或ハ又議員ノ多數ガ、提出シヤウト致シテ日程ノ變更等ヲ求メタ法案ニ對シテハ、突如トシテソレヲ遮ギルヤウナコトヲ爲サルト云フヤウナコトハ、私ハ議長ニモ遺憾ノ點ガアルノデハナイカト思ハレルノデアリマス、左様デアリマスルガ故ニ、私ハ此法案ハ成ベク簡單ニ之ヲ質問ヲ致シタイト思フ、テ居タルアリマスレドモ、諸君ハ農事上ノ事、殊ニ畜産上ノ事ハ餘リニ輕ク取扱ハレルモノデナイカト思フ、ソレガ故ニ少シク丁寧ニ質問ヲ致シタイト斯様ニ考ヘル、畜産ガ如何ニ國家ニ必要ナルカト云フ所以ヲ明ニシタイト、斯様ニ考ヘル次第デアリマス、相變ラズ農林大臣ヤ次官ノ出席ガ無ク、高田參事官ノ出席サレテ居ルヤウデアリマスガ、併ナガラ高田參事官ハ海ニ農事ニ熱心ナ方デアリマスカラシテ、私ハ質問ヲ致シテモ明快ナル御答辨ヲ得ルト思フノデアリマスガ、一二問質疑ヲ試ミテ、後ハ大臣ノ御出席ヲ仰ギタイト斯様ニ考ヘテ居リマス(拍手)ドウカ議長ニ於カレトシテ壇上ノ農林大臣ノ出席ヲ求メラレリマス、此獸醫師法案ヲ御提出ニ相成タノハ、之ニ依リテ獸醫師ナル者ノ素質ヲ向上致シ、又學識ノ向上ヲ圖リ、而シテ之ニ依リテ獸醫師ノ權利ヲ明ニシ、又義務モ相當ニ負ハセヤウト云フヤウナコトニ承タノデアリマス、而シテ此法律ヲ見マスルト、又只今ノ御意思ニ依リテ見マスルト、權利ノ方ト云フモノハ海ニ薄イヤウニ感ゼラレル、形式ニ於テハ權利ハ相當認メラレテ居ルヤウデアリマスケレドモ、實質ニ於テハ此法律ニ依リテ期待サレル所ノ獸醫師ノ權利ト云フモノハ、確的ニ認メラレルヤ否ヤト云フコトハ、疑問ニ相成テ居ルノデアリマス、然シテ義務ノ方ニ於テハ、隨分過重ナル義務ヲ負ハシメルヤウニ思ハレルノデアリマス、即チ此法案ノ如何ニ思ハレルマスカ、未項ニアリマス所ノ十三條ニ「第五條又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ料二處ス」斯ウ云フコトガアル、其第五條ト云フノハドウ云フ事デアアルカト云フ「開業ノ獸醫師ハ診察又ハ治療ノ需ムル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス」ト斯ウ云フ規定ガアルノデアリマス、又第二項ニハ「獸醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ

事由ナクシテ診斷書、檢案書又ハ死產證書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス」斯ウ云フコトガ若シ起リマシタラバ、百圓以下ノ罰金ニ處セラレル、斯様ナコトニ相成、テ居ルノデアリマス、是ガ重イカ輕イカト云フヤウナコトハ、之ヲ他ノ比較法デアアル所ノ醫師法、或ハ齒科醫師法、藥劑師法ト云フモノト比較對照致サナケレバ相成ラヌト、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、而シテ醫師法ニ於キマシテハ、斯様ナ場合ニ於テハ如何ナル罰則ガアルカト云フト、二十五圓以下ノ罰金、斯ウ云フヤウナコトニ相成ルト私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、或ハ齒科醫師法デモ二十五圓以下ト云フコトニ相成テ居ル、又藥劑師ノ方面ニ於テモ斯ウ云フ嚴重ナ規定ハ無カト思フ、能クハ記憶シマセ下デアタラウト思フ、能クハ記憶シマセヌガ、此獸醫師法案ニ於テ始メテ百圓ト云フヤウナ過重ナル罰金又ハ料ト云フコトニ相成テ居ルノデアリマス、斯ウ云フコトデアリマス、何ガ故ニ動物ノ診療ヲ致ス所ノ獸醫ガ、人間ヲ取扱フ所ノ醫師、齒科醫師、藥劑師ヨリモ重ク之ヲ罰シナケレバナラナイカト云フコトガ、私ノ第一ノ疑問デアアルノデアリマス、人間ノ命ト云フモノハ、ソレハ一樣デアリマセウ、國務大臣デアラウガ、參事官デアラウガ、或ハ守衛ノ諸君デアラウガ、給仕デアラウガ、小使デアラウガ、命ニハ變リハナイノデアリマスケレドモ、動物ニ於テハ左様ニハ參ラヌノデアリマス、動物ニ於テハ左様ニハ參ラヌノ價値ト云フモノガアル、左様デアリマスカラ只デ賞ヲモ要ラナイト云フヤウナモノモアルシ、何万圓ト云フヤウナモノモアルダラウト思フ、能ク世ノ中ニ問題ニナシテ居ル所ノ露西亞ノ犬ナド、云フモノハ隨分値打ガアル、十萬圓ト斯ウ云フヤウナ「ライオン」デアアルカ、或ハ又下デ蓄鹿デアルトカ云フヤウナ色々ナ方モアリマスケレドモ、人間ノ價値トシテハ同ジデアアルノデアアル、動物ハサウ云フコトニハ參ラヌノデアリマス、左様デアリマスカラシテ、私ハ一ツノ動産トシテノミ取扱ハレル此動物ヲ取扱フ所ノ獸醫師ガ、人間ノ命ヲ取扱フ所ノ醫師、齒科醫師、其他ノ者ト非常ナ茲ニ逕庭ノアルト云フコトハ、私ハ是ハ諒解ニ苦シムノデアアル、何ガ故ニ獸醫師ニノミ

事由ナクシテ診斷書、檢案書又ハ死產證書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス」斯ウ云フコトガ若シ起リマシタラバ、百圓以下ノ罰金ニ處セラレル、斯様ナコトニ相成、テ居ルノデアリマス、是ガ重イカ輕イカト云フヤウナコトハ、之ヲ他ノ比較法デアアル所ノ醫師法、或ハ齒科醫師法、藥劑師法ト云フモノト比較對照致サナケレバ相成ラヌト、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、而シテ醫師法ニ於キマシテハ、斯様ナ場合ニ於テハ如何ナル罰則ガアルカト云フト、二十五圓以下ノ罰金、斯ウ云フヤウナコトニ相成ルト私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、或ハ齒科醫師法デモ二十五圓以下ト云フコトニ相成テ居ル、又藥劑師ノ方面ニ於テモ斯ウ云フ嚴重ナ規定ハ無カト思フ、能クハ記憶シマセ下デアタラウト思フ、能クハ記憶シマセヌガ、此獸醫師法案ニ於テ始メテ百圓ト云フヤウナ過重ナル罰金又ハ料ト云フコトニ相成テ居ルノデアリマス、斯ウ云フコトデアリマス、何ガ故ニ動物ノ診療ヲ致ス所ノ獸醫ガ、人間ヲ取扱フ所ノ醫師、齒科醫師、藥劑師ヨリモ重ク之ヲ罰シナケレバナラナイカト云フコトガ、私ノ第一ノ疑問デアアルノデアリマス、人間ノ命ト云フモノハ、ソレハ一樣デアリマセウ、國務大臣デアラウガ、參事官デアラウガ、或ハ守衛ノ諸君デアラウガ、給仕デアラウガ、小使デアラウガ、命ニハ變リハナイノデアリマスケレドモ、動物ニ於テハ左様ニハ參ラヌノ價値ト云フモノガアル、左様デアリマスカラ只デ賞ヲモ要ラナイト云フヤウナモノモアルシ、何万圓ト云フヤウナモノモアルダラウト思フ、能ク世ノ中ニ問題ニナシテ居ル所ノ露西亞ノ犬ナド、云フモノハ隨分値打ガアル、十萬圓ト斯ウ云フヤウナ「ライオン」デアアルカ、或ハ又下デ蓄鹿デアルトカ云フヤウナ色々ナ方モアリマスケレドモ、人間ノ價値トシテハ同ジデアアルノデアアル、動物ハサウ云フコトニハ參ラヌノデアリマス、左様デアリマスカラシテ、私ハ一ツノ動産トシテノミ取扱ハレル此動物ヲ取扱フ所ノ獸醫師ガ、人間ノ命ヲ取扱フ所ノ醫師、齒科醫師、其他ノ者ト非常ナ茲ニ逕庭ノアルト云フコトハ、私ハ是ハ諒解ニ苦シムノデアアル、何ガ故ニ獸醫師ニノミ

事由ナクシテ診斷書、檢案書又ハ死產證書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス」斯ウ云フコトガ若シ起リマシタラバ、百圓以下ノ罰金ニ處セラレル、斯様ナコトニ相成、テ居ルノデアリマス、是ガ重イカ輕イカト云フヤウナコトハ、之ヲ他ノ比較法デアアル所ノ醫師法、或ハ齒科醫師法、藥劑師法ト云フモノト比較對照致サナケレバ相成ラヌト、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、而シテ醫師法ニ於キマシテハ、斯様ナ場合ニ於テハ如何ナル罰則ガアルカト云フト、二十五圓以下ノ罰金、斯ウ云フヤウナコトニ相成ルト私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、或ハ齒科醫師法デモ二十五圓以下ト云フコトニ相成テ居ル、又藥劑師ノ方面ニ於テモ斯ウ云フ嚴重ナ規定ハ無カト思フ、能クハ記憶シマセ下デアタラウト思フ、能クハ記憶シマセヌガ、此獸醫師法案ニ於テ始メテ百圓ト云フヤウナ過重ナル罰金又ハ料ト云フコトニ相成テ居ルノデアリマス、斯ウ云フコトデアリマス、何ガ故ニ動物ノ診療ヲ致ス所ノ獸醫ガ、人間ヲ取扱フ所ノ醫師、齒科醫師、藥劑師ヨリモ重ク之ヲ罰シナケレバナラナイカト云フコトガ、私ノ第一ノ疑問デアアルノデアリマス、人間ノ命ト云フモノハ、ソレハ一樣デアリマセウ、國務大臣デアラウガ、參事官デアラウガ、或ハ守衛ノ諸君デアラウガ、給仕デアラウガ、小使デアラウガ、命ニハ變リハナイノデアリマスケレドモ、動物ニ於テハ左様ニハ參ラヌノ價値ト云フモノガアル、左様デアリマスカラ只デ賞ヲモ要ラナイト云フヤウナモノモアルシ、何万圓ト云フヤウナモノモアルダラウト思フ、能ク世ノ中ニ問題ニナシテ居ル所ノ露西亞ノ犬ナド、云フモノハ隨分値打ガアル、十萬圓ト斯ウ云フヤウナ「ライオン」デアアルカ、或ハ又下デ蓄鹿デアルトカ云フヤウナ色々ナ方モアリマスケレドモ、人間ノ價値トシテハ同ジデアアルノデアアル、動物ハサウ云フコトニハ參ラヌノデアリマス、左様デアリマスカラシテ、私ハ一ツノ動産トシテノミ取扱ハレル此動物ヲ取扱フ所ノ獸醫師ガ、人間ノ命ヲ取扱フ所ノ醫師、齒科醫師、其他ノ者ト非常ナ茲ニ逕庭ノアルト云フコトハ、私ハ是ハ諒解ニ苦シムノデアアル、何ガ故ニ獸醫師ニノミ

ニハ、醫者ノ方ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處セラレ、獸醫ノ方ハ二百圓以下ノ罰金ニ處セラレト云フコトニナルト、下男ノ生命ヨリハ此犬ノ生命ガ大切ダト云フ斯フ云フコトニ法ハナルト思フ、サウ云フコトニ齟齬ヲ來スガ故ニ、私ハ家畜ナルモノ、定義ヲ嚴密ニシナケレバナラス、面シテ一方ニ於テハ、ソレデアアルカラ馴スコトガ出來ルトカ、或ハ繁殖性ヲ持ッテ居ルモノモアリ、或ハ今ノ畜産學ノ原則カラ言フト、繁殖シタモノガ又馴化スルコトガ出來ルト云フコトヲ言、テ居ルヤウデアリマスケレドモ、ソシナコトヲ以テ此獸醫師ヲ律スルコトノ基礎ニ致シタラ、將來隨分面倒ナ問題ガ起ルデハナイカト吾々ハ考ヘテ居ル、殊ニ一方ニハ獸醫學ヲ進シテ居フモノハ、日進月歩、駁々ト云フコトハ、獸醫學カラ省イテ居ルヤウデアルケレドモ、諸外國ニ於テハ水産モ亦獸醫學ノ中ニ……

「議長定數ガ缺ケテ居リマス」「議長計算シナサイ」「只今計算シマシタガ足りマセヌ」「ト呼ヒ其他發言スル者多シ」

○高橋熊次郎君（續）「ソレデ私ハ家畜ノ定義ガ分ラヌト云フヤウナコトヲ非常ニ……」

「憲政會ハ五十三人シカ居リマセヌ」

ト呼ヒ其他發言スル者多シ」

○高橋熊次郎君（續）「發言ガ多クテ私ハ今日咽喉ヲ痛メテ居ルカラドウカ御靜ニナルヤウニ議長ニ願ヒマス（憲政會ハ五十三、政友會ハ五十、ドウシテ是デ足りリマスカ）ト呼フ者アリ」

○副議長（小泉又次郎君）「只今調査中デアリマス——定足數ヲ缺クノ虞レアリト認メマス、仍テ本日ハ是ニテ延會ヲ致シマス

午後七時六分散會